

第7章 資料編（案）

資料編の構成

I 各種調査の結果・人口統計

1. 子どもからの意見聴取結果
2. 配慮や支援を必要とする子どもの保護者アンケート結果報告
3. 京丹後市議会子どもの権利に関するアンケート調査結果
4. 京丹後市の人口推移・推計
5. 京丹後市の世帯の状況
6. 仕事と家庭の両立
7. 母子保健の状況と課題
8. ニーズ調査結果からみる子どもと子育て家庭の状況

II 用語解説

III 策定経過

1. 策定体制
2. 審議会等の開催経過
3. 諮問・答申
4. パブリック・コメントの結果

I 人口統計・各種調査の結果

1 子どもからの意見聴取結果報告

(1) 目的

子どもの生活実感に根ざした課題認識、地域に対する評価、居場所やまちづくりへの参加の在り方に関するニーズを多面的に把握し、計画策定に向けた基礎資料とすることを目的に実施しました。

(2) 意見聴取の取組概要

手法	実施時期	対象	主な内容
アンケート調査	令和7年9月～10月	小学5・6年生、 中学生、高校生	校種別の傾向、悩みや相談、 居場所、意見表明の経験など を幅広く把握
出前講座	令和7年7月～12月	小学5・6年生、 中学生、高校生	背景や理由、具体的な改善提 案、対話を通じた気づきを把 握

(3) アンケート調査の回答状況

① 調査対象・配布数・回答状況

区分	配布数	回答数	回答率
小学5・6年生	786 件	458 件	58.3%
中学生	1,116 件	966 件	86.6%
高校生	977 件	811 件	83.0%
合計	2,879 件	2,235 件	77.6%

② 回答者の属性

区分	回答件数	男	女	その他
小学5・6年生	458 件	234 件	213 件	11 件
中学生	966 件	466 件	483 件	17 件
高校生	811 件	409 件	390 件	12 件
合計	2,235 件	1,109 件	1,086 件	40 件

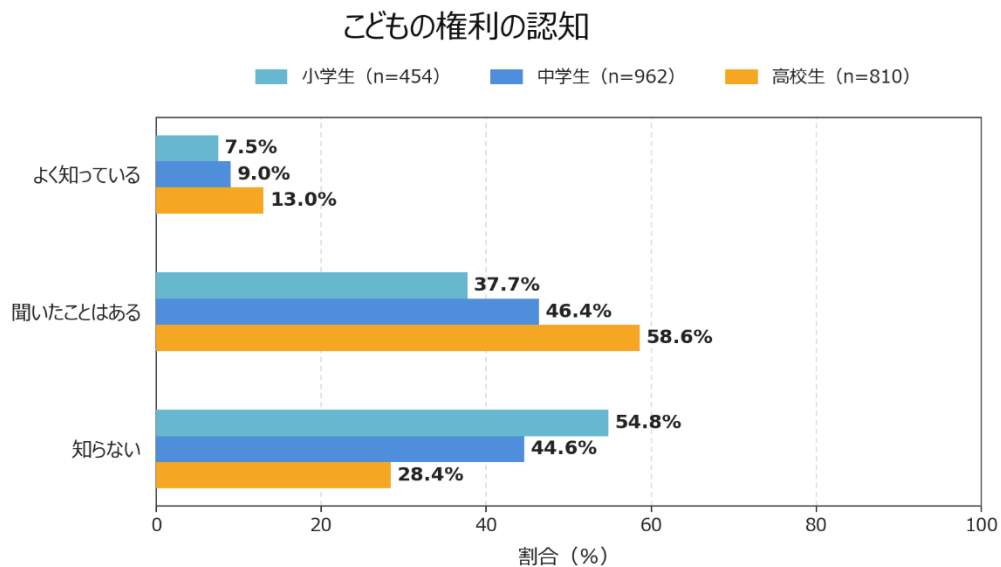
※高校生には京丹後市外在住の回答者を含みます。

地域	小学生	中学生	高校生	合計
峰山町	139 件	225 件	211 件	575 件
大宮町	30 件	206 件	133 件	369 件
網野町	122 件	211 件	135 件	468 件
弥栄町	58 件	87 件	59 件	204 件
丹後町	17 件	66 件	72 件	155 件
久美浜町	92 件	171 件	122 件	385 件
京丹後市外	－	－	79 件	79 件

(4) アンケート結果の詳細

① こどもの権利の認知

【問】 こどもには大切な「こどもの権利」があります。あなたは「こどもの権利」を知っていますか。



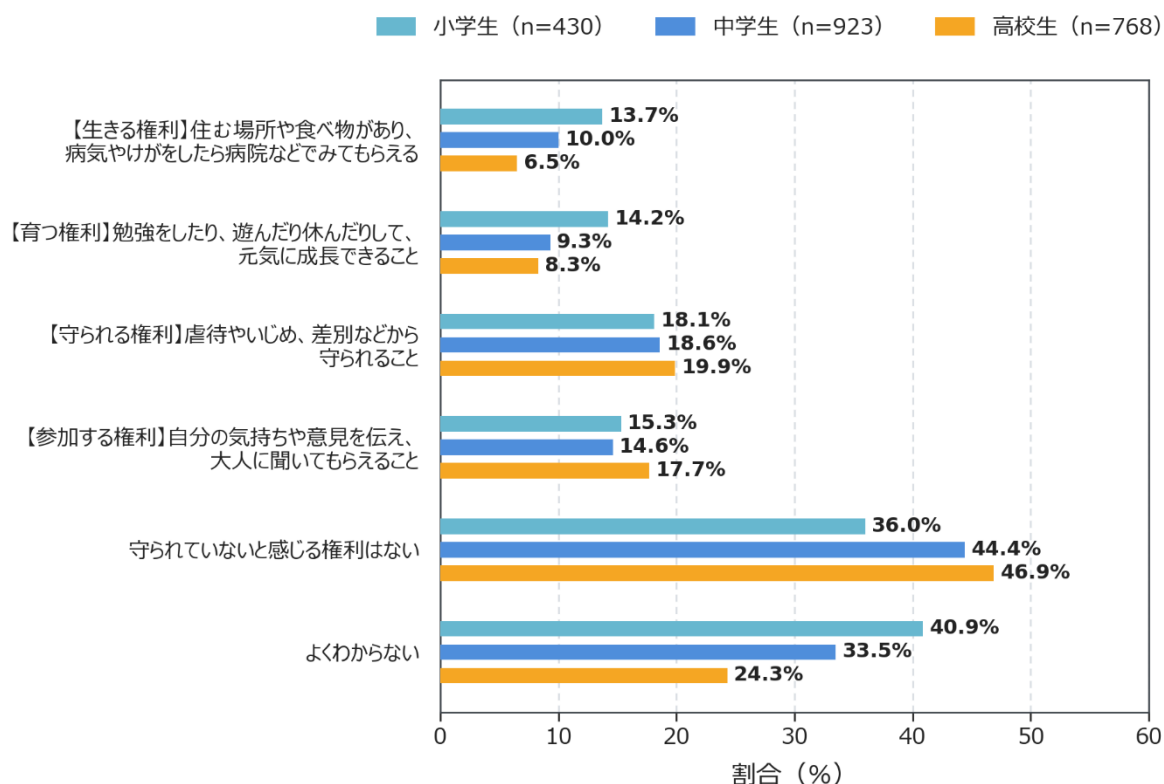
「よく知っている」は小学生 7.5%、中学生 9.0%、高校生 13.0%にとどまっています。一方、「知らない」は校種が上がるにつれて減少しますが、高校生でも内容まで理解している割合は低い状況です。

② 守られていないと感じる権利

【問】「こどもの権利」は大きく分けると4つあります。あなたやあなたのまわりで、守られていないと思う「こどもの権利」を選んでください。

※あてはまるものすべてを選んでください。

守られていないと感じる権利



「守られていないと感じる権利はない」と答えた層が各校種で最も多い一方で、「守られる権利」や「参加する権利」が守られていないと感じる層も一定数存在します。

特に中高生では、「守られる権利」に加え、「参加する権利」についても相対的に高い割合がみられており、いじめ対応や意見聴取の機会など、具体的な場面と結びつけた施策を考えていくことが重要です。

【問】どんな場面で「こどもの権利」が守られていないと感じましたか。（自由記述）

主なカテゴリ	件数	主な内容
いじめ・差別・虐待・暴力	小 22 件 中 35 件 高 30 件	いじめ、差別、虐待、暴言、SNS 上のいじめなどで子どもが傷つけられていると感じる声。
意見を聞いてもらえない・大人の押し付け	小 6 件 中 20 件 高 23 件	大人や先生、親の意見が優先され、自分の気持ちを言いにくい、話を聞いてもらえないと感じる声。
遊び・学び・休息の不足	小 7 件 中 14 件 高 9 件	遊ぶ場所が少ない、学校生活の中でつらさを感じる、学ぶ機会や休む時間に関する声。
生活・医療・家庭環境	小 12 件 中 14 件 高 6 件	食事、病院、お金、家庭の状況など、生活の基盤に関する声。

<小学生の主な声>

- 友達がいじめられているところを見たとき
- いじめられているのに、なかなか解決しないとき
- 学校で、暴言によって傷ついている人がいるとき
- 大人が子どもの話を聞いていないと感じたとき
- 嫌なことやつらいことを親に話したくても、話す勇気が出ないとき
- 戦争のため、外国で学習できない子どもたちがいること

<中学生の主な声>

- いじめられていても、大人に守ってもらえないとき
- 大人が規則を守ることを重視し、子どもの意見を反映してくれないとき
- 言いたいことを伝えても受け止めてもらえず、話を聞いてもらえないとき
- 「女子だからやってはいけない」と言われたとき
- 学校のルールが昔から変わらず、今のままでよいと思えないとき

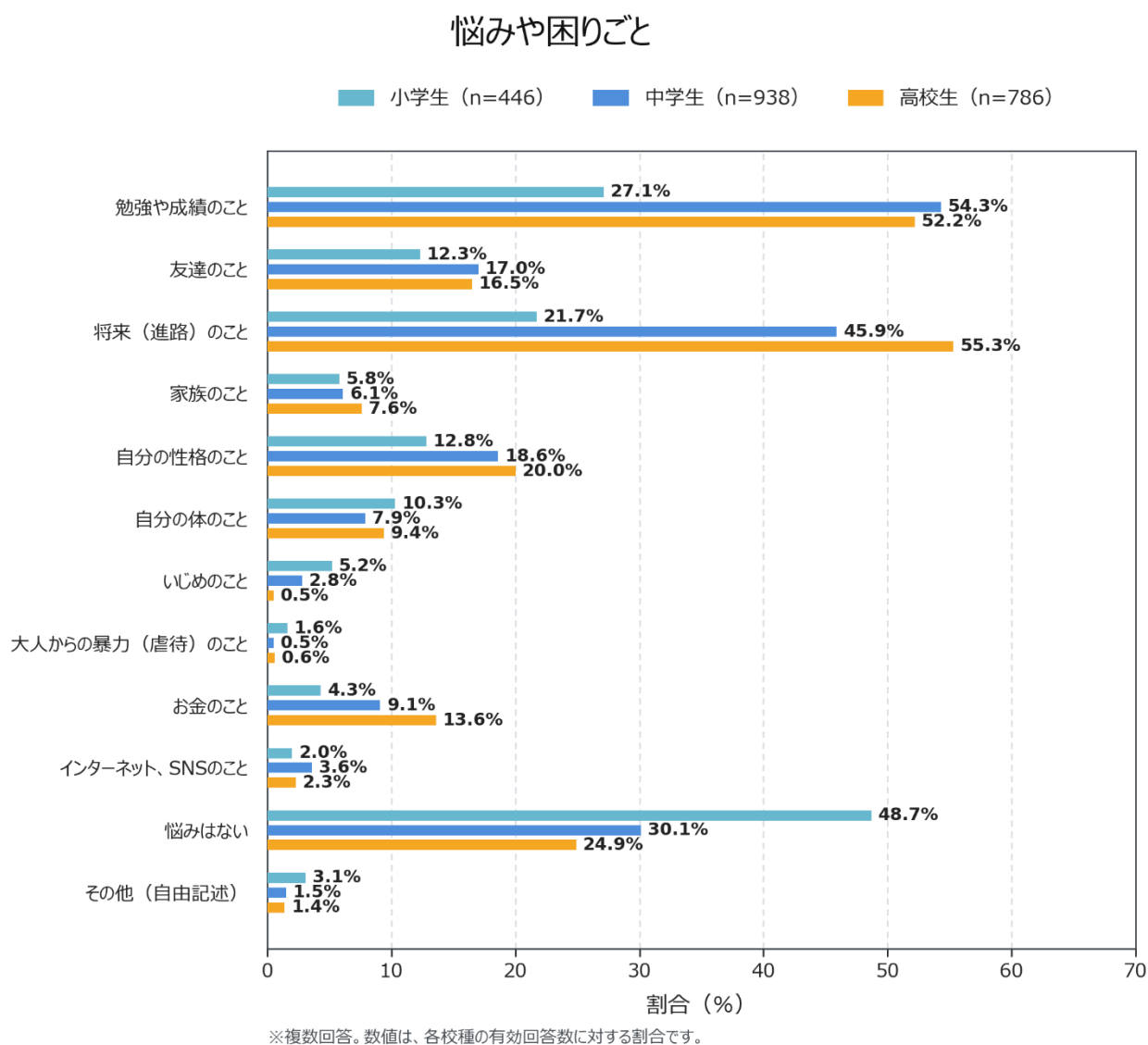
<高校生の主な声>

- いじめを相談しても、大人が対応してくれなかったとき
- 学級などで孤立している人がいるとき
- 大人の価値観や事情によって、子どもの意見を否定されたとき
- 大人中心で物事が決められ、子どもの意見が採用されにくいと感じたとき
- 子どもの意見を伝える場や機会がないこと
- ルールを守って遊んでいても迷惑だとされ、自由に遊べる場所がないと感じたとき
- 貧困によって生活が難しい人がいること

③ 悩みや困りごと

【問】あなたは悩んでいることや困っていることがありますか。

※あてはまるものすべてを選んでください。



（自由記述）

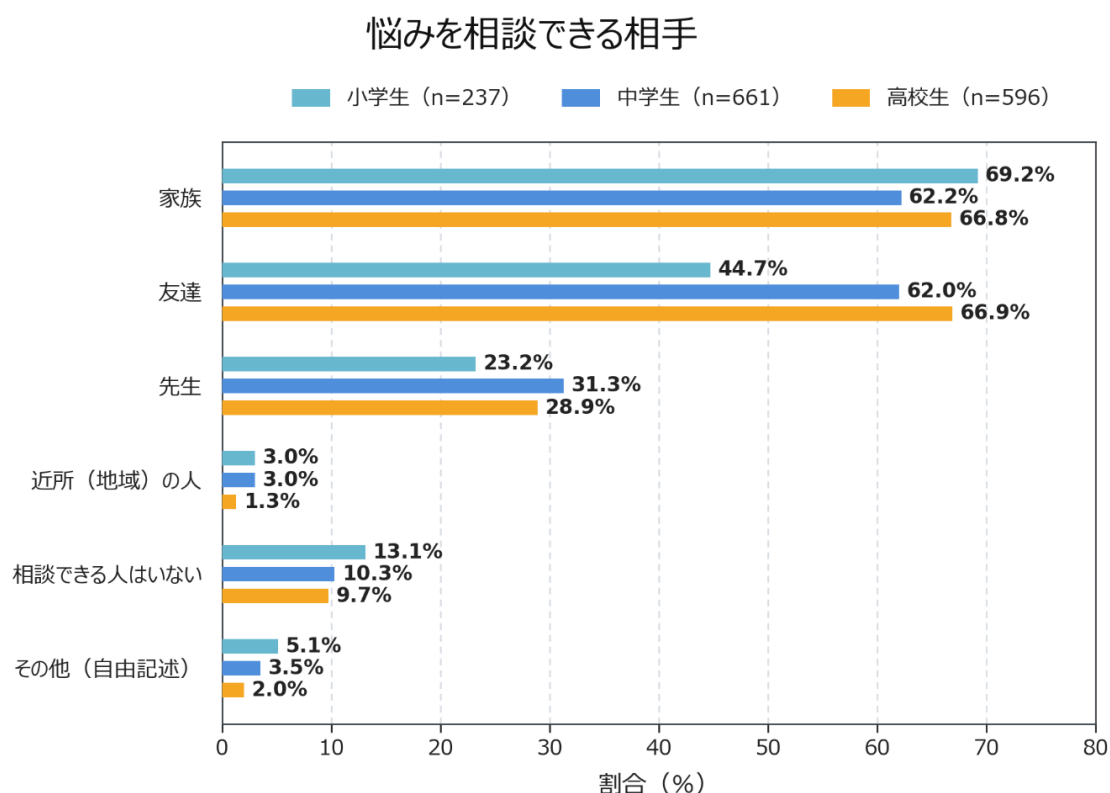
- 部活動のこと（中・高）
- 勉強と部活動を両立できるか（高）
- 睡眠時間が足りない（高）
- 学校の先生のこと（小・高）
- 人間関係のこと（高）
- 自分の気持ちのこと（小）
- 将来の就職先のこと（高）
- ゲームをする時間を制限されていること（小）
- 災害など、考えても仕方がないことまで考えてしまう（小）

小学生では「悩みや困りごとはない」が 48.7%で最も高い一方、中学生では「勉強や成績」、高校生では「将来のこと」が最も高くなっています。校種が上がるにつれて、学業や将来に関する悩みが増えています。

④ 悩みを相談できる相手

【問】 その悩みを相談できる人は誰ですか。

※あてはまるものすべてを選んでください。



（自由記述）

- インターネットやゲームで知り合った友達(小・中)
- ChatGPT などの AI に話を聞いてもらう(中・高)
- 塾の先生や先輩(中・高)
- スクールカウンセラーや病院の人(高)
- 自分で解決する。あまり相談しない(中・高)

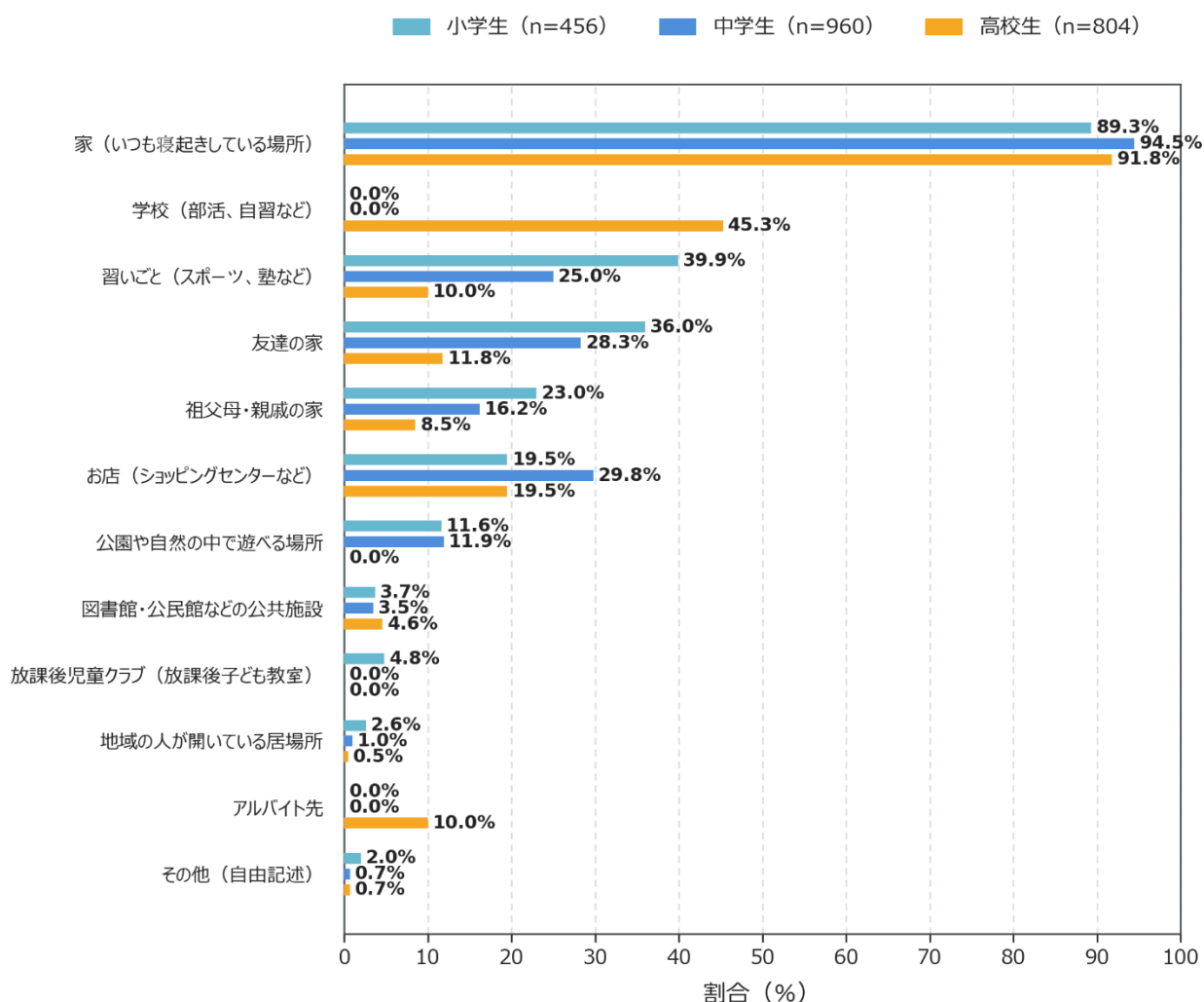
いずれの校種も「家族」と「友達」が主な相談相手となっています。小学生は家族、中学生・高校生は友達の割合が高く、校種による違いがみられます。一方、約 1 割は「相談できる人はいない」と回答しています。

⑤ 放課後・休みの日の過ごし場所

【問】あなたは放課後や学校が休みの日に、どんな場所ですごすことが多いですか。

※とくにあてはまるもの3つまで選んでください。

放課後・休みの日の過ごし場所



（自由記述）

- 学校のグラウンドや体育館、部活動の場所(小・中)
- 海、山、川などの自然の中(中)
- ゲームセンター(中)
- 友達と遊ぶ場所(高)

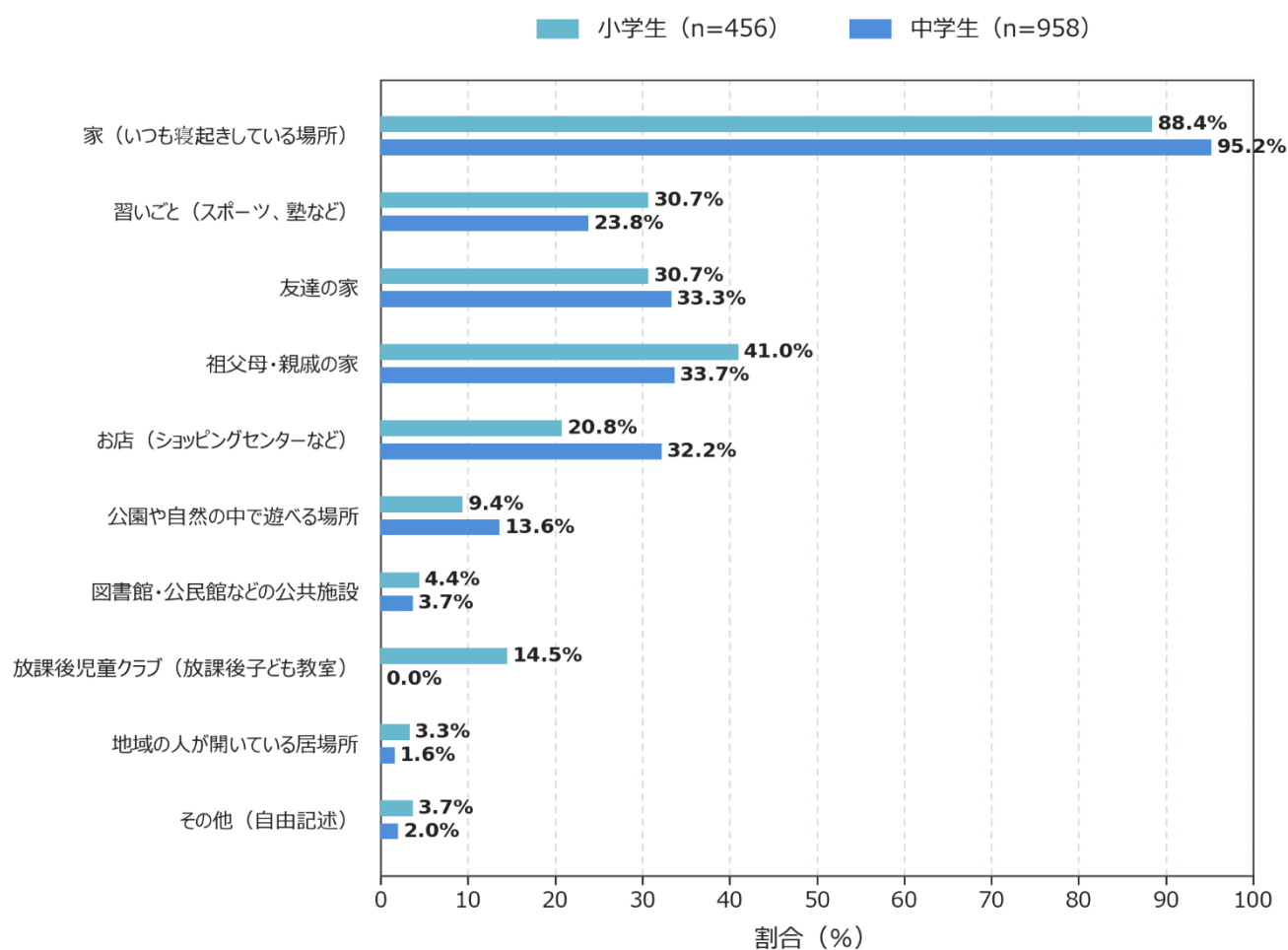
「家」がすべての校種で約 9 割を占め、最も一般的な過ごし場所となっています。このほか、小学生は習い事や友達の家、中学生は店や友達の家、高校生は学校で過ごす割合が比較的高くなっています。

⑥ 長期休暇の過ごし場所

【問】あなたは夏休みなどの長いお休みのとき、どこですごすことが多いですか。

※とくにあてはまるもの3つまで選んでください。

長期休暇の過ごし場所



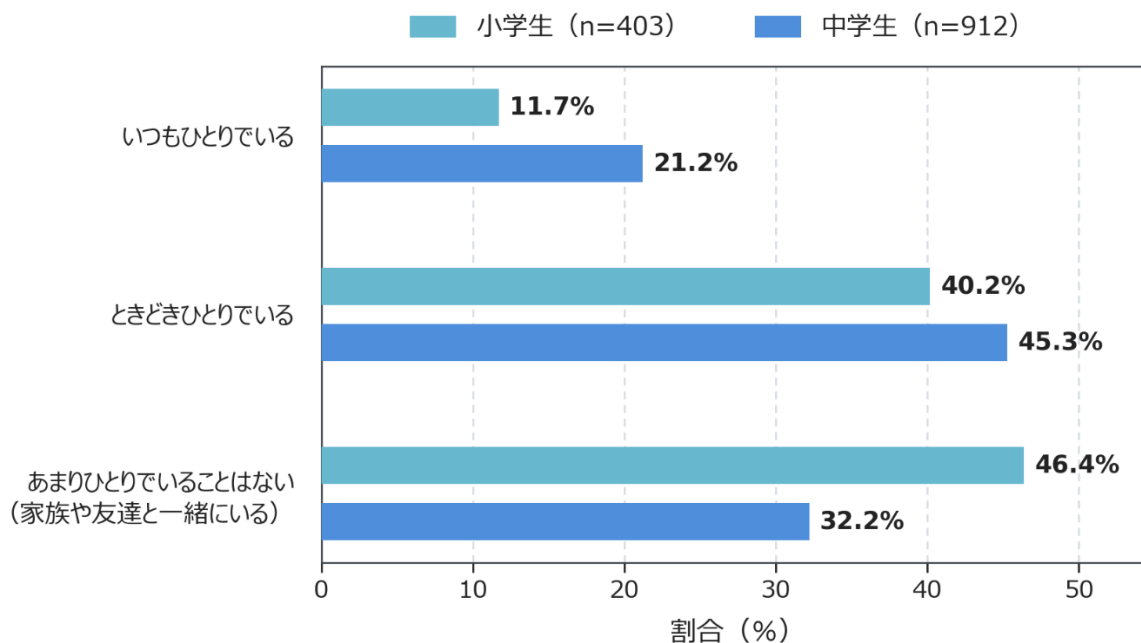
（自由記述）

- 旅行先やホテル(小・中)
- ほかの県や地域(小・中)
- 海や釣り場、屋外(小・中)
- 学校や部活動の場所(小・中)
- 親のお店(小・中)
- 夏休みは放課後児童クラブ、冬休みや春休みは家(小)

小学生、中学生ともに「家」が約 9 割と最も高くなっています。小学生では祖父母の家が 41.0%、中学生では友達の家が 33.3%、店が 32.2%となっており、家以外の過ごし場所には違いがみられます。

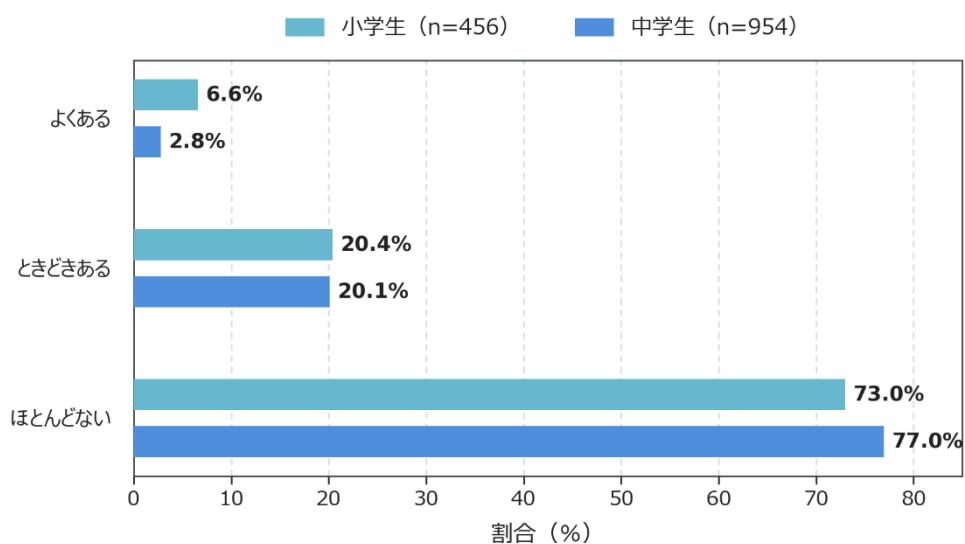
【問】「家（いつも寝起きしている場所）」を選んだ人におたずねします。あなたは夏休みなどに家で過ごすとき、ひとりでいることが多いですか。

家でひとりでいること



【問】あなたは夏休みなど長いお休みのとき、さみしいと感じることはありますか。

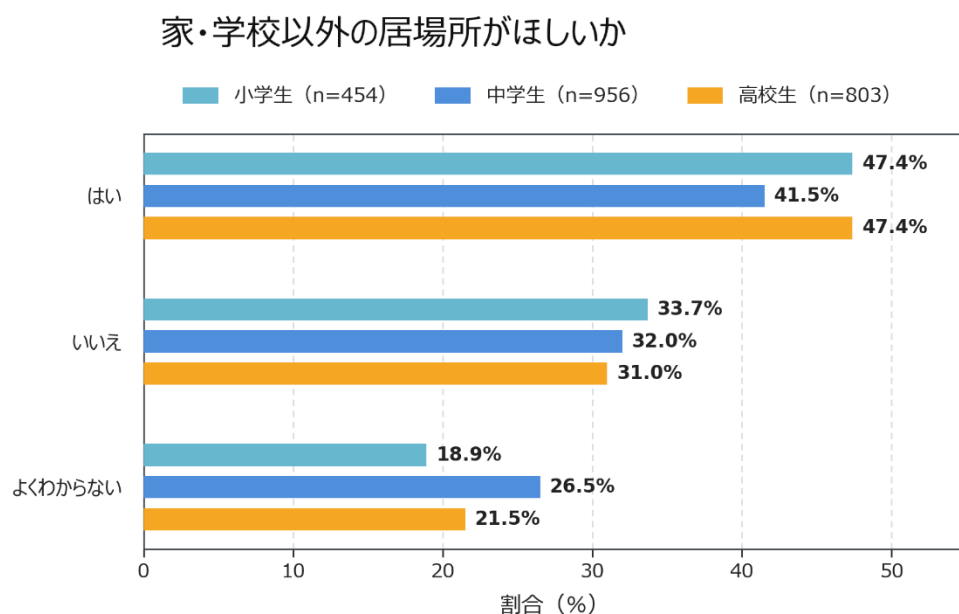
長期休暇中のさみしさ



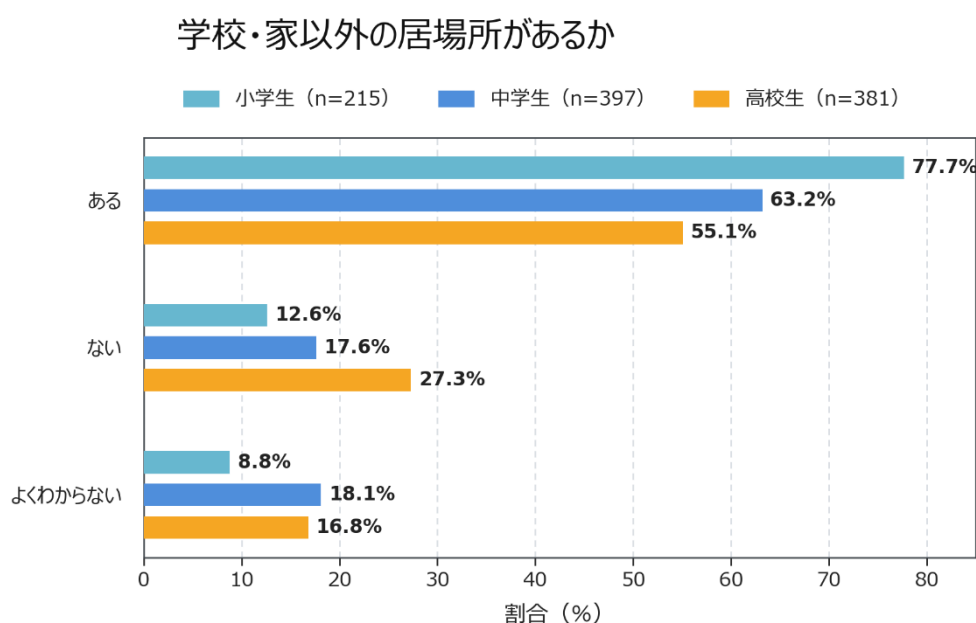
長期休暇中に家で過ごす人のうち、「いつもひとり」は小学生 11.7%、中学生 21.2%でした。さみしさを感じるかという問いでは、「よく感じる」と「ときどき感じる」を合わせると、小学生は 27.0%、中学生は 22.9%となっています。

⑦ 家・学校以外の居場所

【問】あなたは家（いつも寝起きしている場所）や学校以外に、「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所がほしいですか。

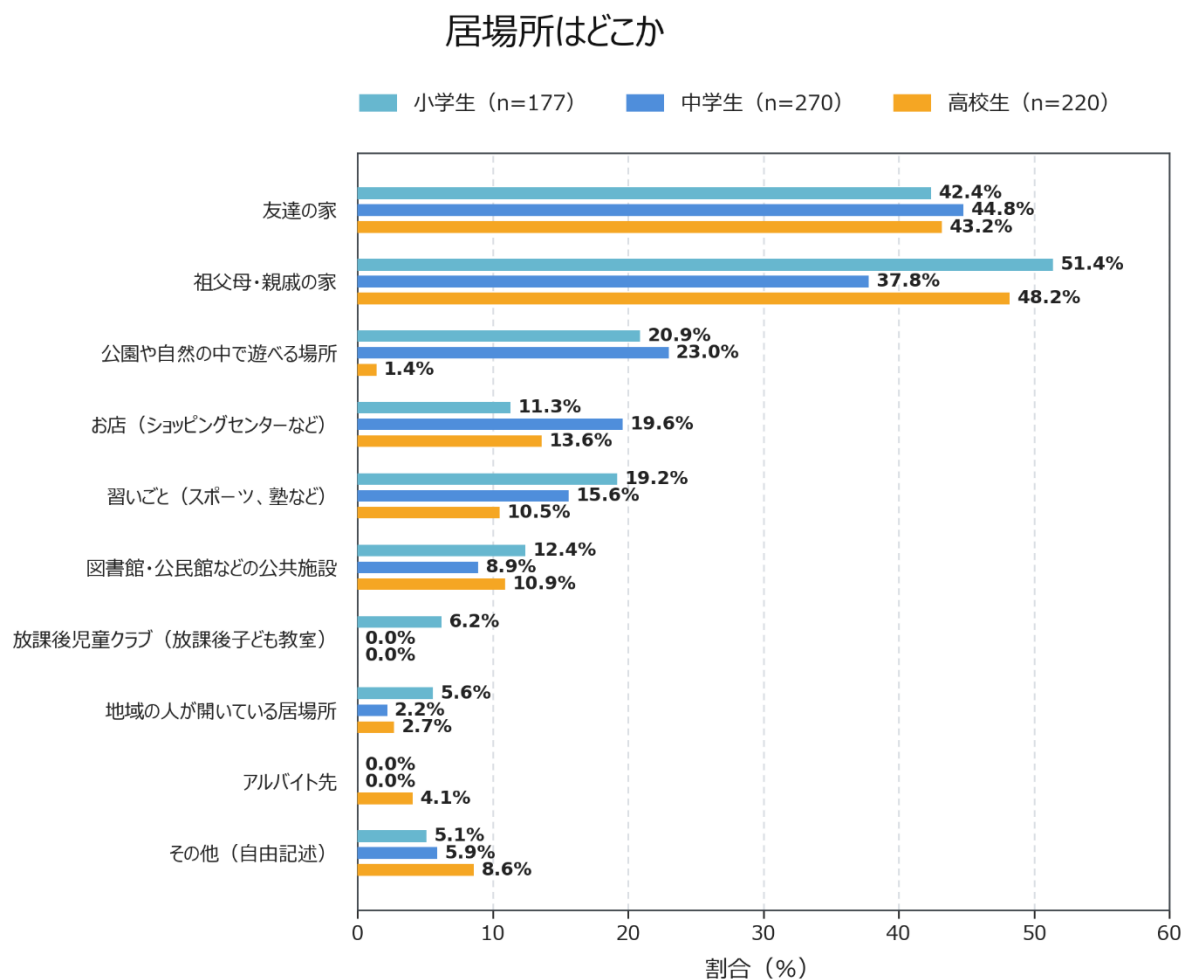


【問】「はい」と答えた人におたずねします。あなたは家（いつも寝起きしている場所）や学校以外に、「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所がありますか。



「ほしい」は小学生と高校生で 47.4%、中学生で 41.5%となり、いずれの校種でも 4 割を超えています。そのうち、居場所が「ある」は小学生 77.7%、中学生 63.2%、高校生 55.1%でした。

【問】家（いつも寝起きしている場所）や学校以外に、「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所が「ある」と答えた人におたずねします。それはどこですか。
※とくにあてはまるもの3つまで選んでください。



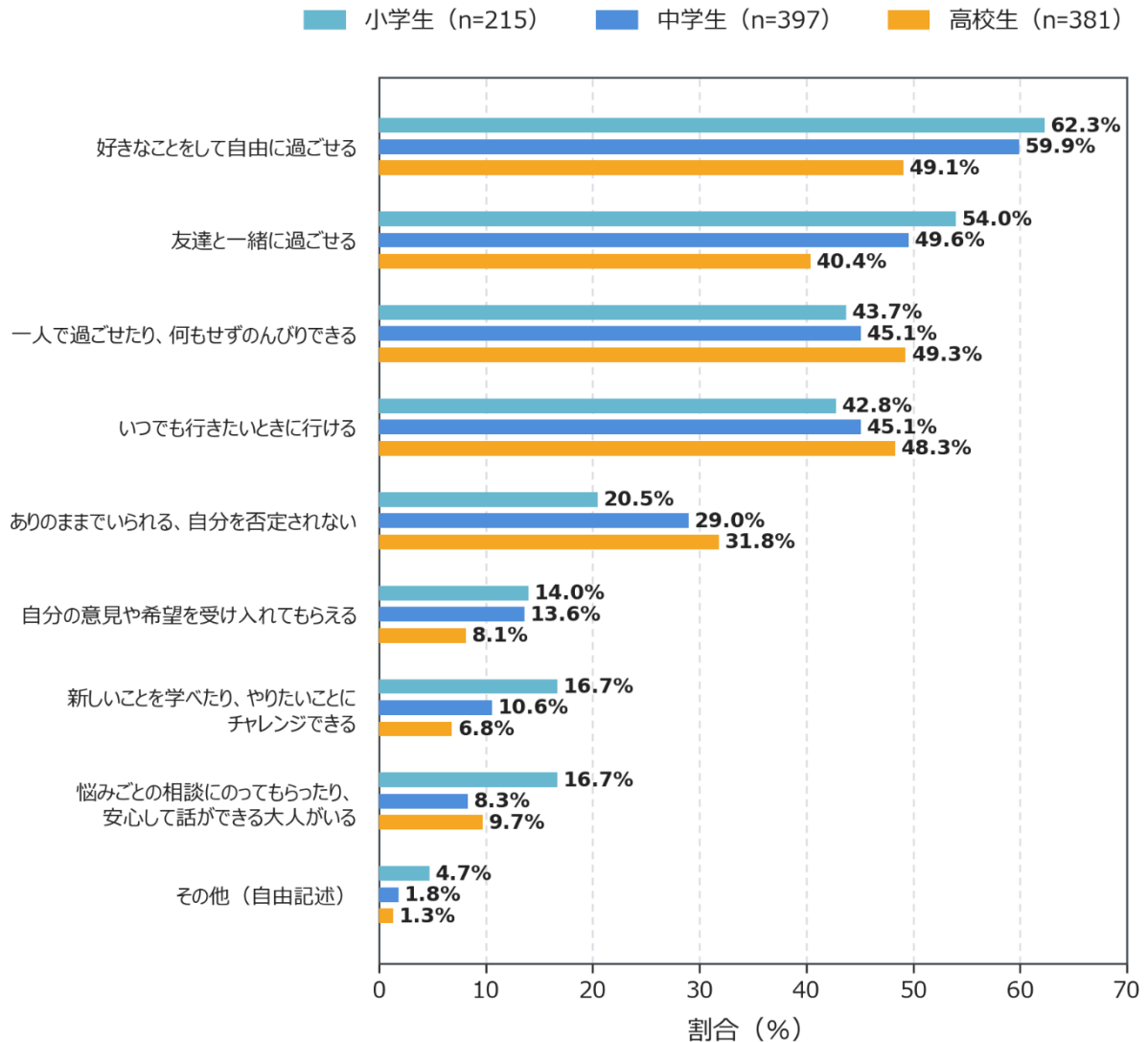
（自由記述）

- 静かで、漫画がたくさんあり、くつろげる場所(小)
- 自然の中で一人で落ち着ける場所(小)
- 海や川、森、景色のよい場所(中・高)
- 音楽室、部室、体育館、テニスコート(小・中)
- 自習室(高)
- インターネットで会話できるコミュニティ(中)
- ゲーミングスペース(高)
- 神社やお寺、静かな屋外(高)

主な居場所は「祖父母の家」と「友達の家」で、小学生と高校生では祖父母の家、中学生では友達の家が最も高くなっています。一方、図書館・公民館などの公共施設や地域の人が開いている居場所は全校種で低くなっています。

【問】あなたが「ここに居たい」「居心地がよい」と感じる場所はどこですか。
※とくにあてはまるもの3つまで選んでください。

求める居場所の条件



（自由記述）

- 体を動かして、ストレスを発散できる(小)
- 窮屈ではなく、のびのびできる(小)
- 普段あまり話さない人とも楽しく話したり、勉強したりできる(小)
- 自分の話を聞いてもらえる(中)
- 一人になれる(中)
- 一年中、時間を気にせず利用できる(高)
- 集中して勉強できる(高)
- 眠ったり、ぼーっとしたりできる(高)
- 自然の中で過ごしたり、釣りをしたりできる(小・中・高)

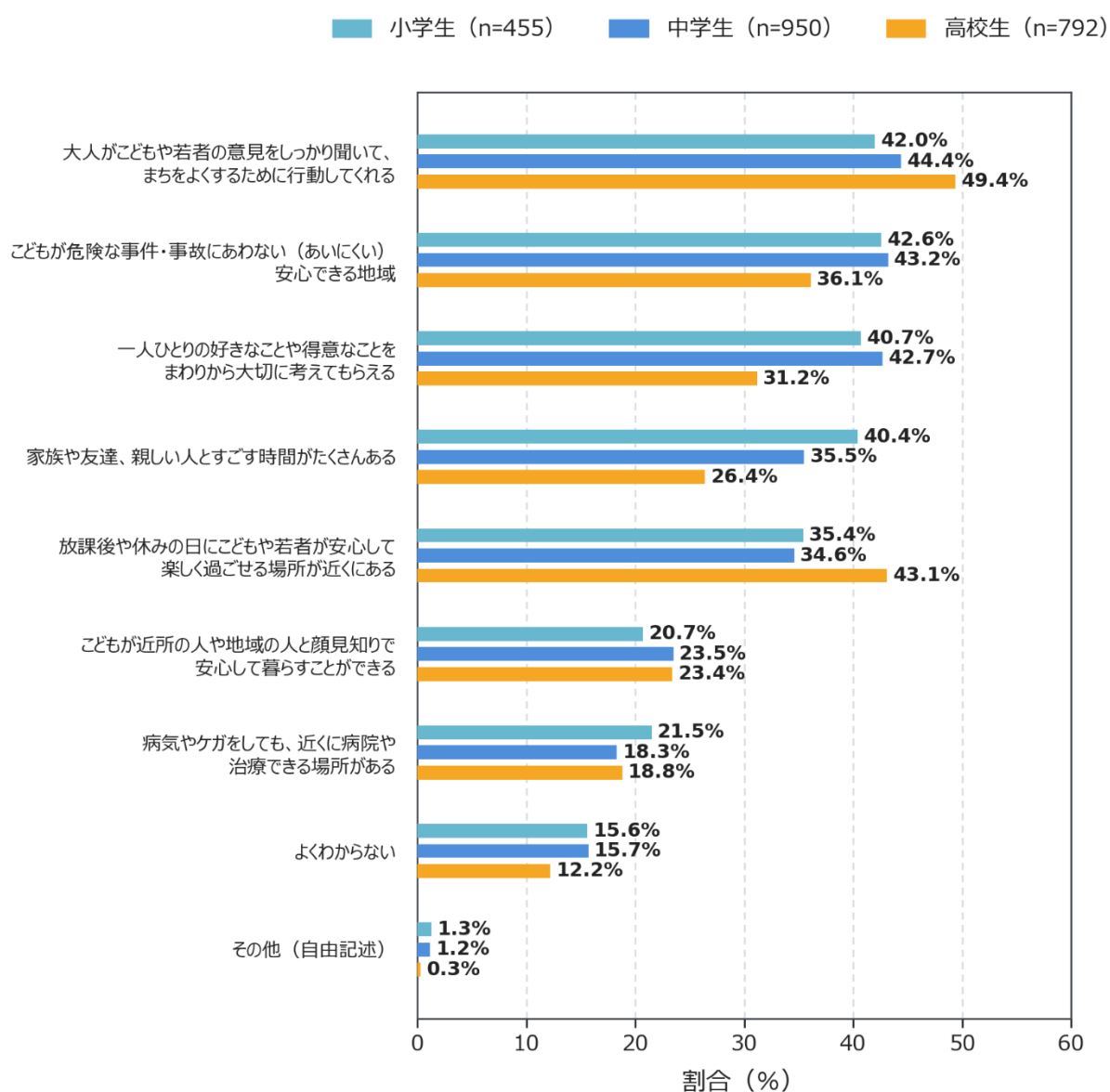
小・中学生では「好きなことを自由にできる」が最も高く、高校生では「一人で過ごしたり、何もせずのんびりできる」が最も高くなっています。自由さや落ち着き、利用しやすさが共通して重視されています。

⑧ こどもまんなかのまちのイメージ

【問】京丹後市では、こどもたちみんなが幸せに暮らせる「こどもまんなかのまち」を目指しています。あなたは「こどもまんなかのまち」と聞いてどんなことをイメージしますか。

※とくにあてはまるもの3つまで選んでください。

こどもまんなかのまちのイメージ



(自由記述)

- 大人が子どもの権利を奪わず、子どもの意見を尊重するまち(小)
- 大人も子どもも、お互いに分かり合えるまち(小)
- 新しいことを学んだり、挑戦したりできるまち(小)
- 子どもが自由に行動できるまち(中)
- 子どもが誰からも大切にされるまち(中)
- みんなが自信を持って未来へ進めるまち(中)
- 若い人が住みやすいまち(中)
- 子どもを優先して考えてくれるまち(高)
- 平和で、戦争や危険のないまち(小)

「子どもの意見を大人が聞き、行動してくれる」は校種が上がるにつれて高くなり、高校生では49.4%となっています。また、高校生では「近くに安全で楽しく過ごせる場所がある」も43.1%と高くなっています。

【問】京丹後市について、「もっとこうなったらいいな」「もっとこうしてほしい」と思うことがあれば教えてください。例：○○のようなイベントを増やしてほしい など
(自由記述)

主なカテゴリ	件数	主な内容
イベント・体験・交流	小 91 件 中 97 件 高 62 件	祭り、イベント、ライブ、地域交流、特別な体験、留学やキャンプなど、楽しみや学びにつながる機会を求める声。
遊び場・居場所	小 39 件 中 80 件 高 25 件	遊び場、室内施設、公園、スポーツ施設、映画館など、友達と過ごしたり体を動かしたりできる場所を求める声。
商業・飲食・買い物	小 19 件 中 79 件 高 22 件	ショッピングモール、コンビニ、飲食店、カフェ、若者向けの店など、身近に行ける店を求める声。
交通・移動	小 4 件 中 15 件 高 29 件	バス・電車の利便性、駅、自転車で通れる道、歩道、街灯など、移動しやすさや安全に関する声。
学び・学校・進路	小 12 件 中 17 件 高 16 件	図書館、自習スペース、学校施設、体育館の空調、授業や部活動、進路に関する声。
安全・安心・環境	小 11 件 中 10 件 高 6 件	事故や事件の防止、ごみの減少、駅や公園の整備、暗い場所への街灯設置などの声。

<小学生の主な声>

- 祭りや季節ごとのイベントを増やしてほしい。
- 子どもから大人まで一緒に楽しめるイベントを開催してほしい。
- 公園や遊具、雨の日でも遊べる室内の遊び場を増やしてほしい。
- 遊園地、水族館、ゲームセンター、スポーツ施設などがほしい。
- お店や飲食店を増やしてほしい。
- 地域の人や他の学校の子ともと交流できる機会を増やしてほしい。
- 交通事故や事件がなく、安心して遊べるまちにしてほしい。
- ごみ拾いや海岸清掃など、まちをきれいにする取組を進めてほしい。
- 子どもの意見を聞き、実際の取組につなげてほしい。

<中学生の主な声>

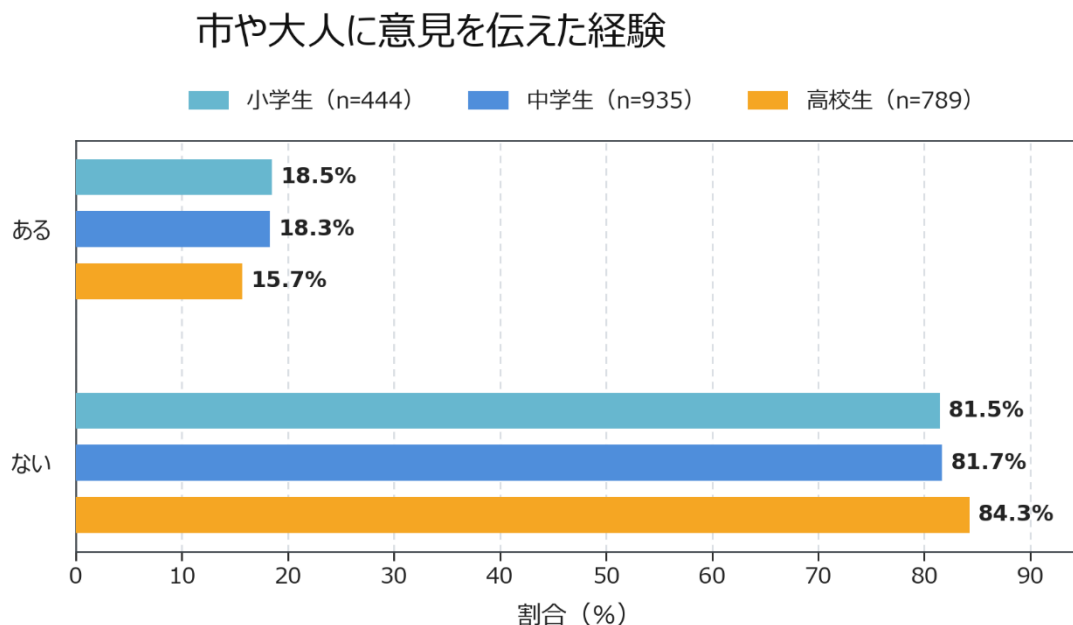
- 中高生が友人と遊んだり、集まったりできる場所を増やしてほしい。
- 雨の日でも利用できる室内の遊び場やアミューズメント施設がほしい。
- ショッピングモール、映画館、ゲームセンターなどがほしい。
- 飲食店、カフェ、コンビニ、衣料品店などを増やしてほしい。
- 中学生や高校生も参加できる祭りや体験イベントを増やしてほしい。
- 地域や他校の人と交流できるイベントを開催してほしい。
- バスや鉄道などの公共交通を利用しやすくしてほしい。
- 自習室や図書館など、勉強したり落ち着いて過ごしたりできる場所がほしい。
- 公園、スポーツ施設、バスケットゴールなどを整備してほしい。
- 子どもの相談に寄り添う窓口や、安心して過ごせる環境を整えてほしい。

<高校生の主な声>

- 音楽フェス、祭り、マルシェなど、若者が楽しめるイベントを増やしてほしい。
- 高校生が遊んだり、友人と過ごしたりできる場所を増やしてほしい。
- 映画館、ショッピングモール、飲食店などを充実してほしい。
- バスや電車の本数を増やし、下校時にも利用しやすくしてほしい。
- 自習室、勉強できるカフェ、図書館などを増やしてほしい。
- 地域の人や世代の異なる人、外国人と交流できる機会を増やしてほしい。
- 街灯、歩道、道路を整備し、安全に移動できるようにしてほしい。
- 子育て支援、授業料の無償化、奨学金などを充実してほしい。
- アンケートで寄せた意見を施策に活用し、何が変わったか分かるようにしてほしい。

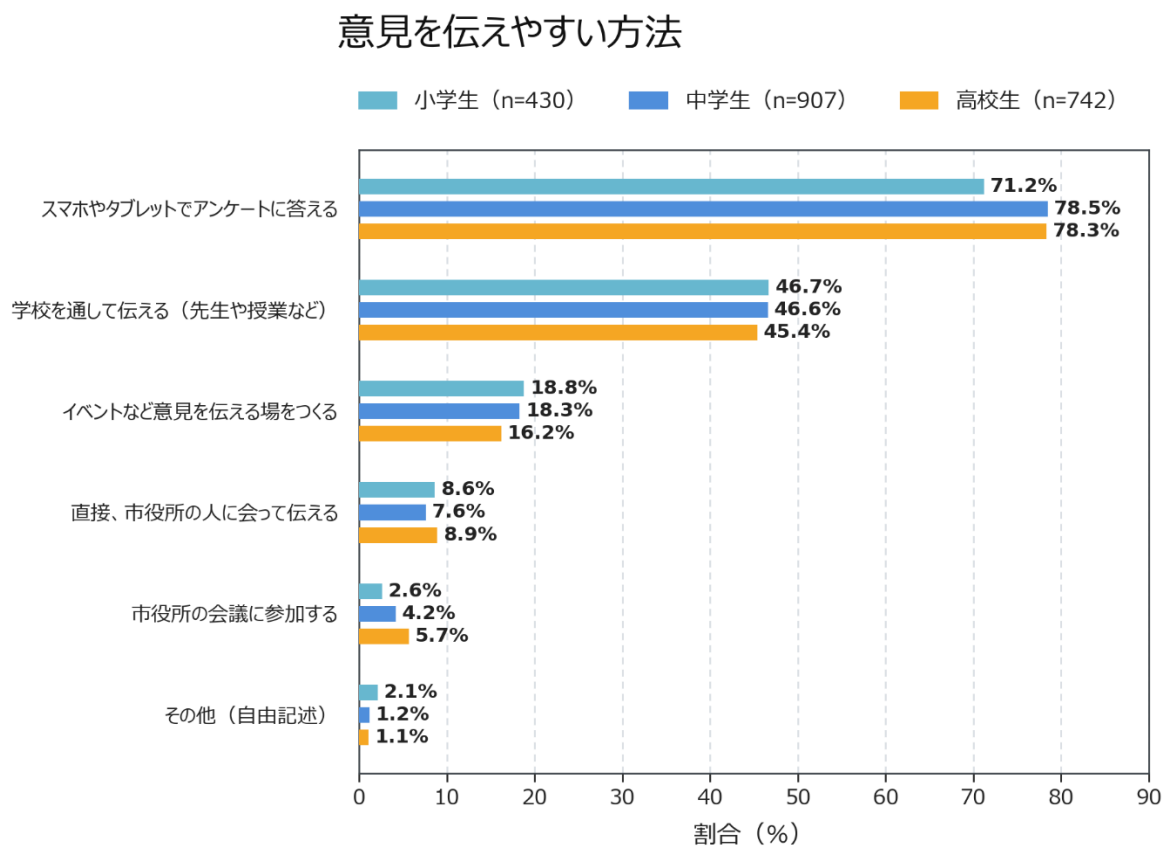
⑨ 市や大人に意見を伝えた経験

【問】あなたは京丹後市に対する自分の考えや意見を市役所の人や大人（先生、地域の人など）に伝えたことはありますか。



【問】あなたはどんな方法であれば京丹後市のことについて、市役所や大人に自分の意見を伝えやすいと思いますか。

※あてはまるものすべてを選んでください。



(自由記述)

- このアンケートのような方法なら伝えやすい(小)
- 匿名で回答できるアンケート(高)
- 意見を書いた紙を入れる箱を置く(中)
- 手紙を封筒で送る(高)
- 家族や友達を通して伝える(小・高)
- 先生や施設の大人を通して伝える(小)
- 意見発表会で伝える(中)
- 高校生の代表が集まり、市役所の人と意見を出し合う(高)
- 匿名で意見を送れる仕組みをつくる(高)

「意見を伝えたことがある」は全校種で2割未満となっており、市や大人へ意見を伝えた経験は限定的です。意見を伝えやすい方法としては、「スマートフォンやタブレットから回答できるアンケート」がすべての校種で7割を超え、最も高くなっています。次いで「学校を通じて伝える」が約半数で、身近で利用しやすい方法が選ばれています。

(5) 出前講座の実施状況

出前講座は、アンケート調査では把握しにくい子どもの生活実感、地域に対する評価、課題の背景、具体的な改善提案を把握するとともに、子ども自身がまちづくりについて考え、意見を表明する機会とすることを目的として実施しました。

番号	種別	学校名	学年	実施日	参加児童生徒数
1	小	しんざん小学校	6 年	令和 7 年 7 月 3 日	33 名
2	小	高龍小学校	6 年	9 月 8 日	30 名
3	小	丹後小学校	5 年	9 月 25 日	29 名
4	小	丹後小学校	6 年	9 月 25 日	70 名
5	小	大宮第一小学校	6 年	11 月 20 日	25 名
6	小	弥栄小学校	6 年	12 月 17 日	24 名
7	中	峰山中学校	3 年	10 月 7 日	86 名
8	中	丹後中学校	1 年	10 月 7 日	32 名
9	中	弥栄中学校	3 年	10 月 8 日	53 名
10	中	久美浜中学校	3 年	10 月 9 日	80 名
11	中	網野中学校	3 年	10 月 24 日	27 名
12	中	大宮中学校	3 年	11 月 5 日	81 名
13	高	峰山高等学校	—	10 月 17 日	15 名
合計			小 211 名・中 359 名・高 15 名		585 名

(6) 出前講座結果の詳細

① 小学生の意見から見えること

小学生の出前講座では、子ども自身の気になることや困りごとを起点に、その解決策を提案するワークショップを実施しました。遊び場・公園・スポーツ施設、道路・歩道、買い物や身近な店舗、子どもが安全に過ごせる環境に関する意見が多くみられた一方で、単に「施設がほしい」という要望だけではなく、「使っていない場所を活用する」「地域で公園を管理する」「道路を整備する」「子どもが安心して育つように町全体で工夫する」といった、身近な資源の活用や地域で支える視点もみられました。

また、出前講座の感想では、「子育ては一人でするものではなく地域で支えるものだと感じた」といった声や、子どもの意見を取り入れようとしていることへの前向きな受け止め、京丹後市を過ごしやすい地域にするために自分たちも協力したいという思いが示されていました。

主なテーマ	小学生の声から見える内容
遊び場・公園・スポーツ	公園、室内で遊べる場所、市民体育館、スポーツ施設など、子どもが自由に体を動かし、友達と過ごせる場への要望が多い。
通学路・道路・安全	歩道を広くしてほしい、道路の幅が狭い、街灯が少ないなど、日常の移動や登下校時の安全に関する声がある。
買い物・身近な施設	本屋、文房具店、駄菓子屋、コンビニなど、子ども自身が利用しやすい身近な店舗や施設を求める声がある。
地域で支える子育て	子育てを地域で支えること、子どもの未来を大人が考えていることへの気づき、自分たちも協力したいという感想がみられる。

② 中学生の意見から見えること

中学生の出前講座では、市全体と校区それぞれについて「好きなところ」と「嫌なところ・課題」を整理し、さらに自分が市長ならどのような取組を行うかを考える形で意見を聴取しました。中学生の意見では、京丹後市の良さとして、自然・景観、食、地域の人のあたたかさ、あいさつや地域とのつながりが多く挙げられています。

一方で、市内の課題としては、買い物・娯楽の不足、交通・移動の不便さ、遊び・娯楽の不足、環境面の課題、少子化・高齢化・過疎などが挙げられました。課題として分類した 650 件のうち、「買い物・娯楽の不足」は 146 件（22.5%）、「交通・移動」は 112 件（17.2%）、「遊び・娯楽の不足」は 67 件（10.3%）でした。

観点	中学生の主な声
市全体の良いところ	自然が豊か、海や山が近い、食べ物がおいしい、地域の人がやさしい、あいさつが多い。
市全体の課題	店や映画館などの娯楽が少ない、電車・バスが不便、遊ぶ場所が少ない、虫・ごみ・獣害などの環境面の課題。
校区の良いところ	地域の人との距離が近い、自然がある、学校や病院など身近な施設がある、地域行事や祭りがある。
校区の課題	買い物・娯楽、交通、施設不足、環境、安全など、生活圏に即した課題が挙げられる。

中学生の提案では、遊び場や商業施設を増やすといった要望だけでなく、地域資源を活かす、空き家や使われていない施設を活用する、交通を便利にする、地域の魅力を発信するなど、地域の課題を自分なりに改善しようとする視点もみられました。

③ 高校生の意見から見えること

高校生の出前講座では、「今の子どもの生活や子育て環境の良いところ・いまいちなところ」「子育てしたい理想のまちのキャッチコピー」「理想のまちを実現するために市長なら何をするか」をテーマに意見を聴取しました。

地域の人の優しさ、地域内の交流、子どもを温かく受け入れてくれる雰囲気、自然の豊かさなどが良いところとして挙げられた一方、遊べる場所や公園が少ない、交通網やバスが少ない、街灯が少なく暗い、防犯カメラが少ない、子どもの意見が届きにくい、いじめや虐待への対策が十分でないと感じる、といった声がありました。

観点	高校生の主な声
良いところ	地域の人優しい、地域の人との距離が近い、交流が多い、自然が豊か、子どもを温かく受け入れる場がある。
いまいちなところ	遊ぶ場所が少ない、公園や遊具に限られる、交通網・バスが少ない、街灯が少なく危ない、意見が届かない。
理想のまち	相談しやすい、安心安全、参加・参画、のびのびと自分の思うように過ごせる、仕事と子育てを両立できる。
市長なら行うこと	交通網を増やす、広くてきれいな公園をつくる、子どもバザール、こどもサミット、子どもの意見を聴く場、空き家を活用した交流施設。

④ 出前講座で寄せられた京丹後市の良いところ

近所の人親切	地域で声をかけてもらえる	静かで過ごしやすい
海や山が近い	地域のつながりがある	海がきれい
みんなが仲が良い	自然が豊か	安心して暮らせる
空気がきれい	自然が豊か	景色がきれい
山が近い	地域の人やさしい	山が近い
人があたたかい	あいさつが多い	見守りがある
祭りや地域行事がある	のどかで落ち着く	星空がきれい
安全な感じがする	食べ物がおいしい	ゆったりしている
ふるさとらしさがある	自然の中で遊べる	地域の雰囲気がよい

⑤ 出前講座で寄せられた京丹後市の悪いところ

道がせまい 街灯が少なくて危ない 公園に草が多い
 若者が遊べる場所が少ない 映画館や商業施設が少ない
 暇つぶしできる場所が少ない 道路や歩道の整備が少ない
 不便に感じる **遊べる場所が少ない** スポーツ施設が少ない
 交通費がかかる **交通が不便** コンビニがない
 自転車で移動しにくい **店や買い物する場所が少ない** もっとにぎわいがほしい
 遠くまで行かないと店がない **公園が少ない** 熊や害獣が出る
 安全面が心配 **電車やバスが不便** 子どもの居場所が少ない
 行く場所が少ない 集まれる場所が少ない
 雨の日に過ごす場がない 駅やバス停が使いにくい 外で遊びにくい 人が減っている感じがする さびしい雰囲気がある

⑥ 出前講座で寄せられたまちを良くするための提案

子どもバザール 駄菓子屋 子どもの意見を聞く場をつくる
 街灯を増やす 若者が集まれる場所をつくる 安心して過ごせる場所を増やす
 映画館や娯楽施設をつくる **安全なまちにす** ウォータースライダー
 自然を活かした遊び場をつくる **交通を便利にする** 使わない施設を遊び場に
 遊具のある公園を増やす **公園や遊び場を充実する** 買い物しやすくする
 みんなが交流できる場をつくる **店や商業施設を増やす** 空き家を活用する
 勉強や相談ができる場所をつくる **子どもの居場所をつくる** イベントを増やす
 子どもだけでも行ける場所を増やす **雨の日でも遊べる場所を増やす** 道路歩道を整備する
 地域の人とつながれる機会を増やす **ライブ会場をつくる**
 にぎわいをつくる 若い人が残りたくなるまちにする

⑦ 出前講座のまとめ

テーマ	出前講座から見たこと	計画への反映の視点
遊び場・居場所	小学生から高校生まで共通して、遊べる場所、公園、室内施設、自由に過ごせる場所へのニーズがみられた。年齢が上がるほど、単なる遊び場だけでなく、一人で過ごせる場所、友人と集まれる場所、自主的に使える場所への期待が強まる。	年齢や過ごし方の違いに応じ、屋外の遊び場、屋内の居場所、中高生が使いやすい自律的な空間を組み合わせで検討する。
交通・移動	電車・バスの本数、交通網、通学・買い物・遊びに行く際の不便さが繰り返し挙げられた。移動のしにくさは、遊び場や体験機会の不足感とも結びついている。	居場所や体験活動を整備するだけでなく、そこへ行きやすい移動手段、地域間のアクセス、情報提供を一体的に考える。
安全・安心	街灯、歩道、防犯、獣害、いじめ・虐待への対策など、日常の安全と心理的な安心の両面に関する声がみられた。	通学路や公園等の安全対策に加え、困ったときに相談できる環境、学校や地域で安心して過ごせる関係づくりを重視する。
意見表明・参画	小学生は自分たちも協力したいという感想を持ち、高校生はこどもサミットや子どもの意見を聴く場など、制度的な参加の仕組みを提案した。	子ども・若者への意見聴取を継続化し、聴いた意見をどう扱ったかをフィードバックする仕組みをつくる。
地域資源・愛着	自然、食、海や山、地域の人々のあたたかさ、あいさつ、祭りなどが京丹後市の良さとして多く挙げられた。	地域の良さを学び、体験し、発信する取組を通じて、将来の地域への関心や定住意識につなげる。
将来・子育て環境	高校生は、仕事と子育ての両立、相談しやすさ、住・食・衣に困らないまちなど、将来自分が子育てする視点からも意見を出している。	若者が将来の暮らしや子育てを前向きに考えられるよう、子育て支援、若者支援、地域参画をつなげて考える。

2 配慮や支援を必要とする子どもの保護者アンケート結果報告

(1) 目的

京丹後市こども計画の策定にあたり、発達上の心配や特性、障害、医療的ケアの必要性、慢性的な疾病等により、日常生活において配慮や支援を必要とする子ども及びその家庭の生活実態、支援の利用状況、困りごと、保育・教育・地域参加における課題等を把握するため、保護者を対象としたアンケート調査を実施しました。

(2) 調査の概要

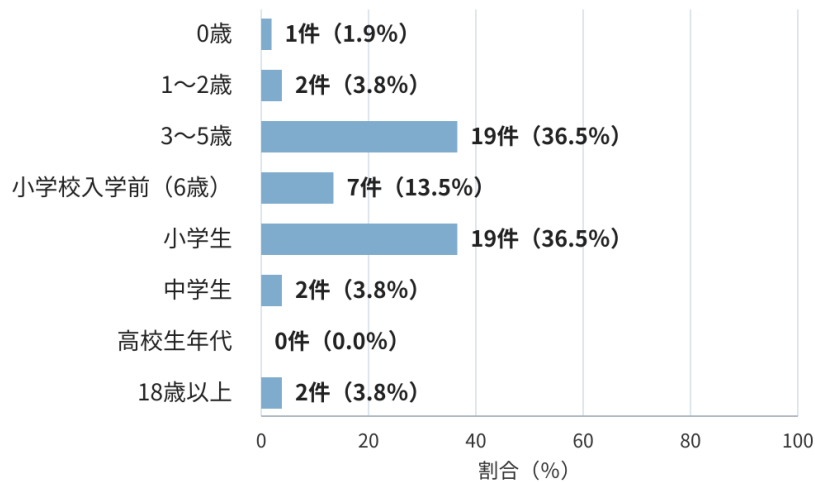
項目	内容
調査対象	京丹後市内に在住する、発達上の心配や特性、障害、医療的ケアの必要性、慢性的な疾病等により、日常生活において配慮や支援を必要とする子どもの保護者 ※障害者手帳や診断、障害児通所支援の利用の有無により限定せず、発達、ことば、集団生活、学習などにおいて、保護者が継続的な配慮や支援が必要と感ずる場合も対象に含める。
調査方法	Web アンケート
周知方法	市ホームページ、LINE、子育てアプリ「はぐたん」、関係団体への周知依頼、にじいろノート所持者への郵送等により周知
調査期間	令和8年5月 19 日(火)から令和8年6月7日(日)まで
有効回答数	52 件

(3) アンケート結果の詳細

① お子さんの年齢・学年等

【問】 お子さんの年齢・学年等を教えてください。

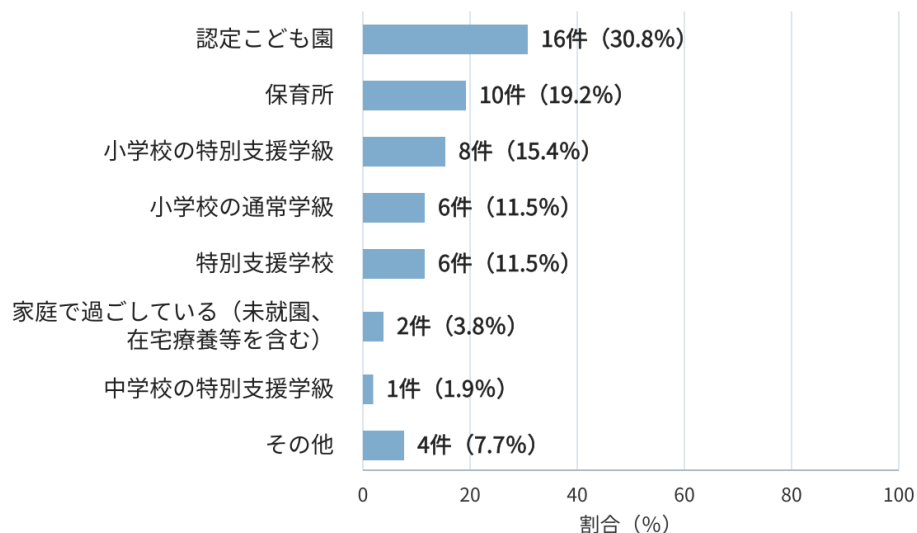
問1 お子さんの年齢・学年等 (n=52)



② お子さんの現在の主な所属

【問】 お子さんが現在、主に通っている場所や過ごしている場所を教えてください。
(複数回答可)

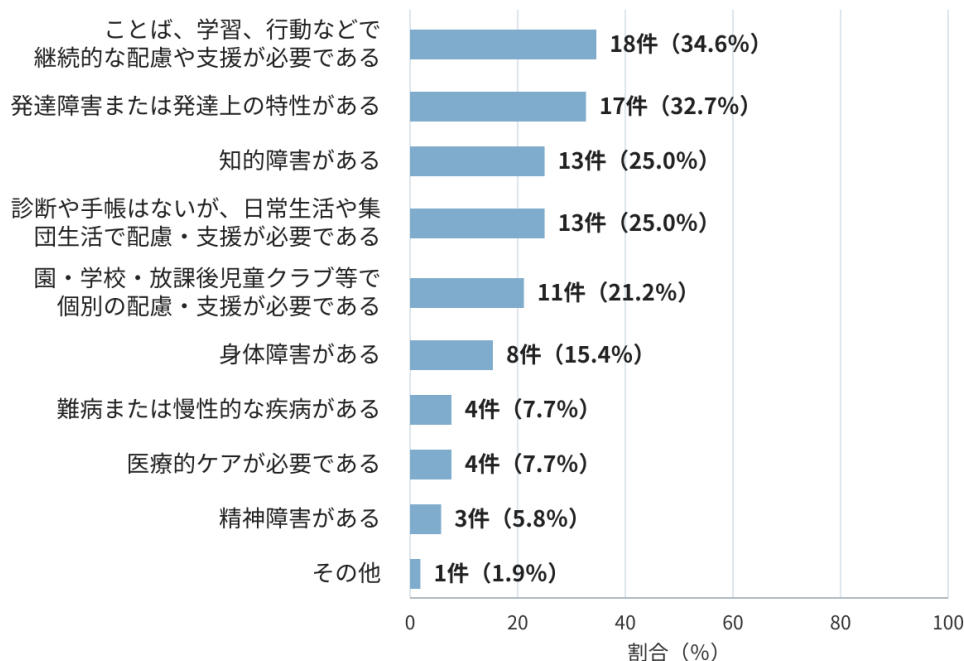
問2 お子さんの現在の主な所属 (n=52)



③ お子さんの状況

【問】お子さんにあてはまるものを選んでください。
(複数回答可)

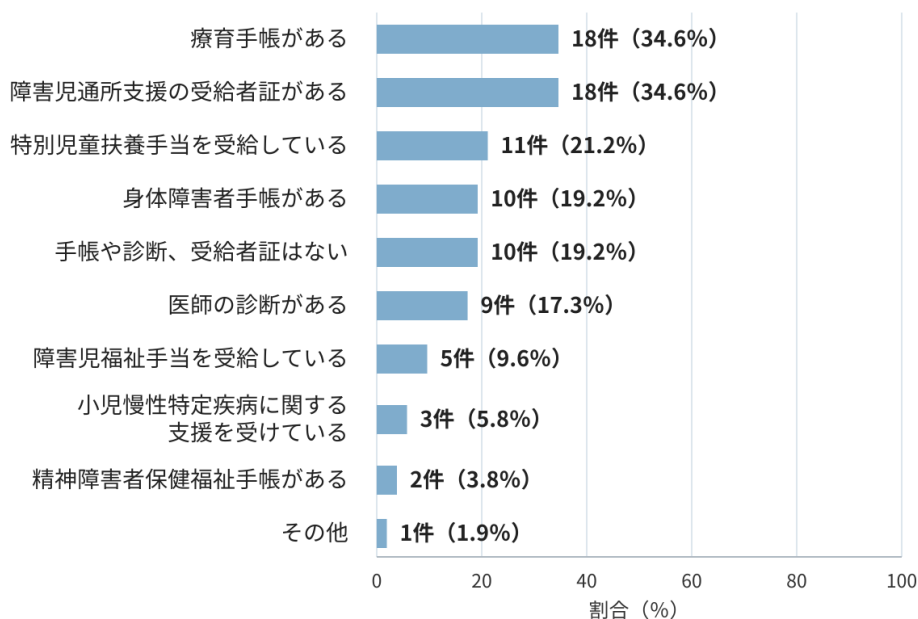
問3 お子さんの状況 (n=52)



④ 手帳・診断・受給者証・手当等の状況

【問】お子さんの手帳、診断、受給者証等の状況について教えてください。
(複数回答可)

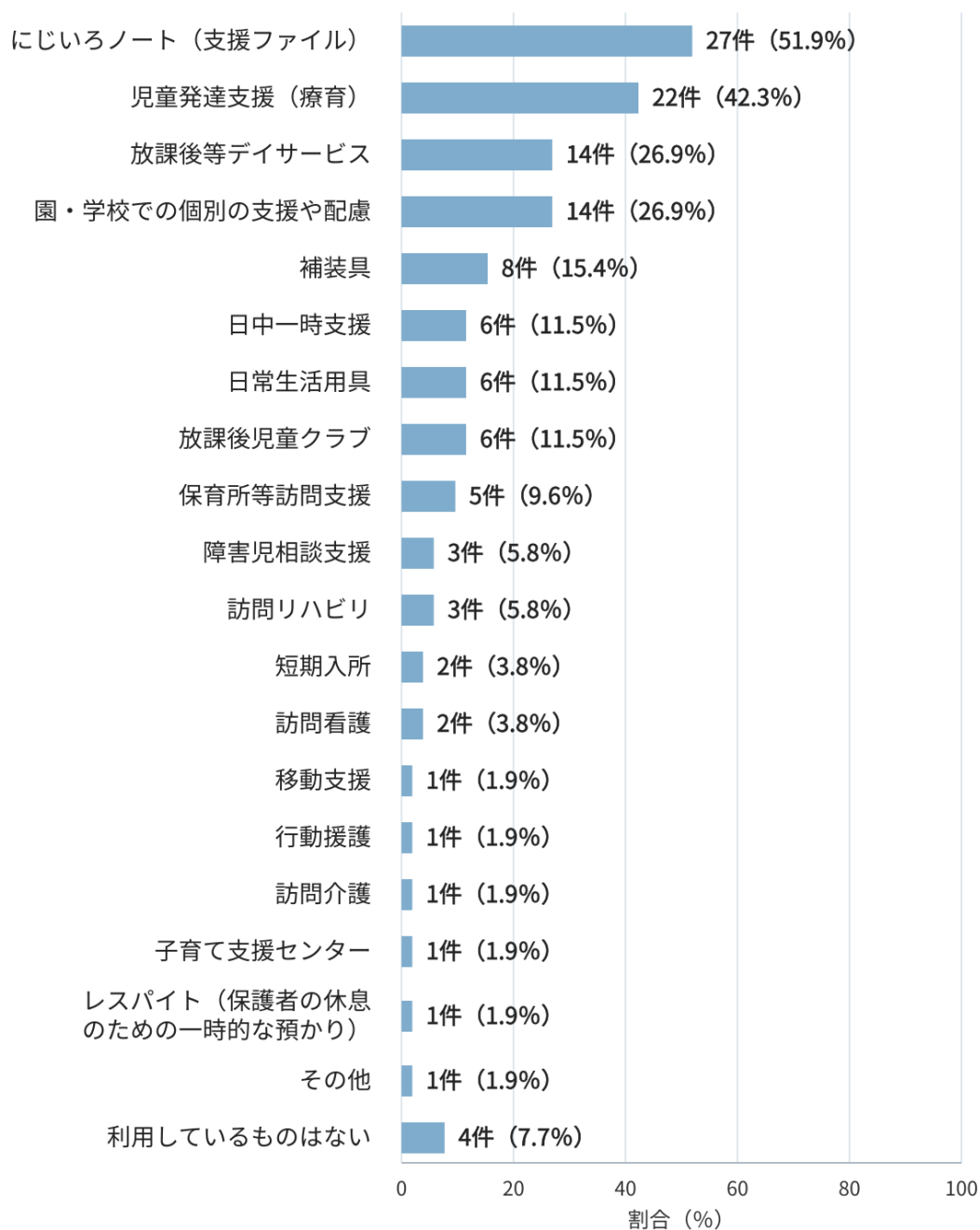
問4 手帳・診断・受給者証・手当等の状況 (n=52)



⑤ 現在利用している支援・サービス

【問】現在、お子さんやご家庭が利用している支援・サービスを教えてください。
(複数回答可)

問5 現在利用している支援・サービス (n=52)

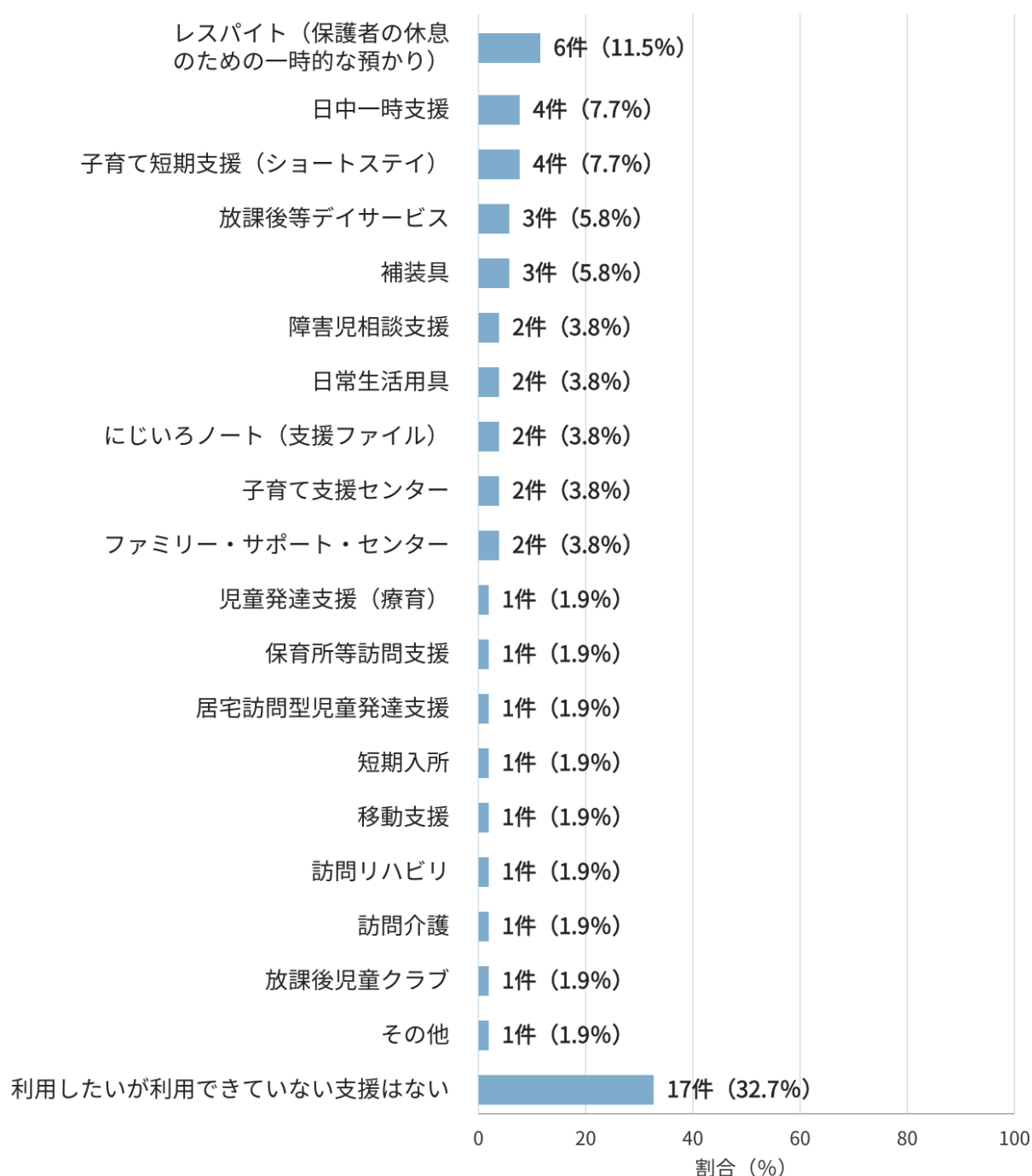


「にじいろノート」が 51.9%で最も高く、児童発達支援が 42.3%、放課後等デイサービスと園・学校での個別支援が各 26.9%です。支援ファイル、通所支援、園・学校での配慮が主な支援となっています。

⑥ 利用したいが利用できていない支援

【問】利用したいと思っているが、利用できていない支援やサービスはありますか。
(複数回答可)

問6-1 利用したいが利用できていない支援 (n=52)

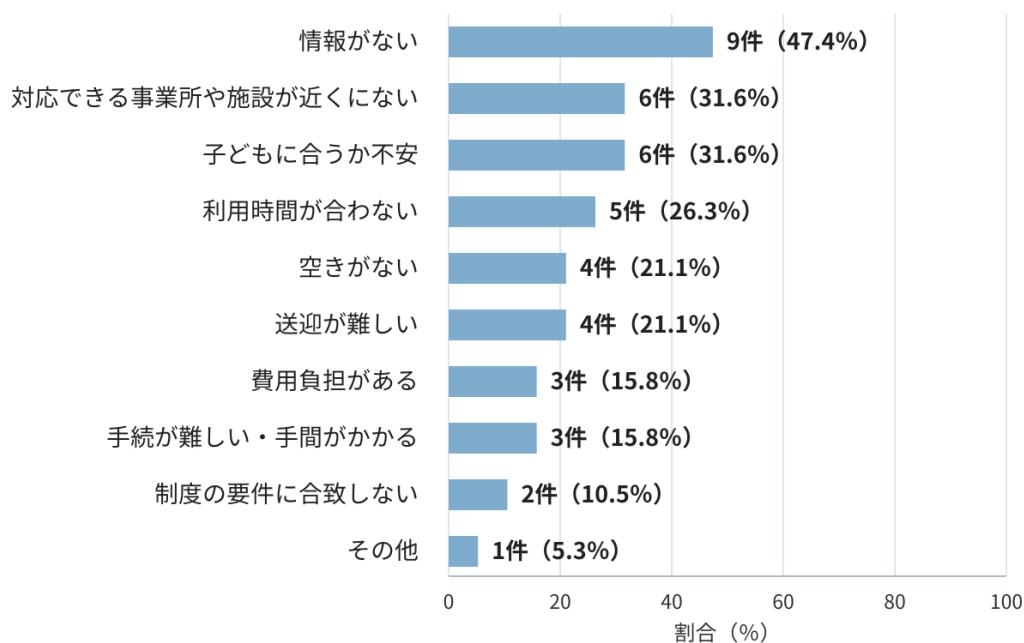


「利用したいが利用できていない支援はない」が 32.7%である一方、19 人が何らかの未利用支援を挙げています。特にレスパイトが 11.5%、日中一時支援とショートステイが各 7.7%となっています。

⑦ 利用できていない要因

【問】利用できていない理由は何ですか。
(複数回答可)

問6-2 利用できていない要因 (n=19)



未利用支援がある 19 人では、「情報がない」が 47.4%で最も高くなっています。「対応できる事業所等が近くにない」「子どもに合うか不安」が各 31.6%で、情報、距離、適合性など複数の要因がみられます。

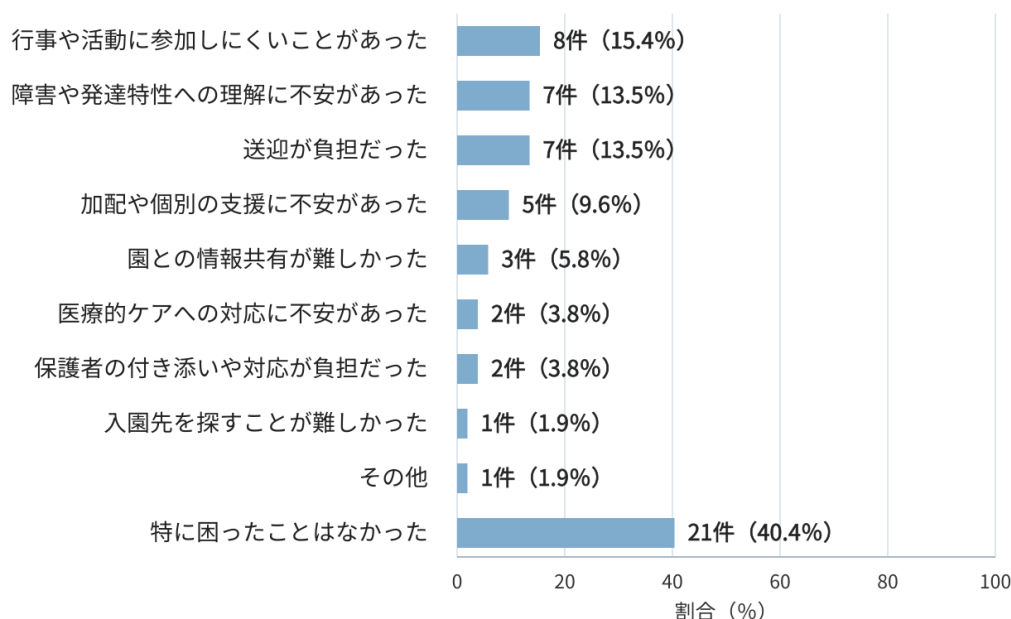
⑧ 保育所・認定こども園等での支援

【問】（保育所・認定こども園を利用している、過去に利用したことがある方、又は利用を検討したことがある方にお聞きします）

保育所、認定こども園の利用にあたり、困ったことや必要だと感じる配慮はありましたか。

（複数回答可）

問7 保育所・認定こども園等での支援（n=52）



「特に困ったことはなかった」が 40.4%で最も高くなっています。一方、行事や活動への参加のしにくさが 15.4%、障害や発達特性への理解と送迎の負担が各 13.5%で、参加や受入れに関する課題もみられます。

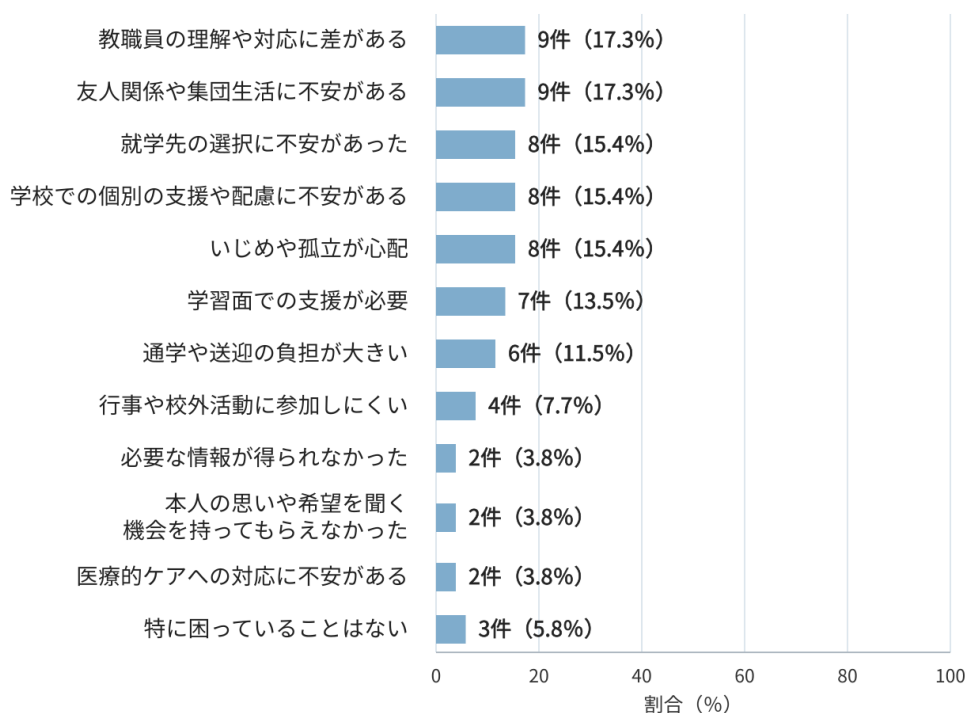
⑨ 学校生活・就学相談での支援

【問】（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等に現在通っている方、過去に通っていた方、又は就学相談を経験したことがある方にお聞きします。）

就学相談、学校生活、通級、特別支援学級、通常学級、特別支援学校等について、困ったことや必要だと感じる配慮はありましたか。

（複数回答可）

問8 学校生活・就学相談での支援（n=52）

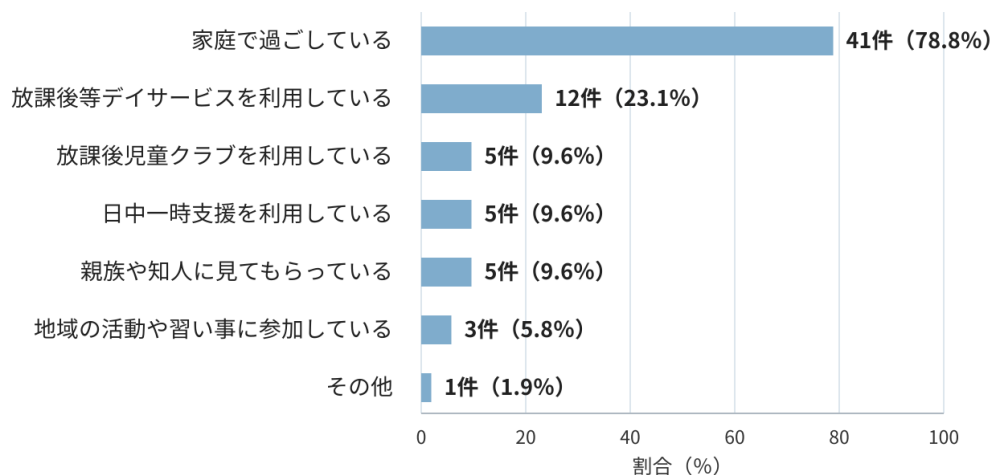


教職員の理解や対応の差と、友人関係・集団生活への不安が各 17.3%で最も高くなっています。就学先の選択、個別の支援や配慮、いじめ・孤立への心配も各 15.4%で、課題が複数の分野に及んでいます。

⑩ 放課後・休日・長期休暇の過ごし方

【問】放課後、休日、長期休暇中に、お子さんは主にどこで過ごしていますか。
(複数回答可)

問9-1 放課後・休日・長期休暇の過ごし方（n=52）

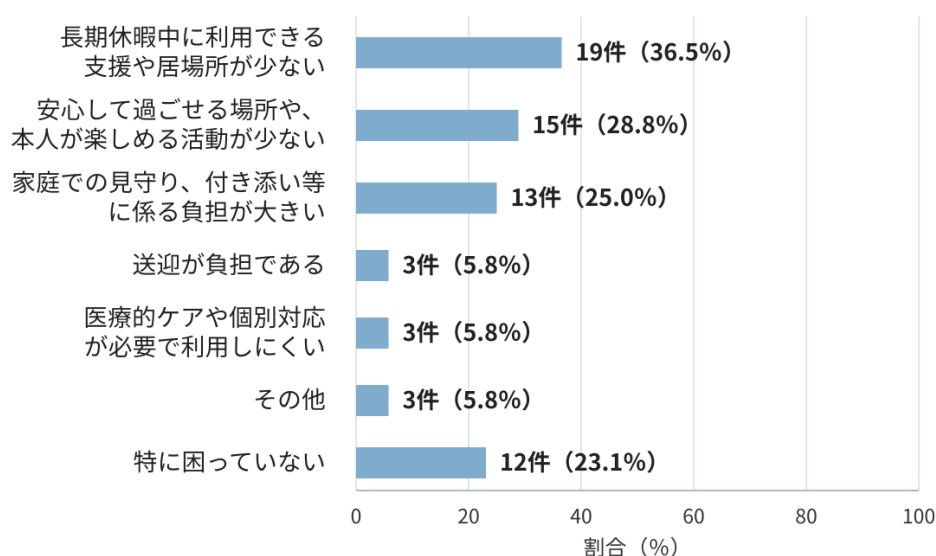


「家庭で過ごしている」が78.8%と突出して高く、放課後等デイサービスの利用は23.1%です。放課後児童クラブ、日中一時支援、親族・知人による見守りはいずれも9.6%で、家庭を中心に過ごす状況がみられます。

⑪ 放課後・休日・長期休暇の過ごし方で困っていること

【問】放課後、休日、長期休暇中の過ごし方について、困っていることはありますか。
(複数回答可)

問9-2 放課後・休日・長期休暇の過ごし方で困っていること (n=52)

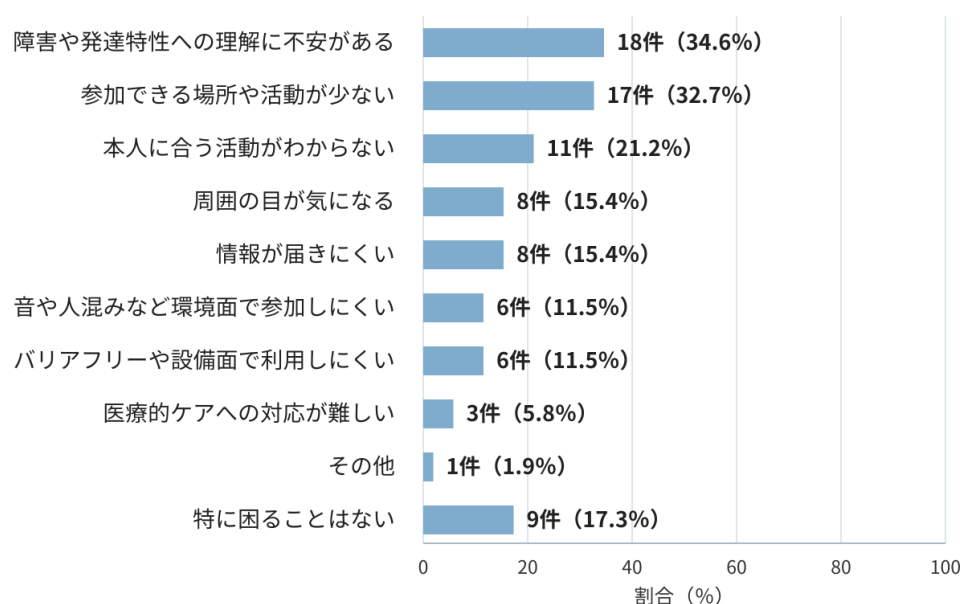


「長期休暇中に利用できる支援や居場所が少ない」が36.5%で最も高く、安心して過ごせる場所や本人が楽しめる活動の少なさが28.8%、家庭での見守りや付き添いの負担が25.0%で続いています。

⑫ 遊び・体験・地域活動への参加

【問】お子さんが、遊び場、地域行事、スポーツ、文化活動、体験活動などに参加するうえで、困ることはありますか。
(複数回答可)

問10 遊び・体験・地域活動への参加 (n=52)

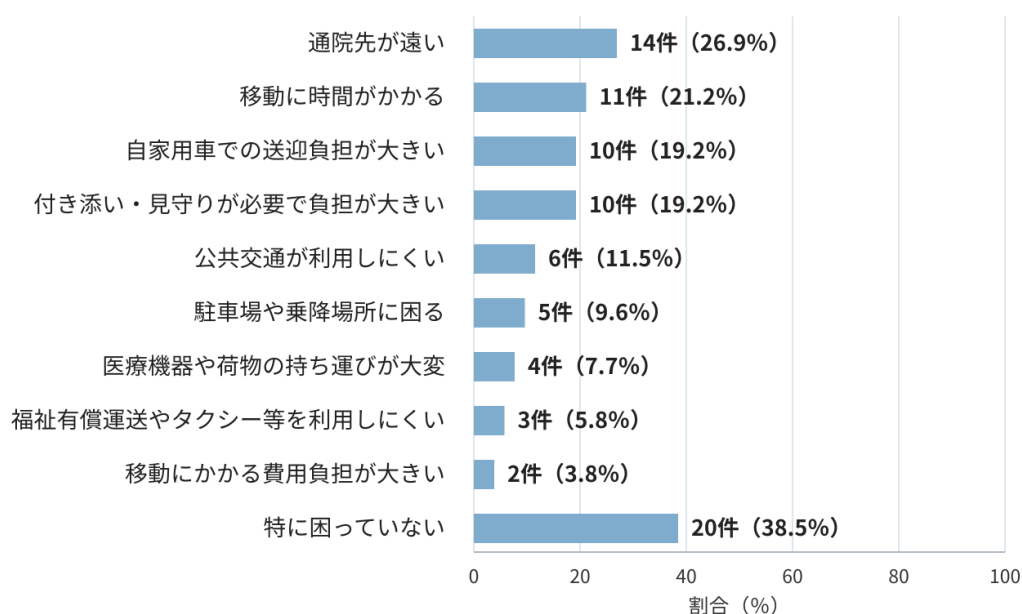


障害や発達特性への理解に対する不安が 34.6%、参加できる場所や活動の少なさが 32.7%となっています。本人に合う活動が分からないとの回答も 21.2%あり、受入れ環境、活動機会、情報の各面に課題がみられます。

⑬ 外出・移動・通院等の負担

【問】通院、通所、通学、買い物、遊び、地域活動などの外出や移動について、困っていることはありますか。
(複数回答可)

問11 外出・移動・通院等の負担 (n=52)

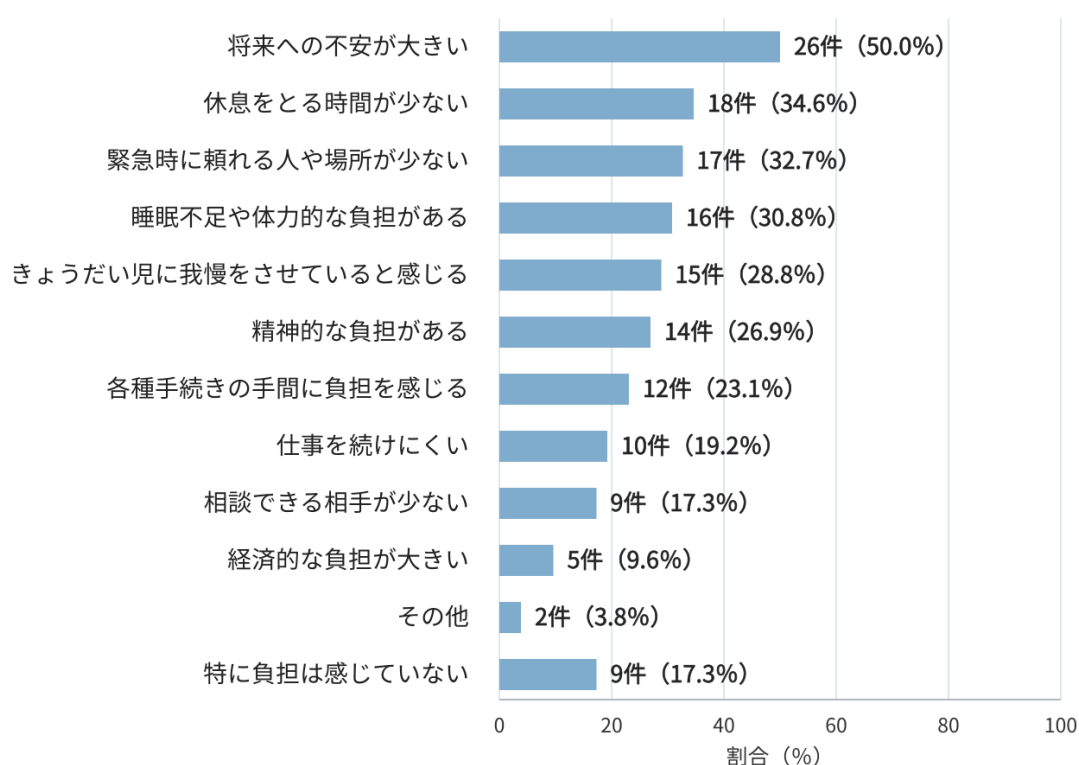


「特に困っていない」が 38.5%である一方、通院先が遠いとの回答が 26.9%、移動時間の長さが 21.2%です。自家用車での送迎と付き添い・見守りの負担も各 19.2%で、通院を中心とした負担がみられます。

⑭ 保護者・家族の負担

【問】お子さんの支援やケアに関して、保護者やご家族が負担に感じていることはありますか。
(複数回答可)

問12 保護者・家族の負担 (n=52)

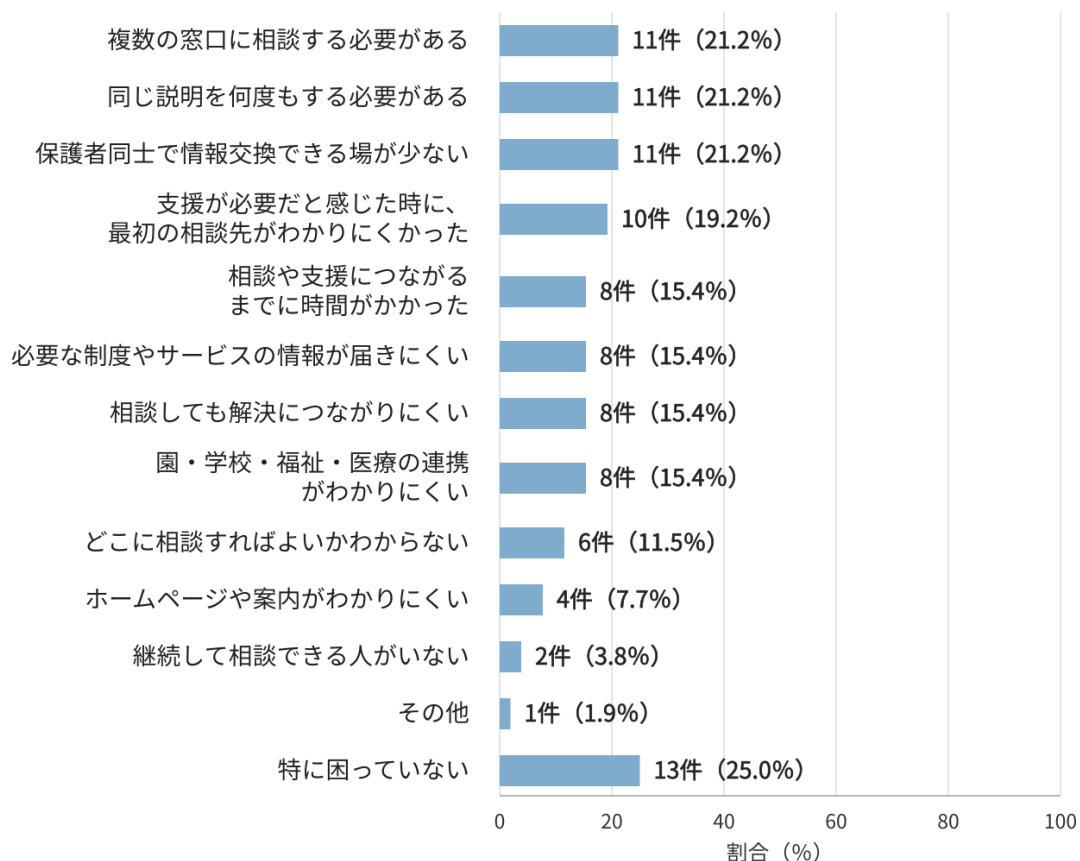


「将来への不安が大きい」が 50.0%で最も高く、休息時間の少なさが 34.6%、緊急時に頼れる人や場所の少なさが 32.7%で続きます。睡眠・体力面やきょうだい児への影響など、負担は多方面に及んでいます。

⑮ 情報提供・相談体制

【問】必要な情報や相談先について、困っていることはありますか。
 あてはまるものを選んでください。
 (複数回答可)

問13 情報提供・相談体制 (n=52)

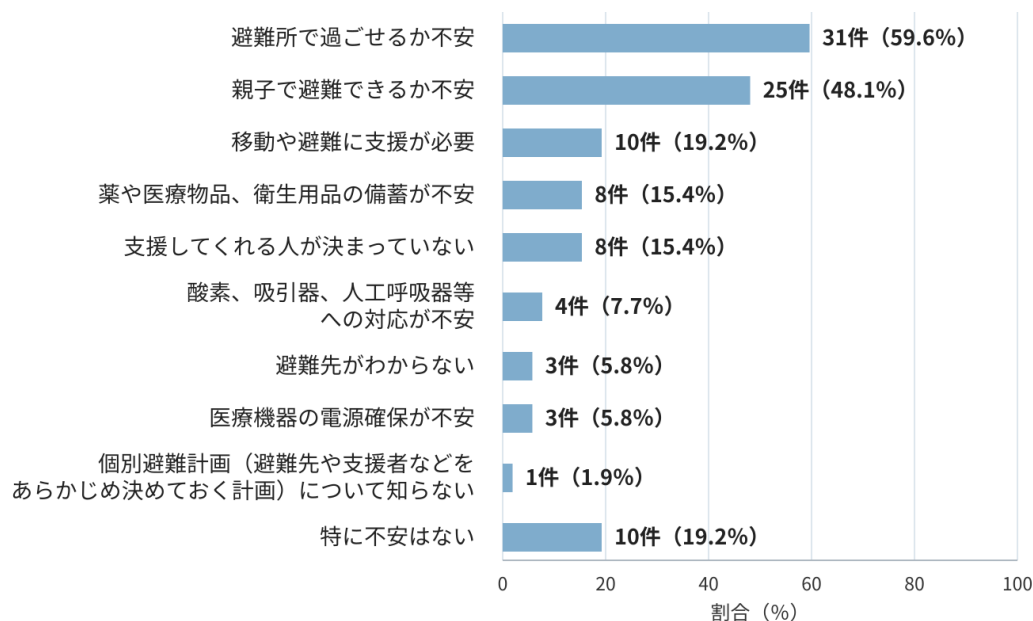


「特に困っていない」が25.0%である一方、複数窓口への相談、同じ説明の繰り返し、保護者同士で情報交換できる場の少なさが各 21.2%です。相談先の分かりやすさだけでなく、連携や情報共有も課題となっています。

⑩ 災害時の不安

【問】災害時の避難や備えについて、不安を感じていることはありますか。
(複数回答可)

問14 災害時の不安や備え (n=52)

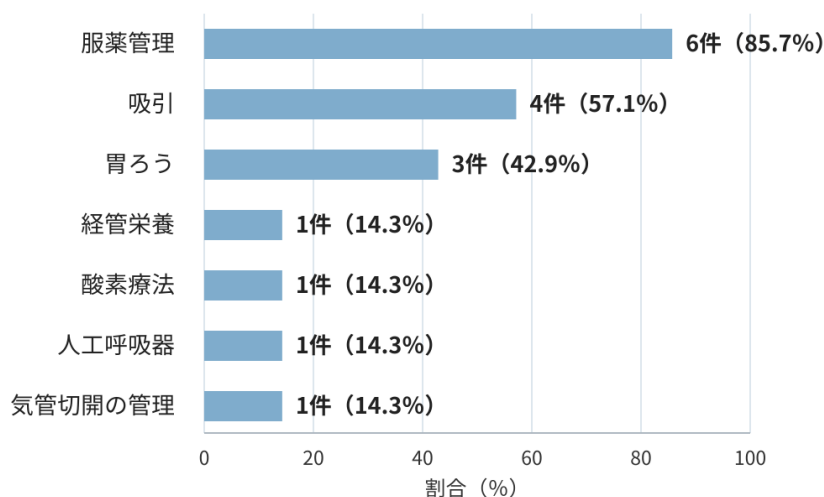


「避難所で過ごせるか不安」が 59.6%、「親子で避難できるか不安」が 48.1%と高くなっています。移動や避難への支援、薬・医療物品等の備蓄、支援者が決まっていないことへの不安も一定数みられます。

⑪ 医療的ケアの内容

【問】お子さんに必要な医療的ケアの内容を教えてください。
(複数回答可)

問15-1 医療的ケアの内容 (n=7)

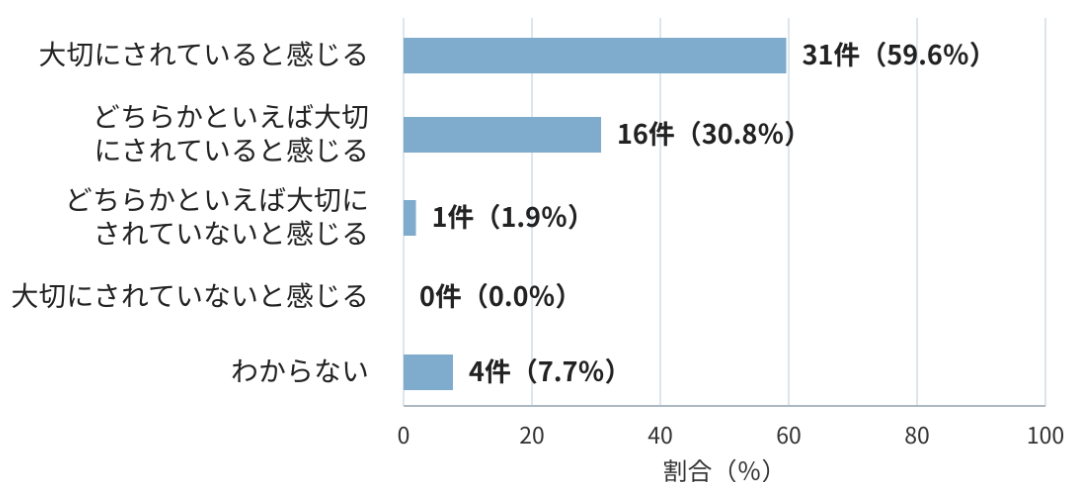


当該設問に回答のあった 7 人では、服薬管理が 85.7%、吸引が 57.1%、胃ろうが 42.9%となっています。経管栄養、酸素療法、人工呼吸器、気管切開の管理も挙げられ、複数の医療的ケアを必要とする状況がみられます。

⑱ お子さん本人の思いや希望

【問】お子さんの「やってみたい」「行ってみたい」「こうしてほしい」などの思いや希望は、家庭、園、学校、支援機関などで大切にされていると感じますか。

問16 お子さん本人の思いや希望 (n=52)

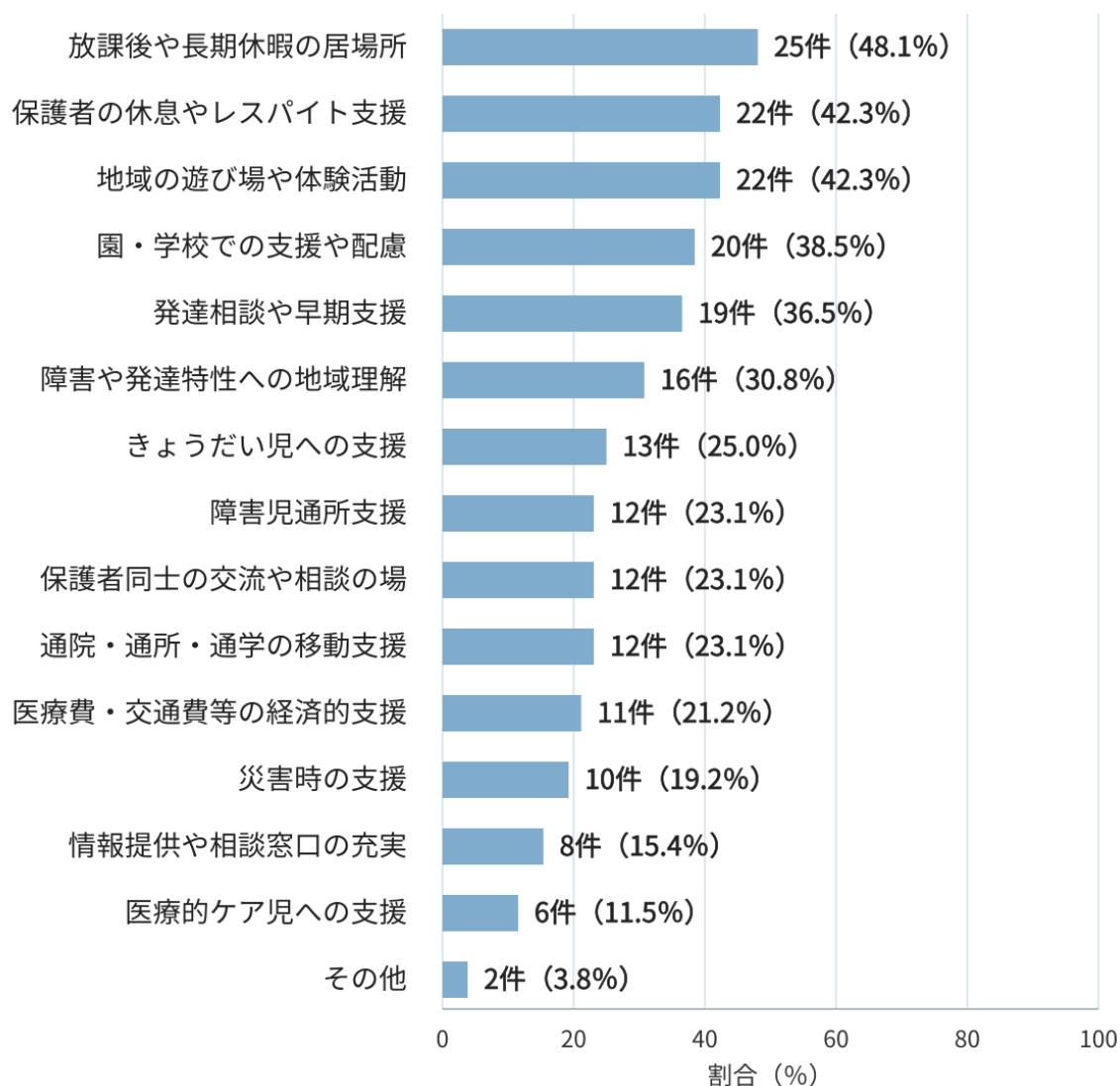


保護者から見て「大切にされている」が 59.6%、「どちらかといえば大切にされている」が 30.8%で、肯定的な回答は合わせて 90.4%となっています。

⑱ 今後、京丹後市に特に充実してほしい支援

【問】 今後、京丹後市に特に充実してほしい支援を選んでください。
(3つまで選択)

問17 今後、京丹後市に特に充実してほしい支援 (n=52)



放課後や長期休暇の居場所が 48.1%で最も高く、レスパイト支援と地域の遊び場・体験活動が各 42.3%で続きます。園・学校での支援、早期相談、地域理解も上位にあり、子どもと家族の双方への支援が求められています。

⑳ 自由記述からみる主な意見

問18「市に伝えたいこと」には14件の記述があり、各設問の「その他」欄にも、日々の生活や支援利用に関する具体的な意見が寄せられました。

(自由記述)

◇ 園・学校での支援、就学・進路

- ・ 園では加配の先生に支援していただき、親子ともに安心して通園できている。丁寧な支援に感謝している。
- ・ 通常学級と特別支援学級で受けられる支援の違いや、その後の将来の見通しが分からず不安がある。通常学級でも、少人数などの手厚い支援を受けられるようにしてほしい。
- ・ 就学先を決めるまでの流れや、継続して相談できる場所がほしい。特別支援学校を選んだ場合、これまでの友人や地域とのつながりが薄くならないか心配している。
- ・ 歩くことが難しい子どもを抱いて階段を使う送迎は、足元が見えず怖いことがある。日々の送迎時の安全にも配慮してほしい。
- ・ 知的能力が高い子どもや、発達特性を併せ持つ子どもにも困りごとがある。多様な子どもがいることを理解し、具体的な対応を家族と一緒に考えてほしい。

◇ 相談・情報提供・制度の利用

- ・ それぞれの制度や支援機関がどのような役割を持つのか分からず、何を利用できるのか判断しにくい。
- ・ 途中から障害が生じた場合、利用できる制度やサービスを十分に教えてもらえず、支援の対象となる基準も分かりにくかった。
- ・ 将来の生活や、保護者が支えられなくなった後の暮らしについて、どこで情報を得て相談すればよいのか分からない。
- ・ 家族だけで考え、支え続けることには限界がある。相談を受けるだけでなく、具体的な解決や次の支援につなげてほしい。
- ・ 制度の相談や手続の際、十分な説明が得られなかったり、言葉や対応に傷ついたりしたことがある。当事者の思いを受け止め、丁寧に対応してほしい。
- ・ アンケートを行うだけで終わらず、寄せられた声を受けて何を改善したのか、市がどのように前進したのかを説明してほしい。

◇ 通学・移動・外出の支援

- ・ 通学支援を利用できたことで、子どもの学びが支えられ、家庭の負担も大きく軽減された。寄り添った支援に感謝している。
- ・ 身体状況により既存の通学支援制度の対象にならない場合でも、実際には一人で通学することが難しい子どもがいる。実情に応じた移動支援を検討してほしい。
- ・ 食事や身支度に時間がかかる子どもを通学時間に間に合わせるため、朝の生活に無理が生じ、健康面にも不安がある。
- ・ 子どもの成長とともに抱きかかえての移動が難しくなる。今後も自宅から学校へ通い続けられるのか、不安を感じている。

- 家族一人では安全に外出させることが難しい場面がある。休日の外出や体験活動に同行してくれる人を、有料でも頼める仕組みがあると助かる。

◇ 放課後・休日・長期休暇、預かり・レスパイト

- 長期休暇や土・日曜日、祝日に、朝から夕方まで利用できる預かり先が少なく、仕事を休んで送り出しや迎えをしなければならない。
- 休日保育が利用できなくなると、祝日に子どもを見てもらえる場所がなくなり、これまでどおり働き続けられないのではないかと不安がある。
- 休息や仕事、緊急時にショートステイを利用したくても、近くに受入先がない。保護者が倒れることもできないと感じるほど不安が大きい。
- 本人への支援は充実していても、保護者が休める環境や、きょうだい児への支援が少ない。家族それぞれの負担を軽くする支援も充実してほしい。
- 安全な屋内で遊べ、必要なときには 2～3 時間ほど預かってもらえる仕組みがあると、子どもにも保護者にも大きな助けになる。

◇ 遊び・体験・地域活動への参加

- 安心して遊べる場所が少ない。屋外では子どもから目を離せず、自宅だけで過ごすと本人も楽しめず、保護者の負担も大きくなる。
- 「だめ」「勝手に行かないで」と繰り返し注意しなくても、安全にのびのび遊べる屋内施設がほしい。
- 市内の公園や運動施設に行っても、ほかの利用があり、子どもが遊べないことがある。気軽に利用できる遊び場がほしい。
- 地域の行事やチラシで知ったイベントに、配慮が必要な子どもを連れて行ってよいのか迷うことが多い。参加しやすいことが分かる案内がほしい。
- 子どもの特性に合う習い事や活動は発達にもつながると思うが、受入先が見つからず、送迎や付き添いの時間も確保しにくい。
- 活動に参加させたいと思っても、付き添いや支援をする人手が足りず、参加を諦めることがある。

◇ 保護者・きょうだい児、就労、将来への不安

- 本人への支援に加え、保護者やきょうだい児が休める環境が必要だと思う。家族全員のストレスを一人の保護者だけで抱えることは難しい。
- 障害の程度や家庭状況によって違いはあるが、子どもが学校を卒業した後に保護者が働き続けられなくなるという声を聞く。
- 障害があることで外出しにくく、家庭にこもりがちになる。何か一つでも改善に向けて動いていると感じられれば、孤立せずに頑張れると思う。
- 生活のすべてに支援が必要な子どもがいる。障害が重くても、困ったときに確実に助けてもらえる制度を充実してほしい。

- 保護者だけが支え続けることを前提にせず、親子や家族が共倒れにならない支援体制をつくってほしい。
- 療育への付き添いや各種の送迎が重なり、仕事や家庭生活との両立が難しい。

◇ 地域の理解、行政対応、災害時の不安

- 見た目では分かりにくい発達上の特性があり、周囲に伝えることで生まれる空気や見方が苦しく感じることがある。地域の理解が広がってほしい。
- 療育機関を利用できたことは、子どもだけでなく保護者にとっても学びになった。一方、仕事との日程調整が難しく、利用したくても通えないことがある。
- 利用したい支援があっても、「難しいだろう」「迷惑になるだろう」と考えてしまい、相談や申込みに踏み出せないことがある。
- 地域の防災活動を担う保護者は、災害時に配慮が必要な子どもを置いて避難所の設営等に行くのかという不安を抱えている。
- 制度が以前より増え、子育てしやすくなったと感じ、関係者に感謝している。さらに、制度の狭間にいる家庭にも必要な支援が届くようにしてほしい。

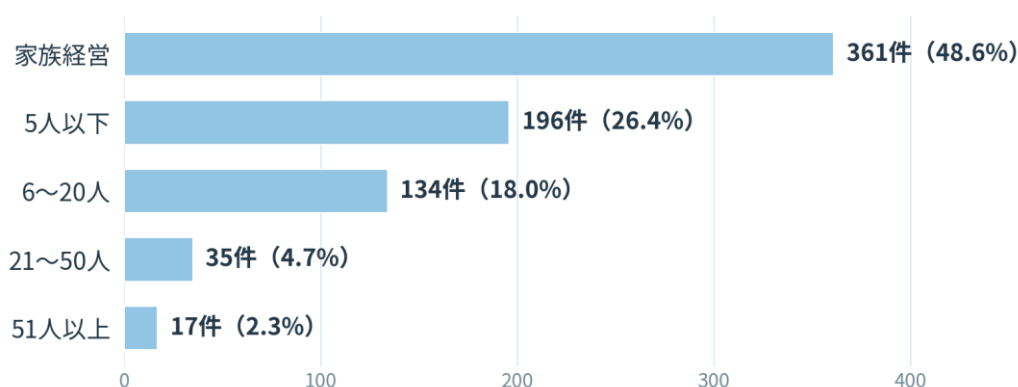
3 京丹後市議会子どもの権利に関するアンケート調査結果

(1) 事業所向けアンケート調査の概要

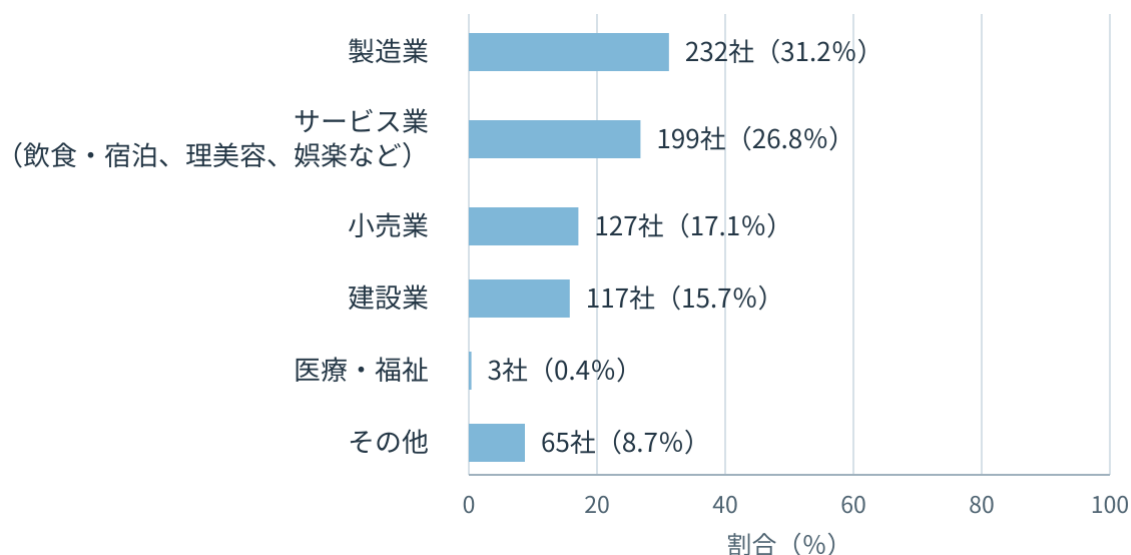
項目	内容
調査目的	子育てと仕事の両立に関する事業所側の実態・意識把握
調査対象者	市内事業所 743 社(家族経営～51 人以上を 1 社として集計)
調査方法	商工会を通じて実施
調査期間	令和7年 8 月
調査実施機関	京丹後市議会文教厚生常任委員会

(2) 事業所向けアンケート調査の結果

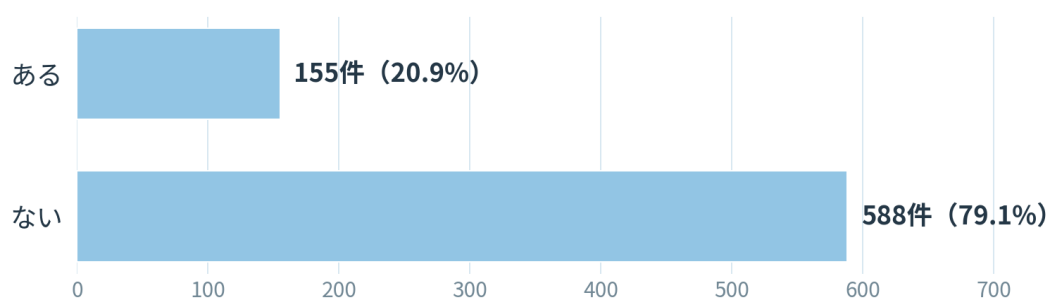
① 従業員数(役員・パート・アルバイトを含む)[n=743]



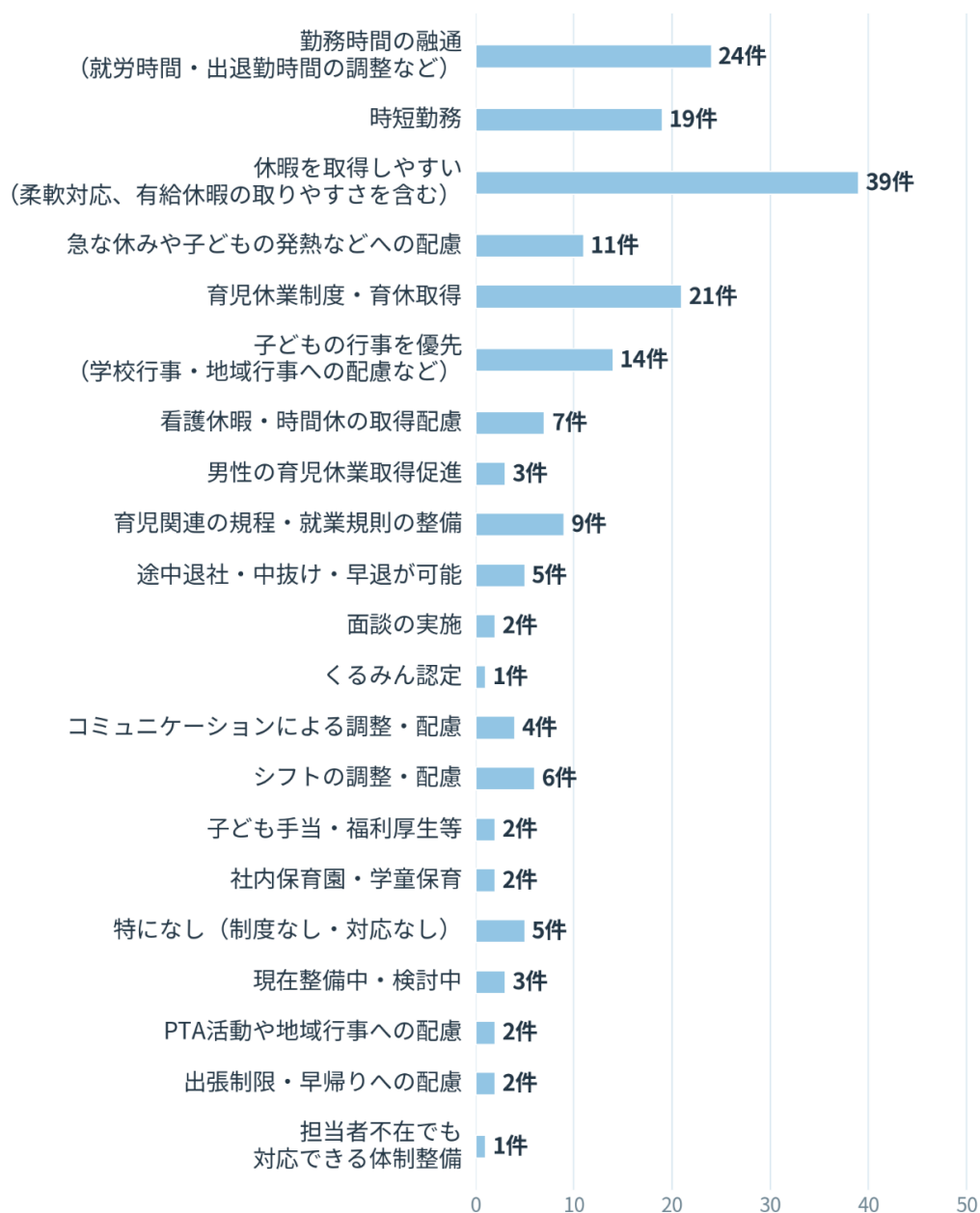
② 主な事業内容[n=743]



③ 子育て中の従業員を支えるうえで、配慮していることがありますか。〔n=743〕



④ 配慮している内容(自由記述の要旨)



※くるみん認定…くるみん「子育てサポート企業」厚生労働大臣の認定

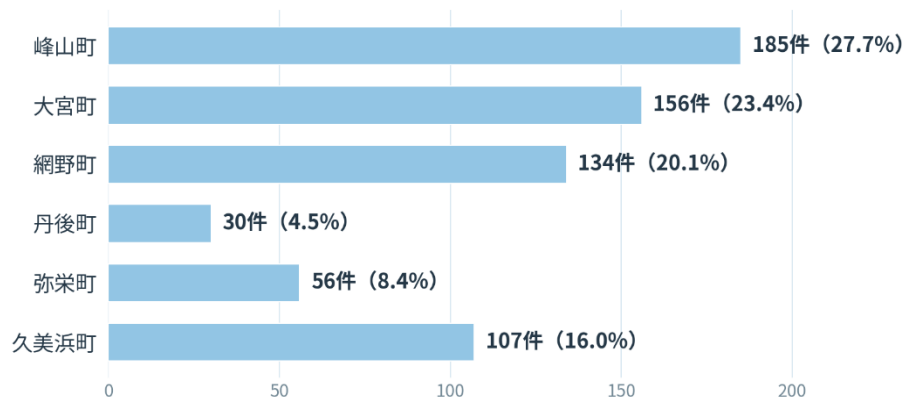
(3) 市民向けアンケート調査の概要

項目	内容
調査目的	政策提言に市民の皆様の声を反映させるため
調査対象者	京丹後市内在住の 18 歳以上の方
実施期間	令和 7 年 8 月
回答数	668 件
調査方法	Web アンケート(メールや郵送による回答も可)
調査実施機関	京丹後市議会文教厚生常任委員会

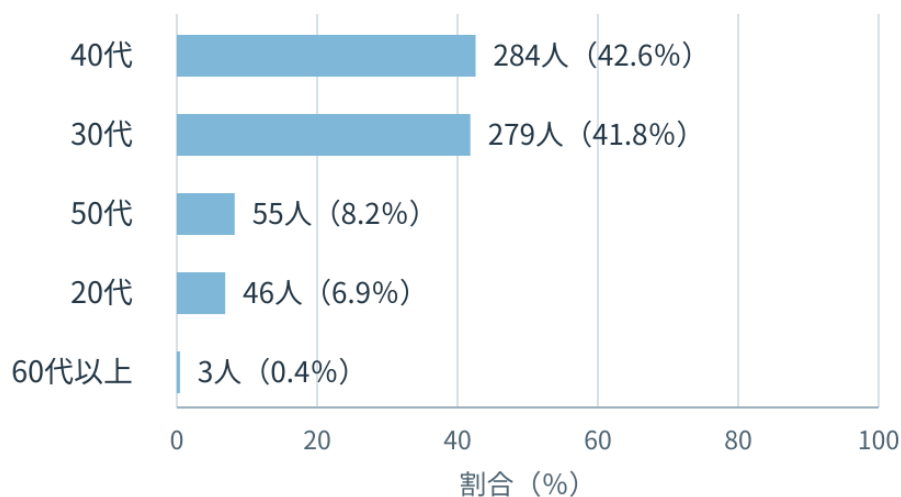
(4) 市民向けアンケート調査の結果

①基本情報

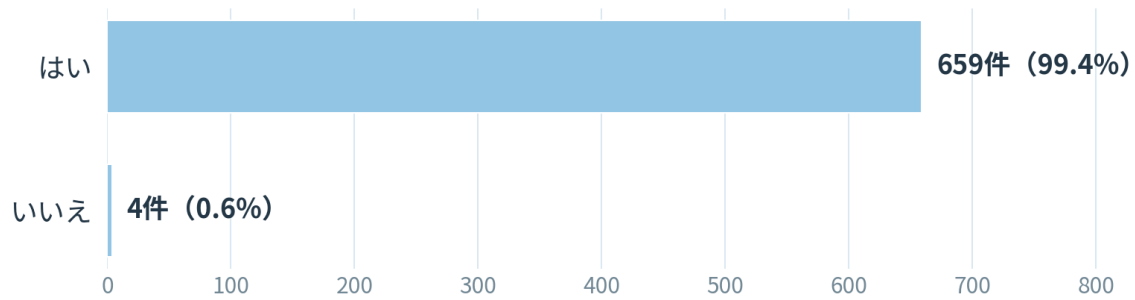
【問 1】お住まい〔n=668〕



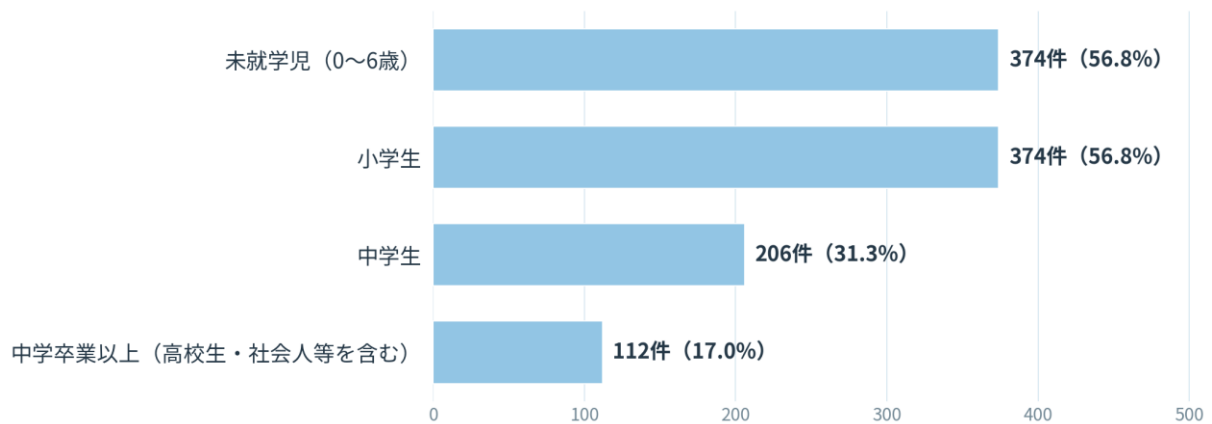
【問 2】年代〔n=667〕



【問 3】お子さんはいらっしゃいますか。〔n=663〕

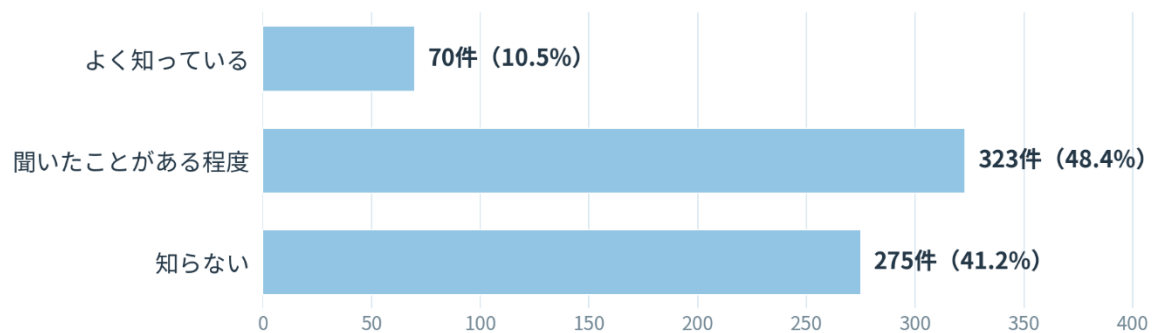


【問 3-1】お子さんの年齢層(複数回答)〔対象:問 3 で「はい」と回答した 659 人〕

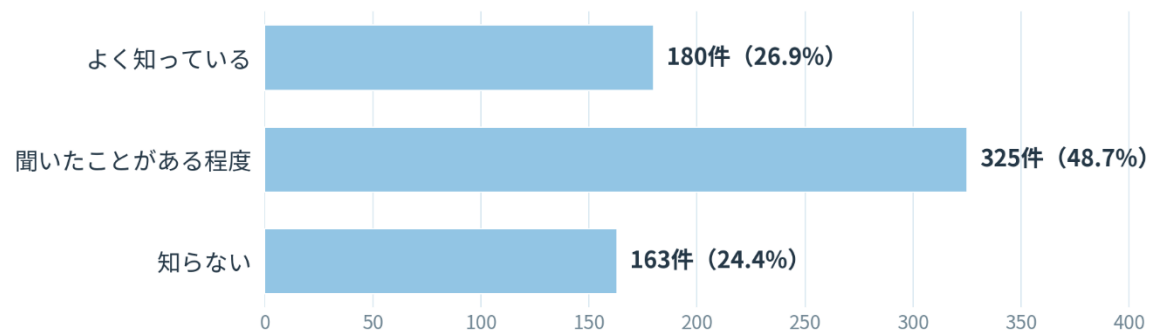


②子どもの権利に関する認識

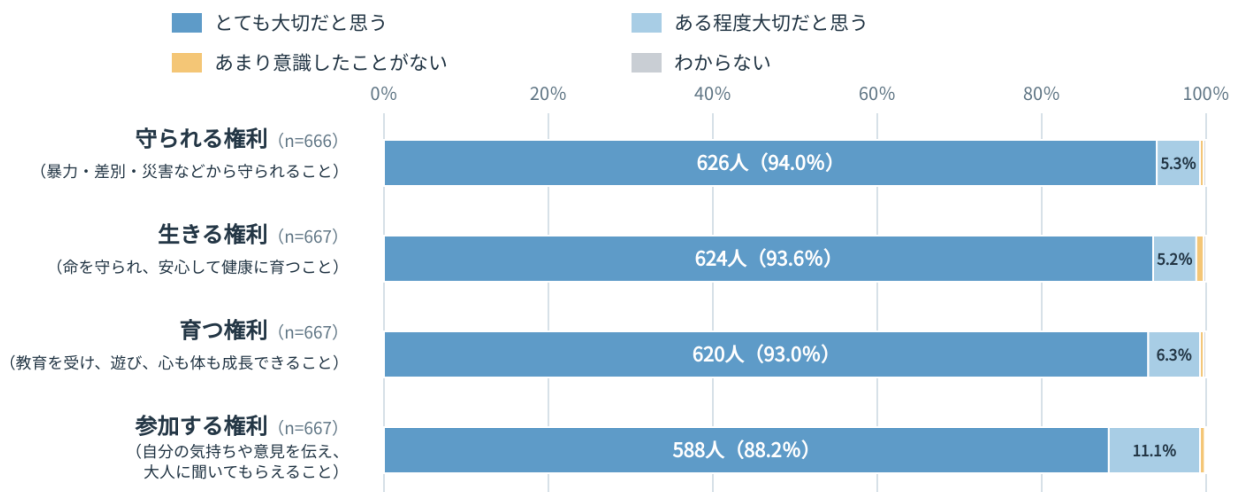
【問 4】「子どもの権利条約」について知っていますか。〔n=668〕



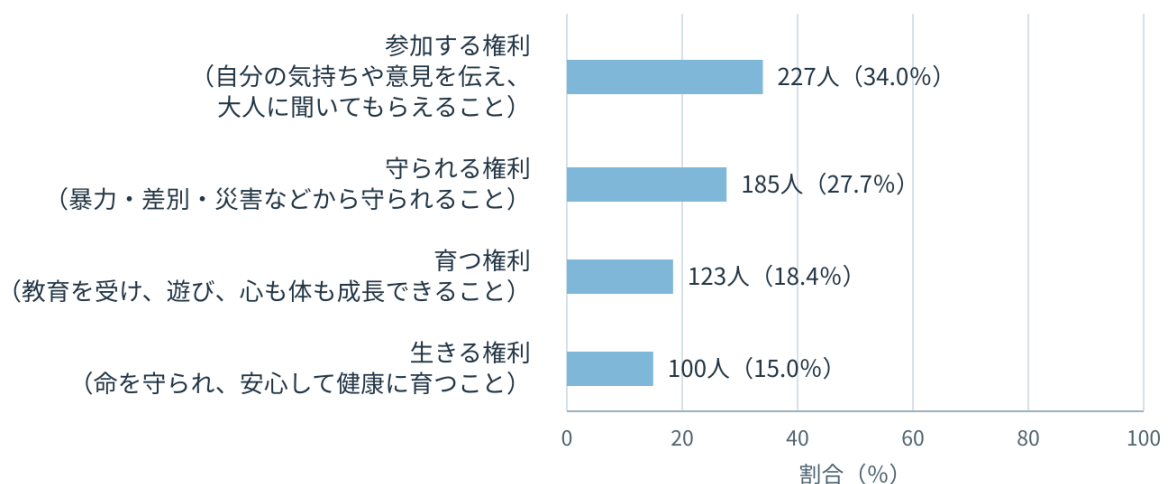
【問 5】子どもにも「意見を言う権利」や「安全に暮らす権利」などがあることを知っていますか。〔n=668〕



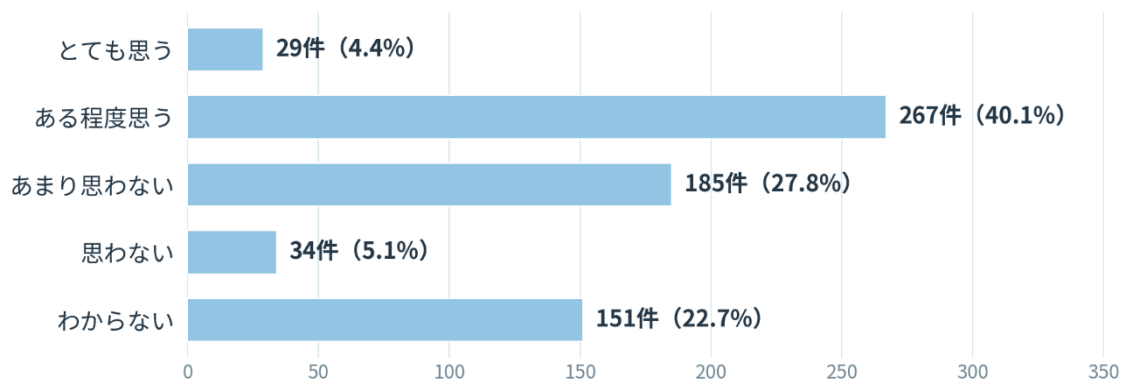
【問 6】「子どもの権利」について大切だと思いますか。



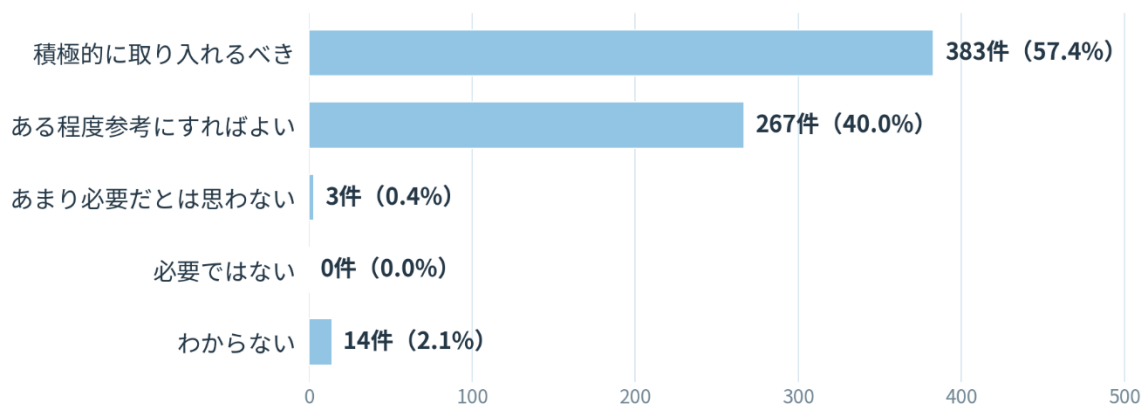
【問 6-1】4 つの権利の中で特に「守られていない」「課題がある」と感じる権利
〔n=668〕(複数回答)



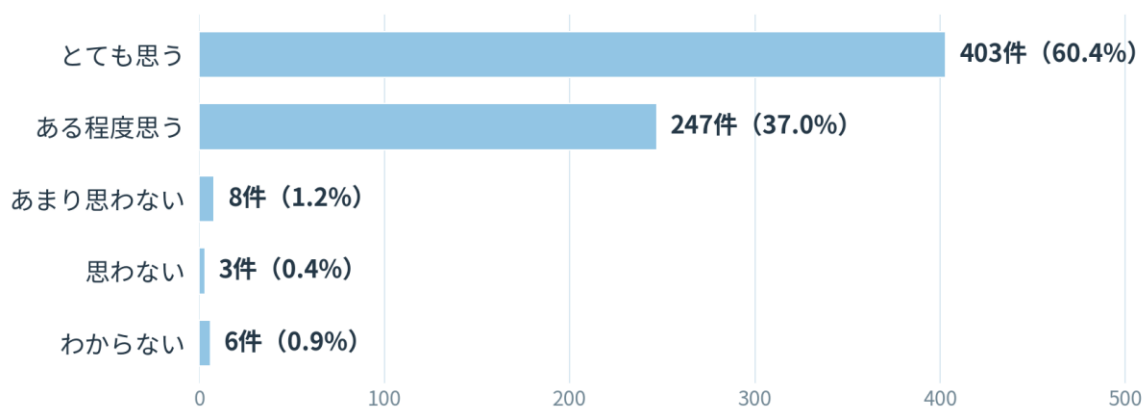
【問 7】京丹後市では、子どもの意見が大切にされていると思いますか。〔n=666〕



【問 8】子どもの声(意見や気持ち)をまちづくりに反映することについてどう思いますか。〔n=667〕

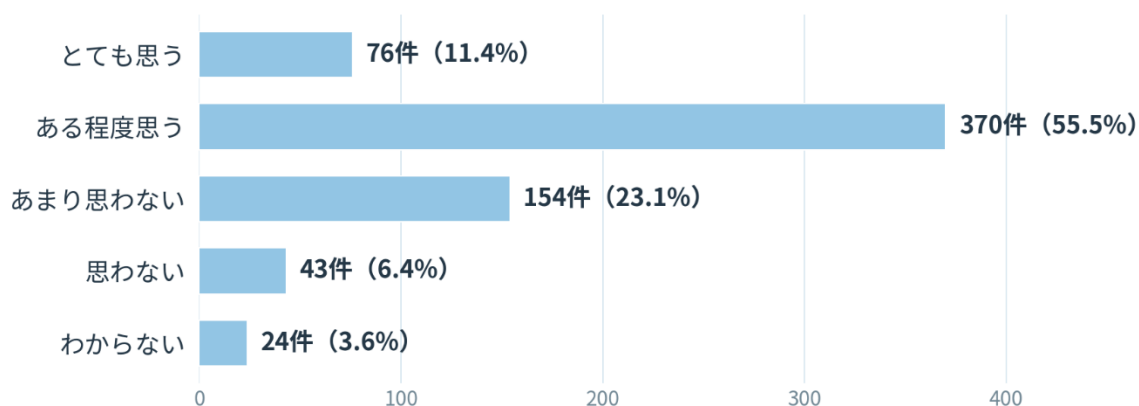


【問 9】子育ては家庭だけでなく、地域や社会全体で支えるべきだと思いますか。〔n=667〕

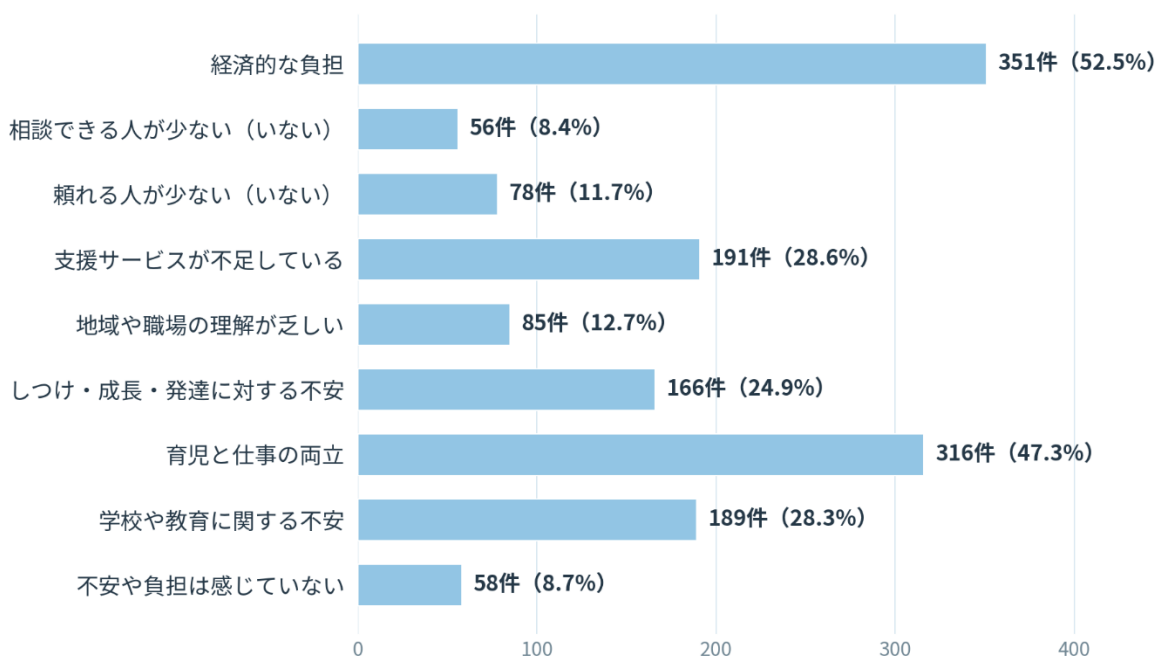


③子育て環境について

【問 10】京丹後市は子育てしやすい環境だと思いますか。〔n=667〕



【問 11】子育てや地域での子育て支援に関して、不安や負担に思うこと(複数回答)
〔n=668〕



4 京丹後市の人口推移・推計

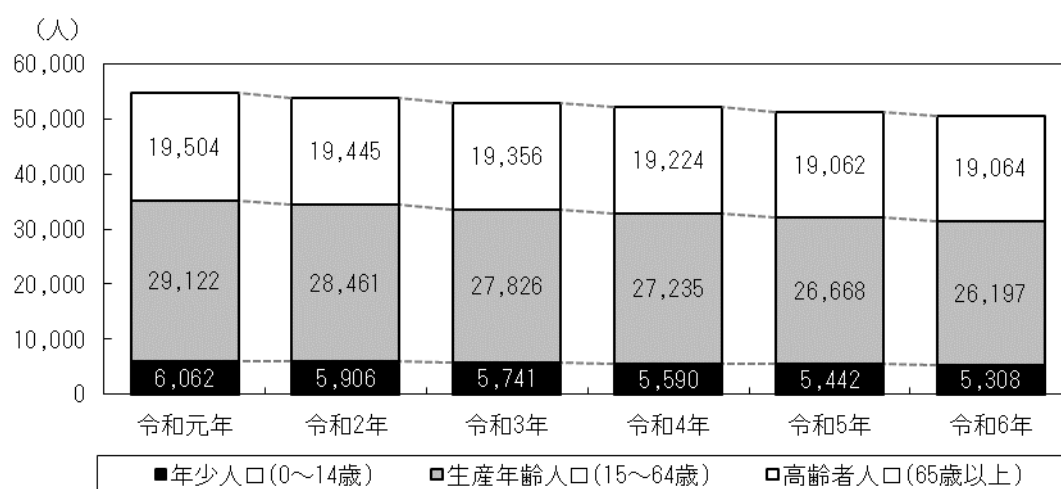
第3期京丹後市子ども・子育て支援事業計画の策定時に、教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」を算出するための基礎資料として整理した人口推移・人口推計等の統計データを掲載しています。

(1) 年齢3区分別の人口推移・推計

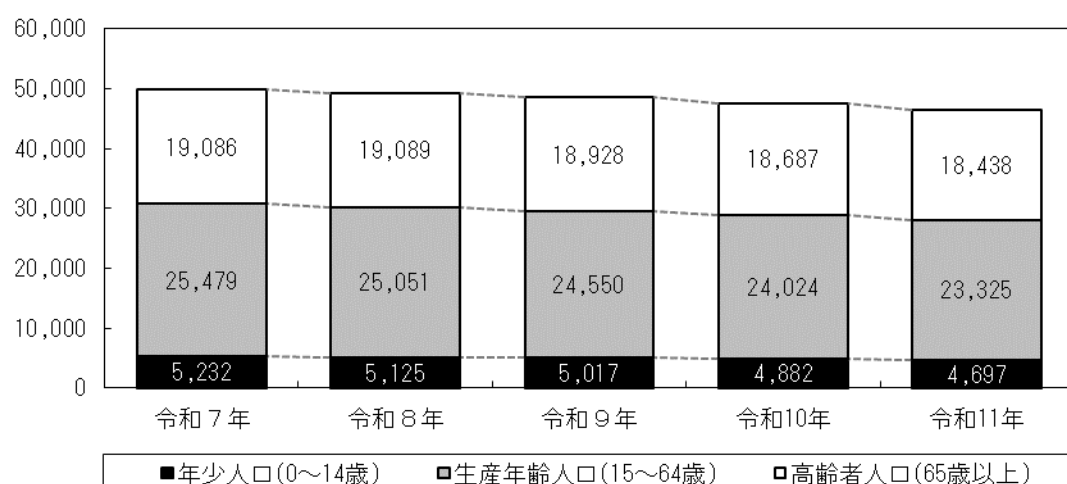
京丹後市の総人口は減少傾向にあります。年齢3区分別人口の推移をみると、年少人口と生産年齢人口は減少傾向にあり、高齢者人口は横ばい傾向にあります。

推計については、総人口及び各区分別人口とも減少傾向が予測されます。

■年齢3区分別人口の推移



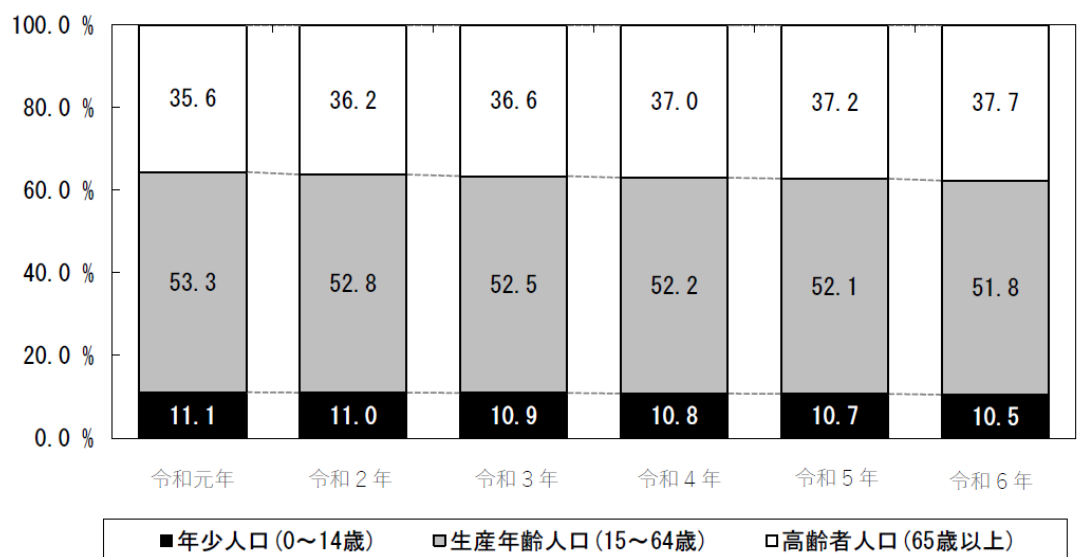
■年齢3区分別人口の推計



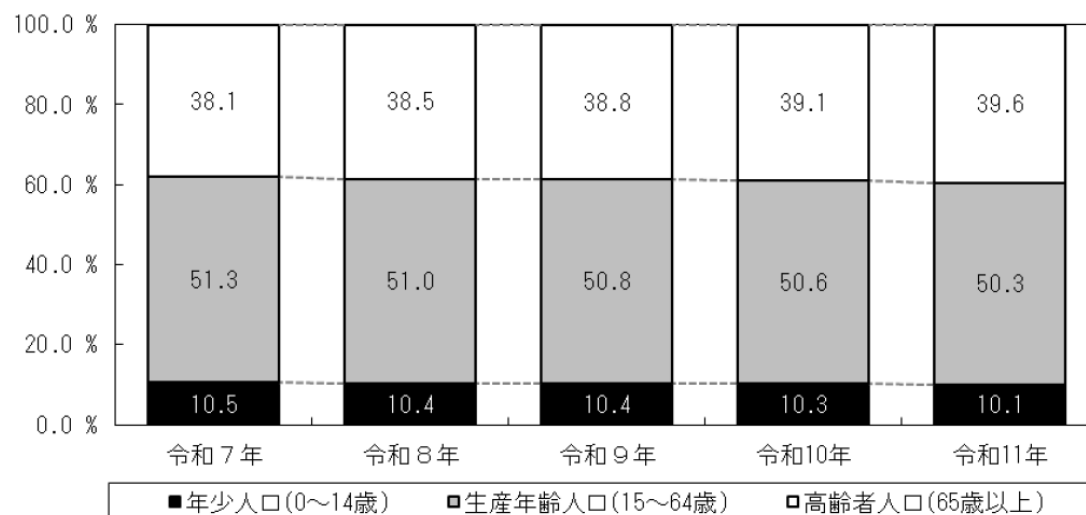
(2) 年齢3区分別人口比率の推移・推計

年齢3区分別人口比率の推移をみると、年少人口比率と生産年齢人口比率は下降傾向にあります。一方、高齢者人口比率は上昇しています。推計についても同様の傾向が予測され、令和11年には元年と比べ、年少人口比率が1%減少する見込みです。

■年齢3区分別人口比率の推移



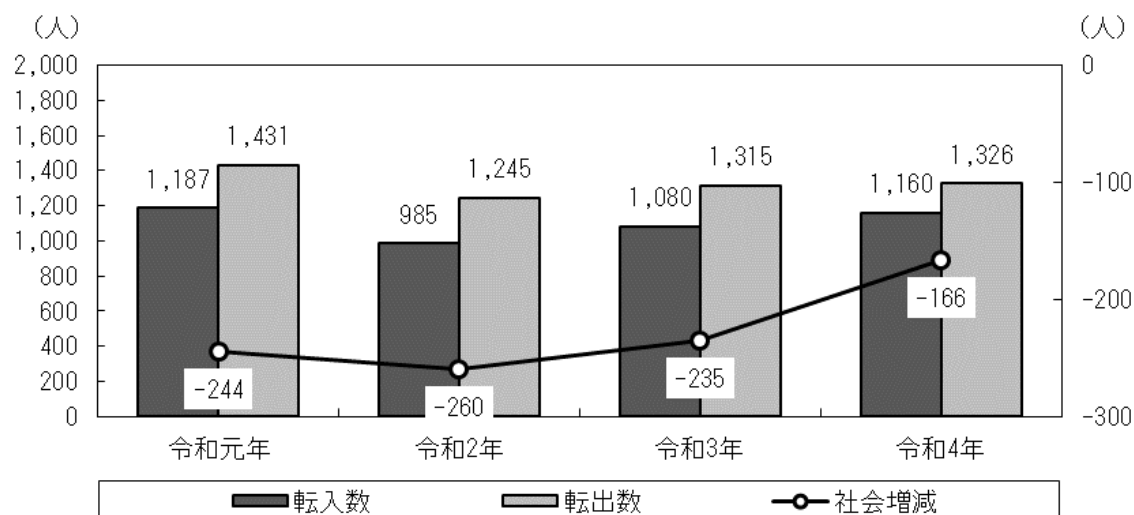
■年齢3区分別人口比率の推計



(3) 社会動態

転入数も転出数も令和2年に減少したのち、その後は増加傾向にあります。社会増減は、転出が転入を上回っていますが、その差は少なくなってきました。

■社会動態の推移

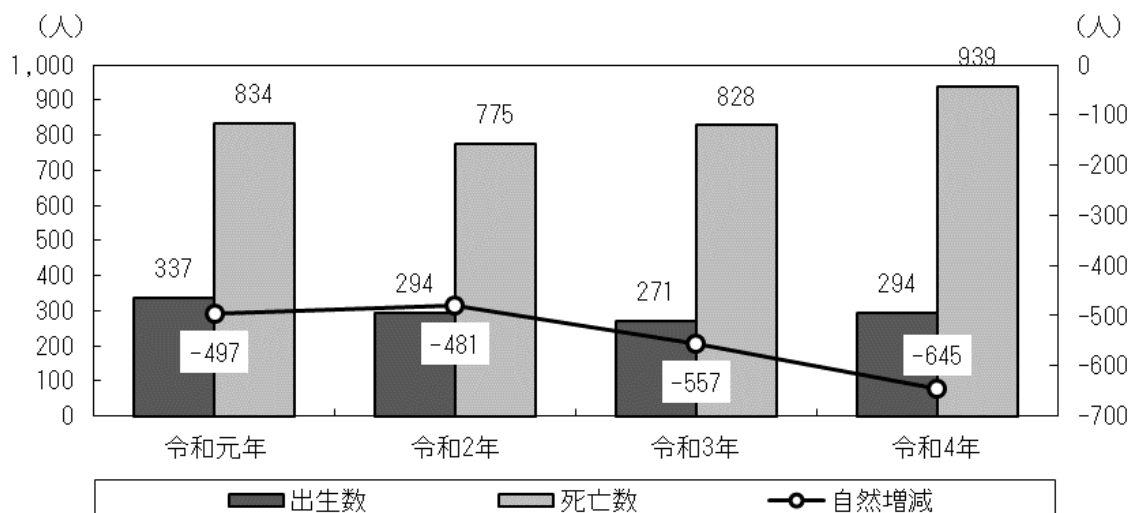


資料：京都府統計書 市区町村別人口の増減（自然動態・社会動態）

(4) 自然動態

出生数は増減を繰り返し、死亡数は増加傾向です。自然動態は、死亡数が出生数を大きく上回っています。

■自然動態の推移

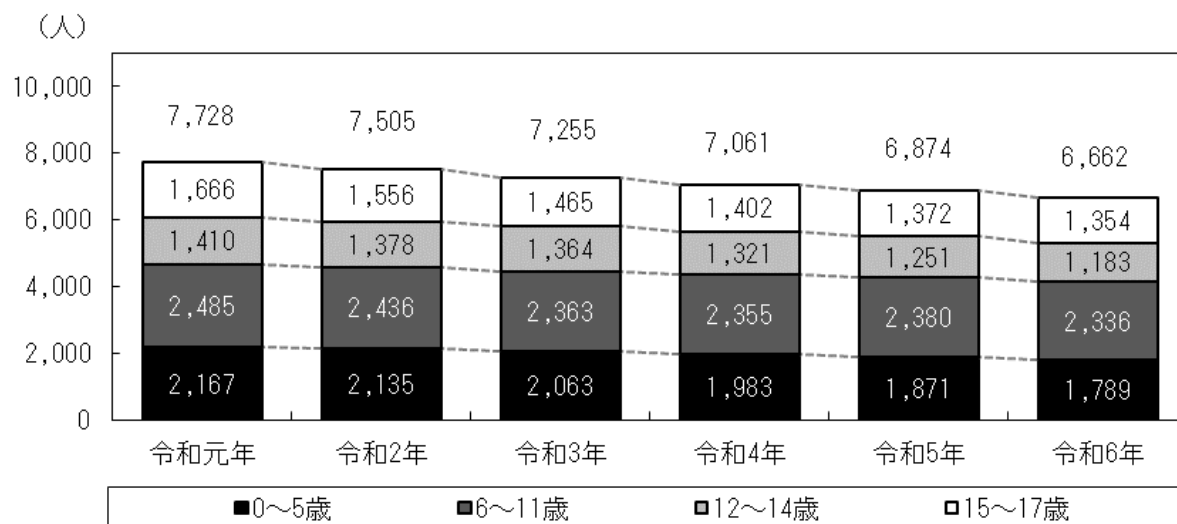


資料：京都府統計書 市区町村別人口の増減（自然動態・社会動態）

(5) 子どもの人口推移・推計

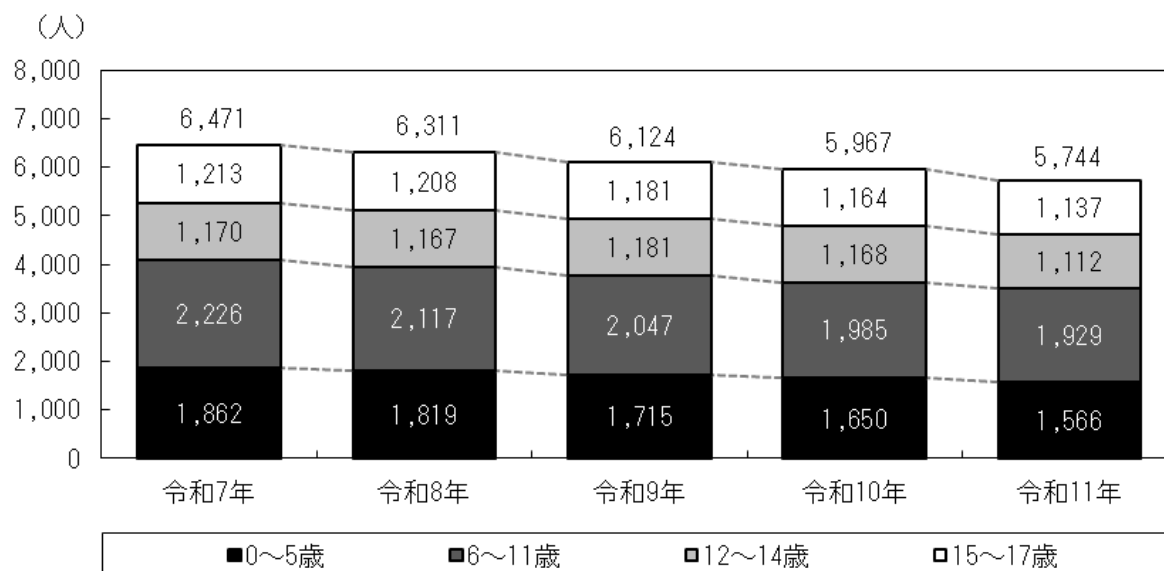
18 歳未満の子どもの人口は各階層で減少傾向にあります。推計についても同様の傾向が予測されます。令和 11 年の 18 歳未満の子どもの人口は令和元年の7割弱程度まで減少すると見込まれます。

■子どもの人口推移



資料：住民基本台帳（4月1日現在）

■子どもの人口推計



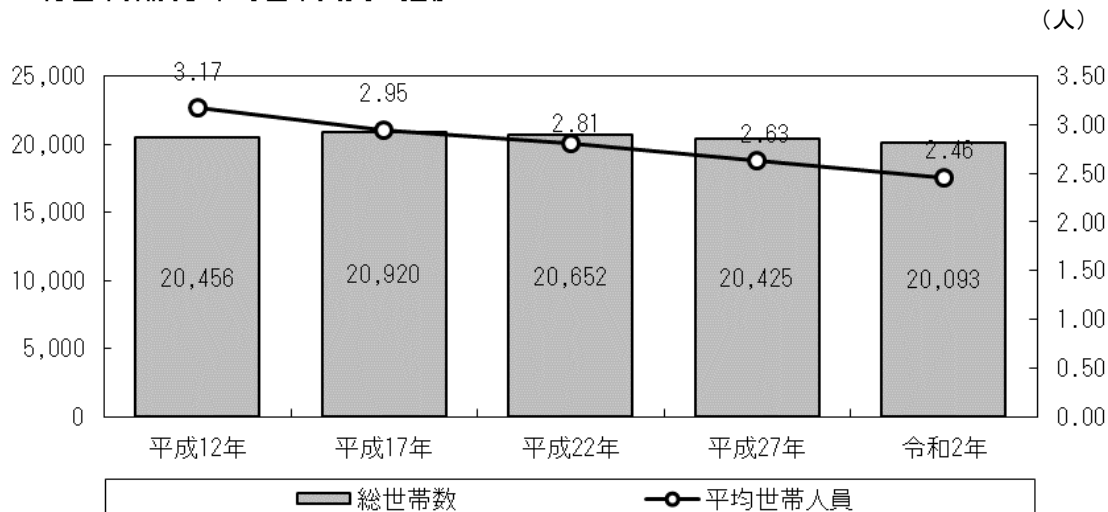
資料：住民基本台帳をもとにコーホート変化率法により算出

5 京丹後市の世帯の状況

(1) 総世帯数及び平均世帯人員の推移

京丹後市の総世帯数はほぼ横ばいで推移していますが、1世帯あたり平均世帯人員は減少傾向にあり、平成17年以降3人を下回っています。

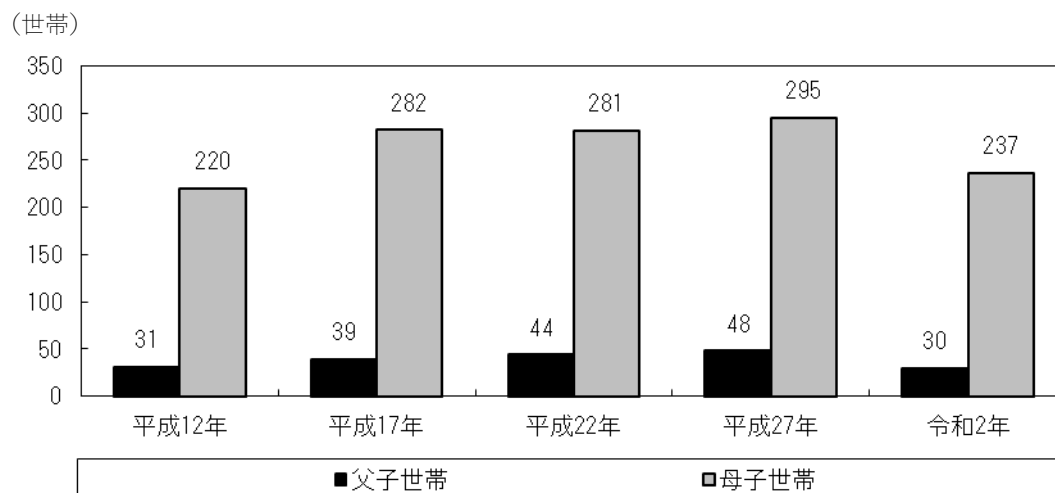
■総世帯数及び平均世帯人員の推移



(2) 父子世帯及び母子世帯の推移

父子世帯数は平成17年以降増加し、母子世帯数は平成12年から平成27年にかけて大きく増加しましたが、令和2年はいずれも減少しています。

■父子世帯及び母子世帯の推移

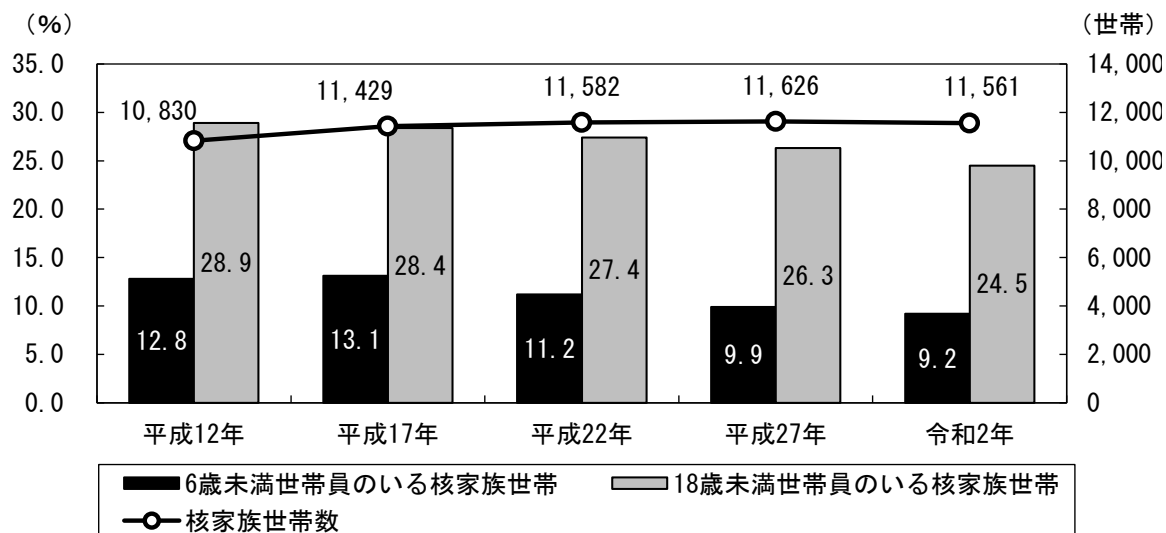


資料：国勢調査

(3)子育て世帯の推移

核家族世帯数は増加傾向ですが、令和2年はやや減少しました。18歳未満世帯員のいる核家族世帯は減少傾向にあり、6歳未満世帯員のいる核家族世帯は平成17年以降減少傾向にあります。

■6歳未満世帯員及び18歳未満世帯員のいる核家族世帯の割合

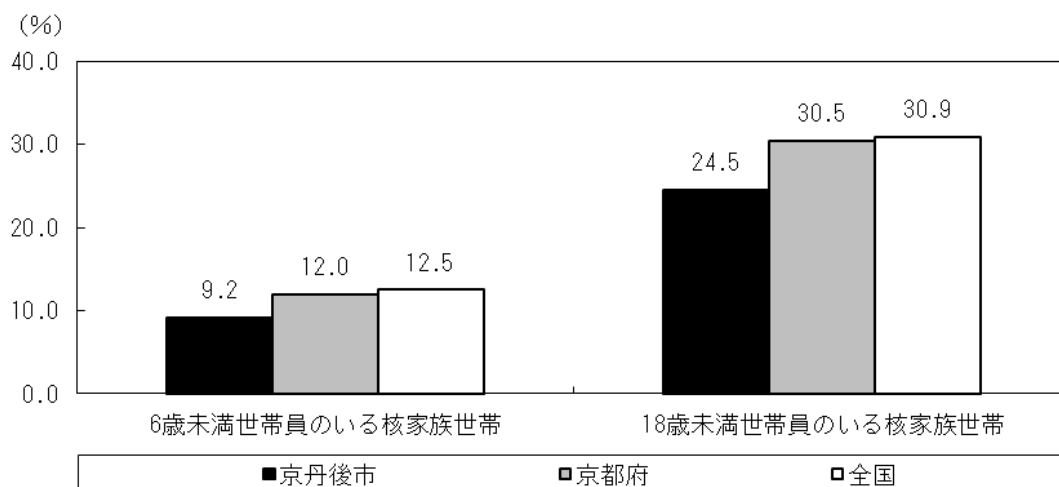


資料：国勢調査

(4)子育て世帯の状況

子どもがいる核家族の割合を全国や府と比較すると、京丹後市は全国や府より低い水準であることがわかります。

■一般世帯数に占める子どもがいる核家族世帯の割合（国・京都府・京丹後市の比較）

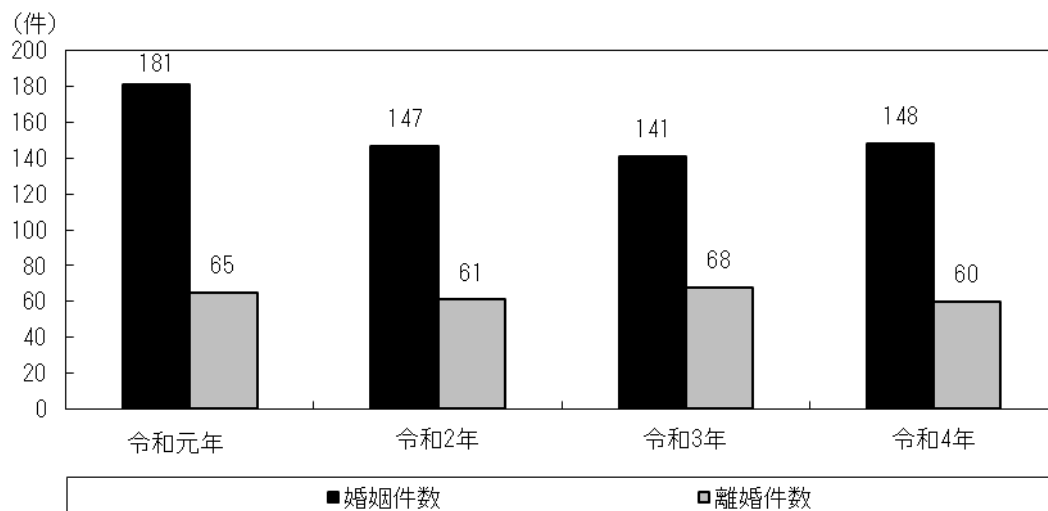


資料：国勢調査(令和2年)

(5) 婚姻件数及び離婚件数の状況

婚姻件数は令和2年に減少し、それ以降は横ばいの状況です。離婚件数は横ばいの状況です。

■ 婚姻件数及び離婚件数の推移

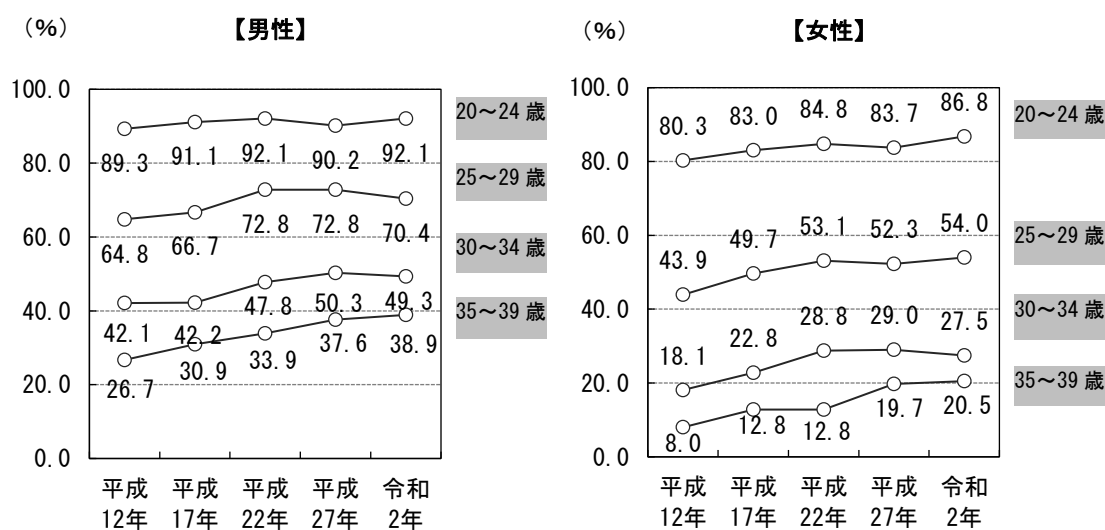


資料：京都府統計書 市区町村別人口動態

(6) 未婚率の推移

未婚率は平成 22 年まではいずれの年代でも男女共に上昇傾向にありましたが、平成 27 年には 20 歳代で低下傾向にあり、令和2年では男性では 25 歳～34 歳、女性では 30 歳～34 歳で低下傾向にあります。

■ 未婚率の推移（男女別・年齢階層別）



資料：国勢調査

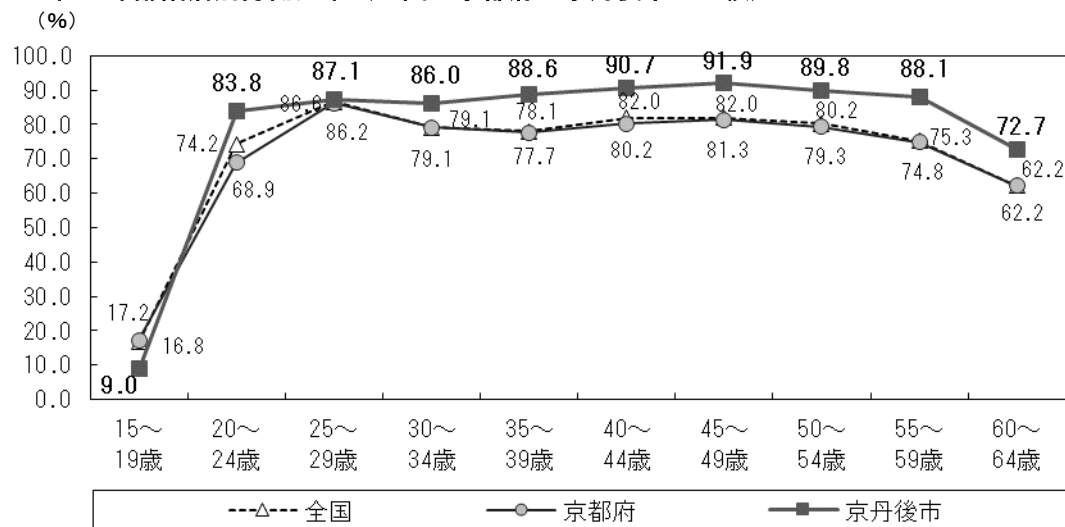
6 仕事と家庭の両立

(1)女性の労働力率

京丹後市の女性の労働力率を年齢階層別にみると、30 歳代前半で労働力率がやや低下するものの、緩やかな曲線となっています。全国・府と比較すると、京丹後市は 20 歳以降の階層において労働力率が高い水準となっています。

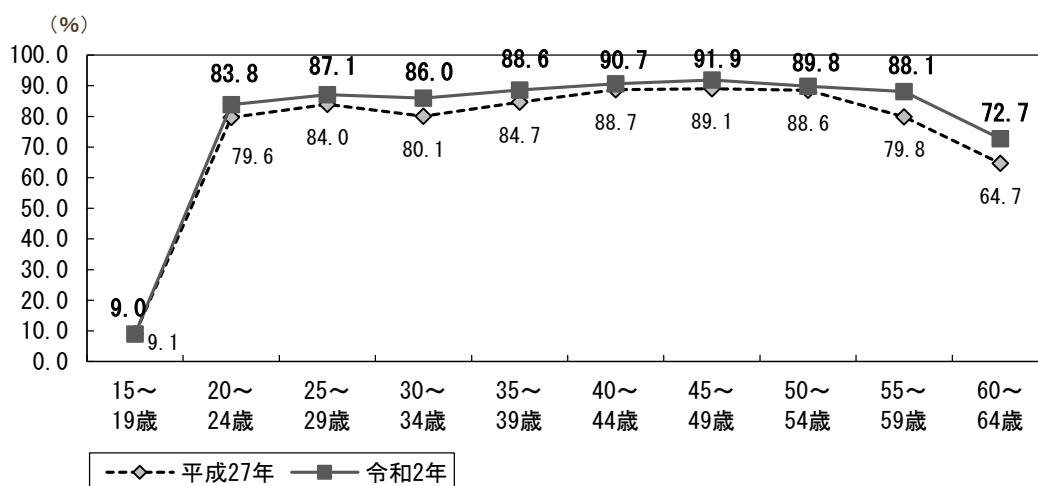
令和2年と平成 27 年と比べると、どの年代でも労働力率が高くなっています。

■女性の年齢階層別労働力率（全国・京都府・京丹後市の比較）



資料：国勢調査（令和2年）

■京丹後市における女性の年齢階層別労働力率比較



資料：国勢調査（令和2年）

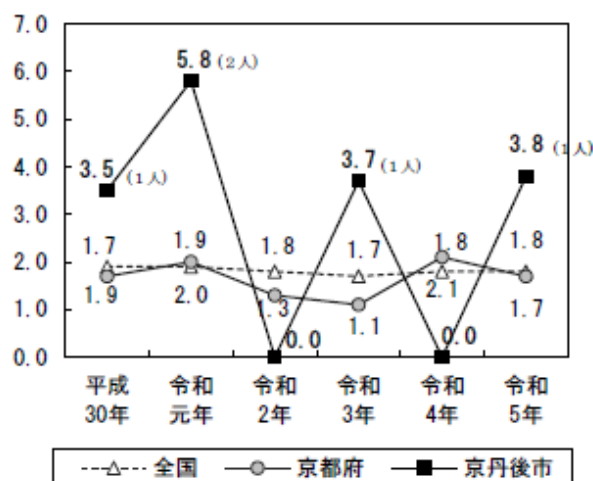
7 母子保健の状況と課題

(1) 母子保健の状況

① 死亡状況

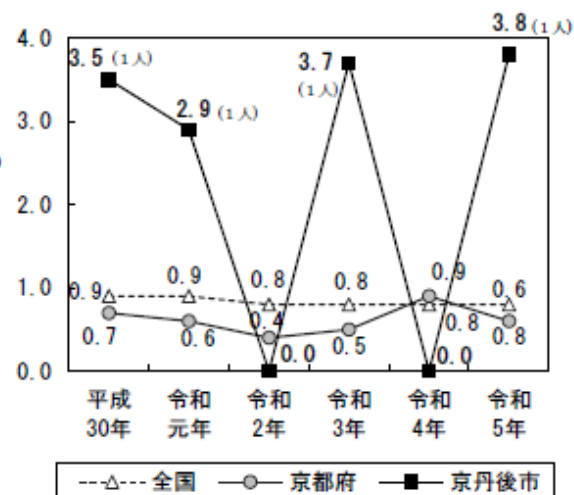
乳児死亡率、新生児死亡率は年により変動しています。令和 4 年は乳児死亡率、新生児死亡率とも0となっています。

■乳児死亡率（千対 出生後1歳までの死亡）



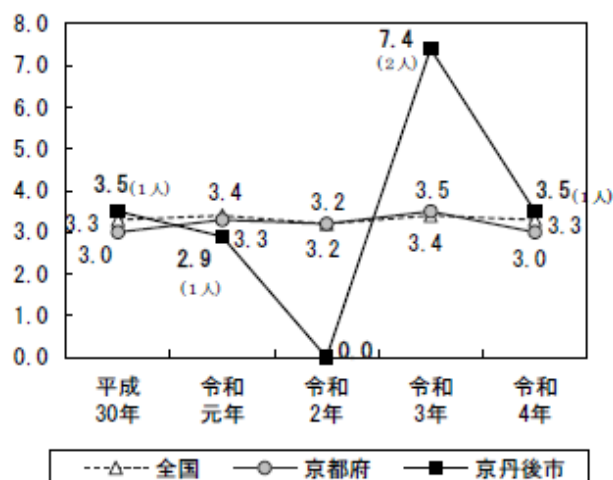
資料：人口動態統計

■新生児死亡率（千対 生後4週間未満の新生児死亡）



資料：人口動態統計

■周産期死亡率（千対 妊婦満22週以後の死産及び早期新生児死亡）



資料：人口動態統計

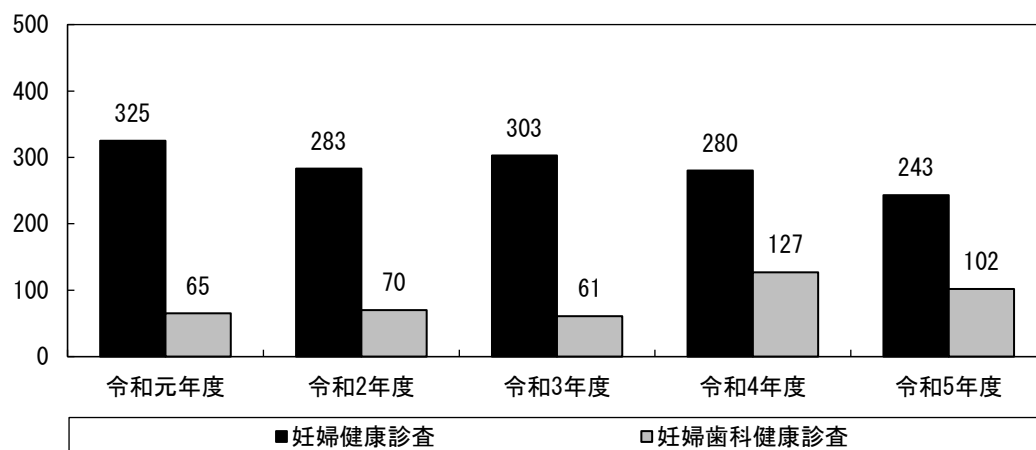
※グラフの数字は、1,000 出産あたりの人数で、() 内は実人数を示しています。

②妊婦健康診査及び妊婦歯科健康診査受診状況

妊婦健康診査は、母子健康手帳配布者のうち流産及び死産等により妊娠が中断された人以外は、ほぼ受診を行い、妊娠中の健康管理を実施しています。妊婦歯科健康診査については、令和4年度から無償化したことにより受診率が上昇し、妊婦の約 4 割の受診となっています。

■受診者数

(件)



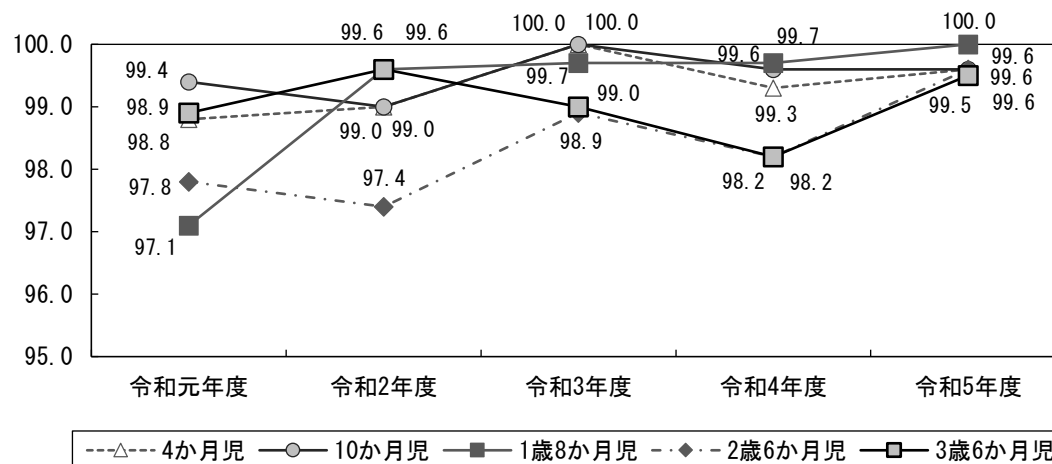
資料：子育て支援課

③乳幼児健康診査受診状況

乳幼児健康診査は 97%以上の高い受診率で推移しており、令和5年度は 99.5%～100%となっています。

■受診率

(%)

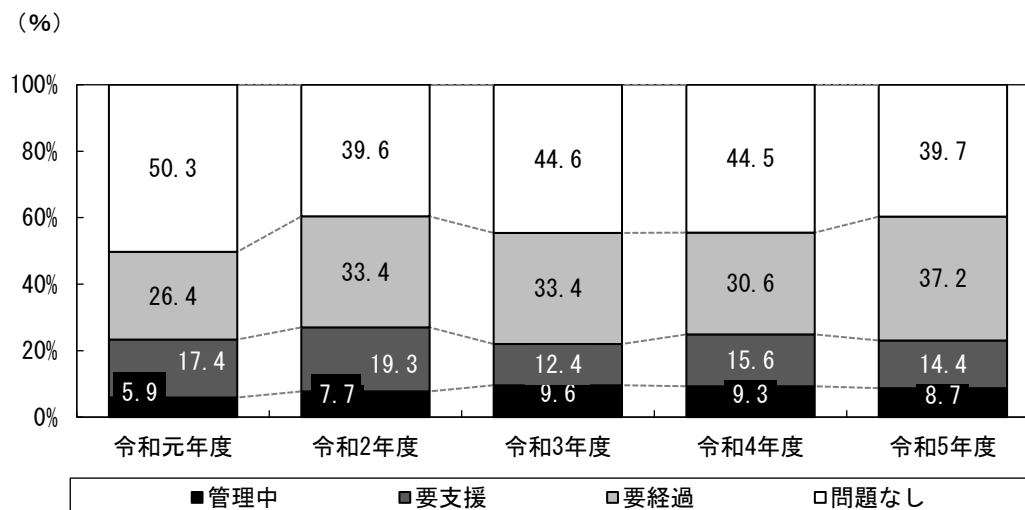


資料：子育て支援課

④発達障害児等早期発見・早期療育支援事業の状況

発達障害児等の早期発見及び早期療育支援事業については、すべての保育所及び認定こども園の4歳児を対象にスクリーニングを実施しています。

■スクリーニングの結果

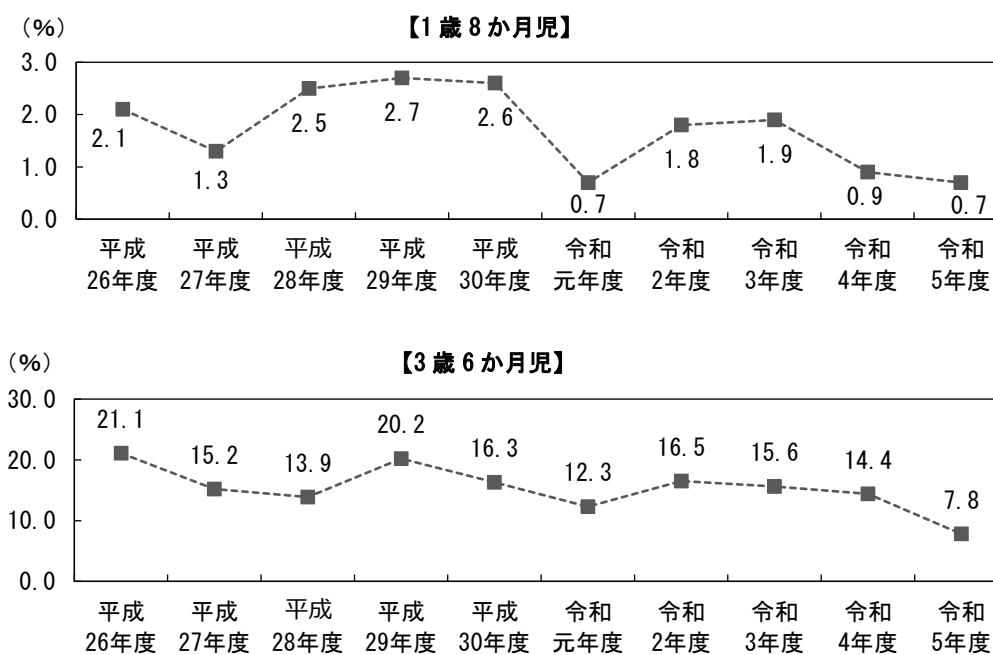


資料：子育て支援課

⑤う歯の状況

健康な歯を守るため、幼児を対象に歯科健康診査及び歯科指導、フッ素塗布やフッ化物洗口等を実施しています。う歯保有率については、1歳8か月児では、令和元年度以降は2%未満で推移し、減少傾向となっています。3歳6か月児では、令和5年度に10%を下回りました。

■う歯保有率



資料：子育て支援課

(2)母子保健の課題

①妊娠・出産・育児までの切れ目のない支援

健やかな出産を迎えるための妊婦健康診査や妊婦歯科健診の勧奨、個々の状況に応じた保健指導等、妊婦期からの健康管理を一層充実していく必要があります。また、産婦健康診査や産後ケア事業等、産後間もない時期の支援体制を強化するとともに、正しい知識や情報の提供、相談及び交流の場を通して不安の解消を図るなど、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実が重要となっています。

②疾病・障害の早期発見、早期支援

乳幼児健康診査等により、すべての子どもの成長・発達の確認を行うとともに、集団に馴染みにくい特性を持った子ども、育てにくさを感じる親等に寄り添い、その子に応じた必要な支援を行う必要があります。また、関係機関が丁寧な連携を行い、支援体制を強化していくことが重要です。

③う歯の状況

幼児のう歯保有率は、減少してきているものの全国平均より高く、乳幼児期から学童期におけるフッ化物洗口事業等の予防事業やう歯予防に関する啓発を継続し、改善を図っていくことが必要です。

④感染症等の予防

感染症をはじめとした子どもの病気の予防のために、予防接種の未接種者に対する接種勧奨や、広報等により正しい情報の提供をすることが重要です。

8 ニーズ調査結果からみる子どもと子育て家庭の状況

京丹後市における子育て家庭を取り巻く現状や課題、市民のニーズを把握し、第3期京丹後市子ども・子育て支援事業計画策定にあたっての基礎資料とするためにニーズ調査を実施しました。調査の概要は以下の通りです。

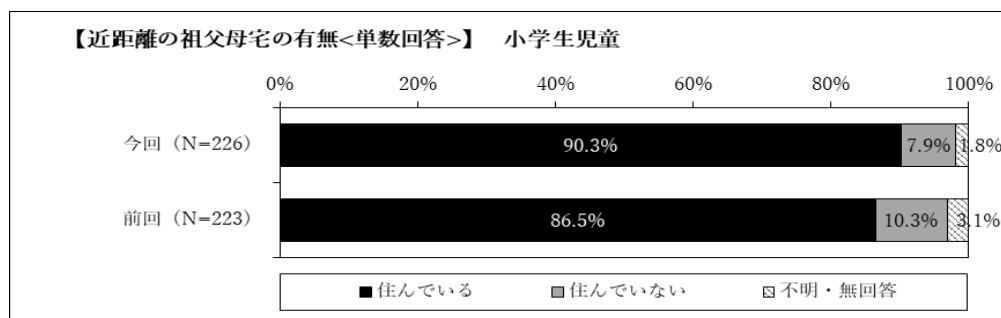
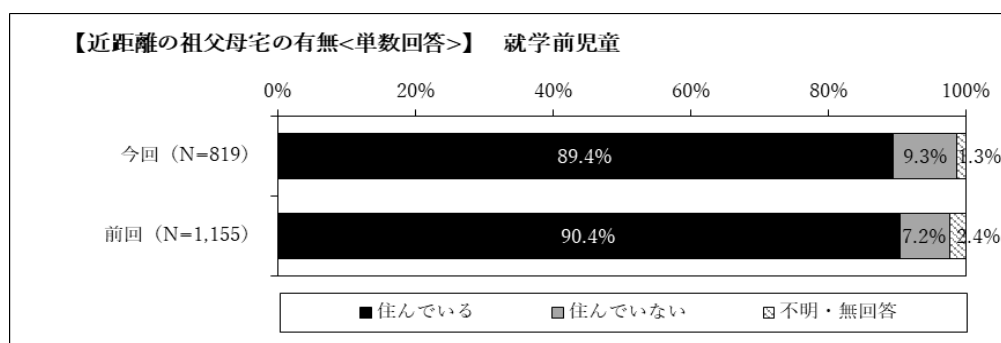
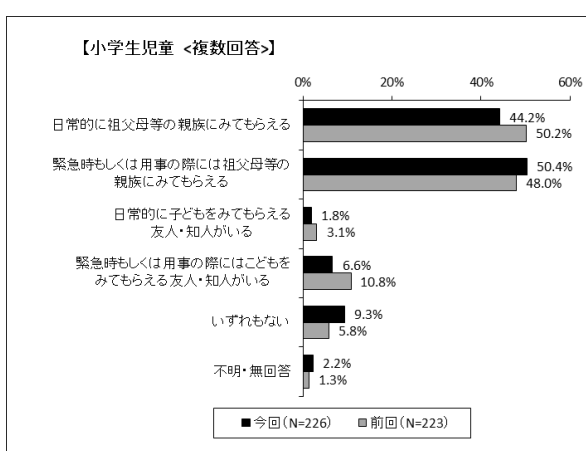
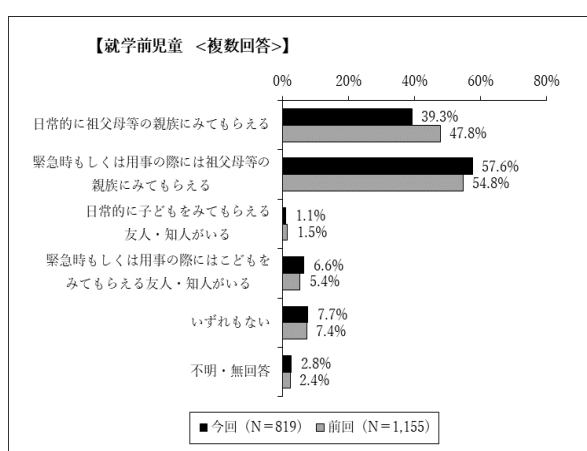
- 調 査 地 域:京丹後市全域
- 調査対象者:「就学前児童」がいるすべての家庭(就学前児童調査) 1,472 件
無作為抽出による「小学生」がいる家庭(小学生児童調査) 500 件
- 調 査 期 間:令和 6 年 2 月 14 日(水)～令和 6 年 3 月 10 日(日)
- 調 査 方 法:郵送配布、郵送回答又はインターネット回答

調 査 票	調査対象者数 (配布数)	有効回答数	有効回答率
就 学 前 児 童	1,472	819	55.6%
小 学 生 児 童	500	226	45.2%
合 計	1,972	1,045	53.0%

(1) 日頃、子どもをみてもらえる状況について

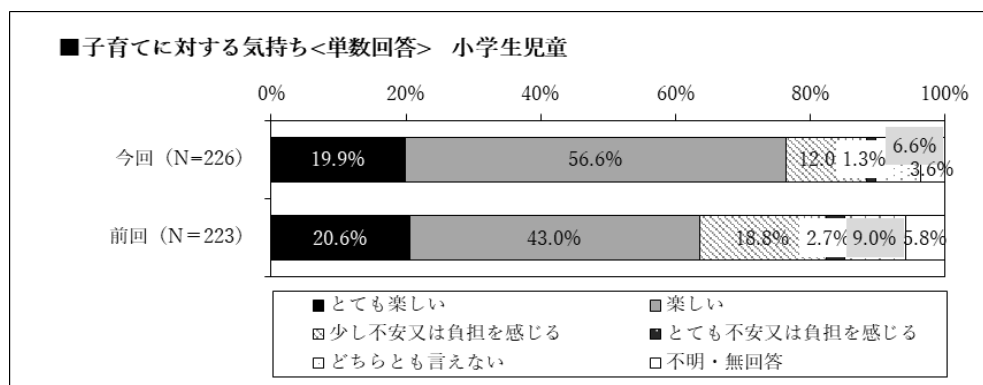
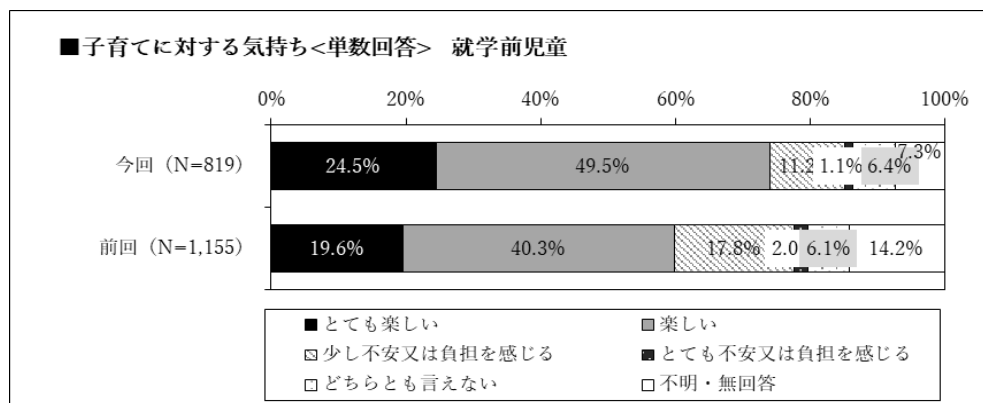
日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が就学前児童・小学生児童ともに5割台、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」も就学前児童・小学生児童ともに約4割となっています。また、祖父母が近くに住んでいるかについては、「住んでいる」が就学前児童・小学生児童ともに約9割となっていることから、多くの保護者が日頃から祖父母等の協力を得て子育てをしている状況がうかがえます。

一方、子どもをみてもらえる親族・知人について、「いずれもない」と回答した人は、就学前児童・小学生児童ともに1割弱となっています。



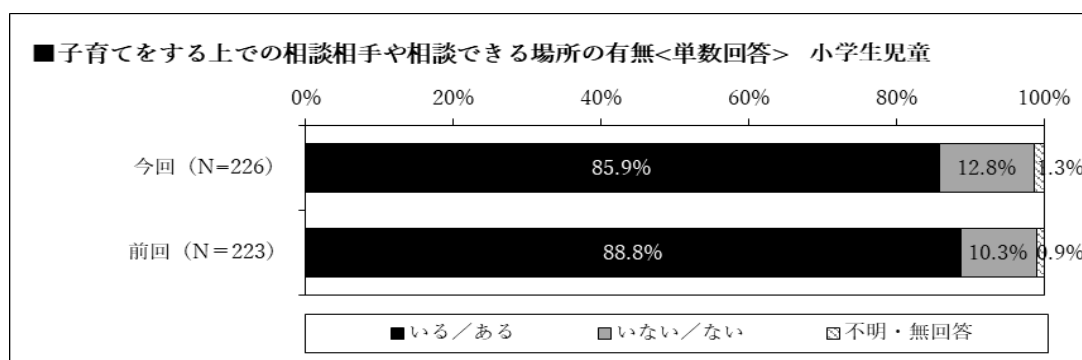
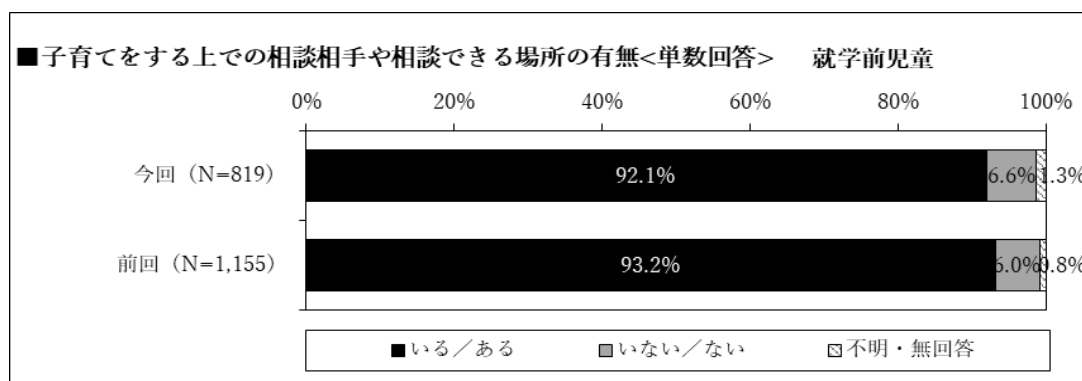
(2) 子育ての楽しさと負担感について

子育てに対する気持ちについては、『楽しい』(「とても楽しい」と「楽しい」の合計)が就学前児童・小学生児童ともに7割を超えており、前回の調査から 1 割以上増加しています。一方、『不安又は負担を感じる』(「少し不安又は負担を感じる」と「とても不安又は負担を感じる」の合計)は、就学前児童・小学生児童ともに1割強ありますが、前回の調査と比べると就学前児童では 7.5 ポイント、小学生児童では 8.2 ポイント減少しています。



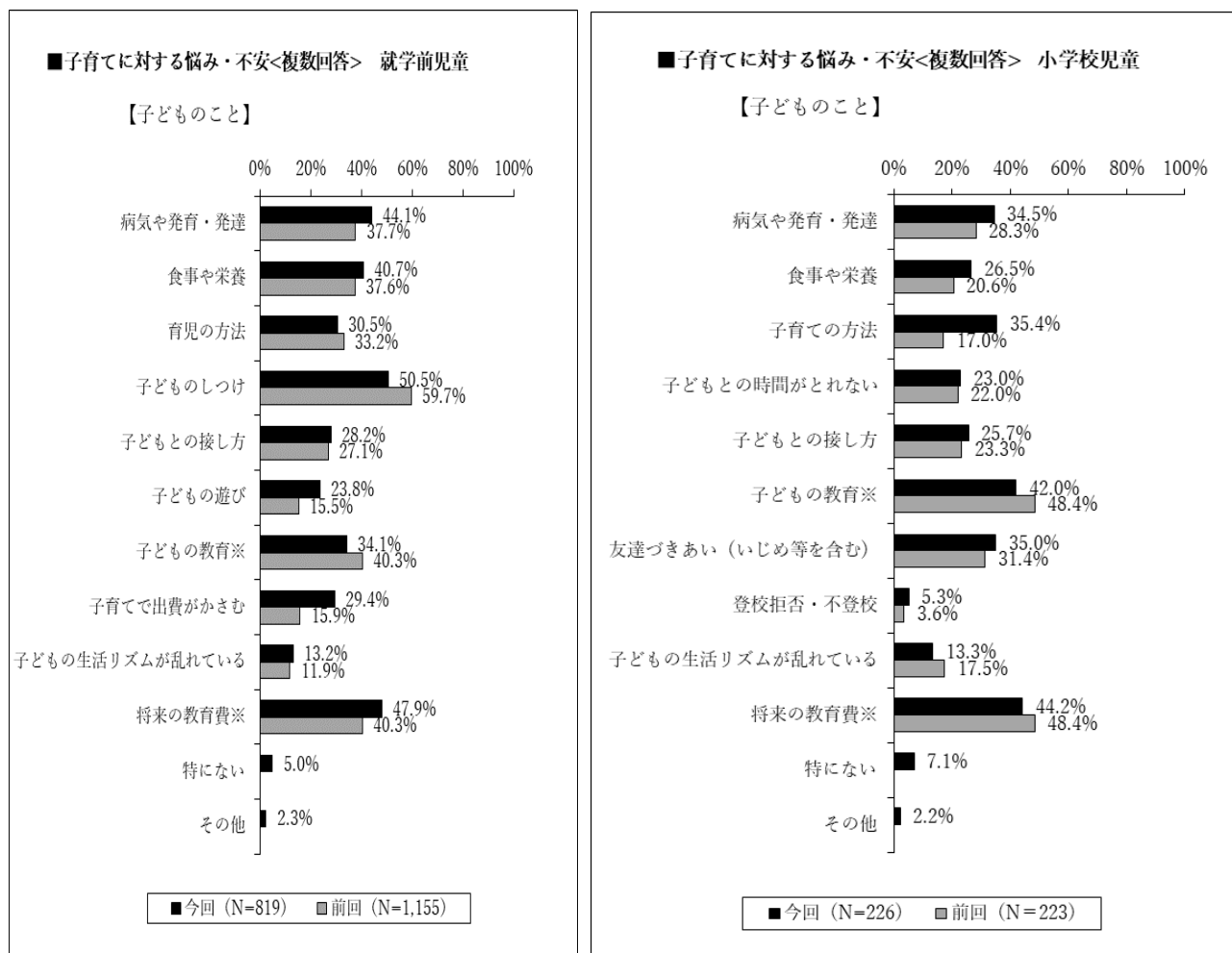
(3) 子育ての相談状況について

子育てをする上での相談相手(場所)の有無については、「いる／ある」が就学前児童で 92.1%、小学生児童で 85.9%となっています。一方、「いない／ない」が就学前児童で 6.6%、小学生児童で 12.8%と相談ができない状況にある家庭が一定数あり、また、小学生児童では前回の調査より 2.5ポイント増えています。



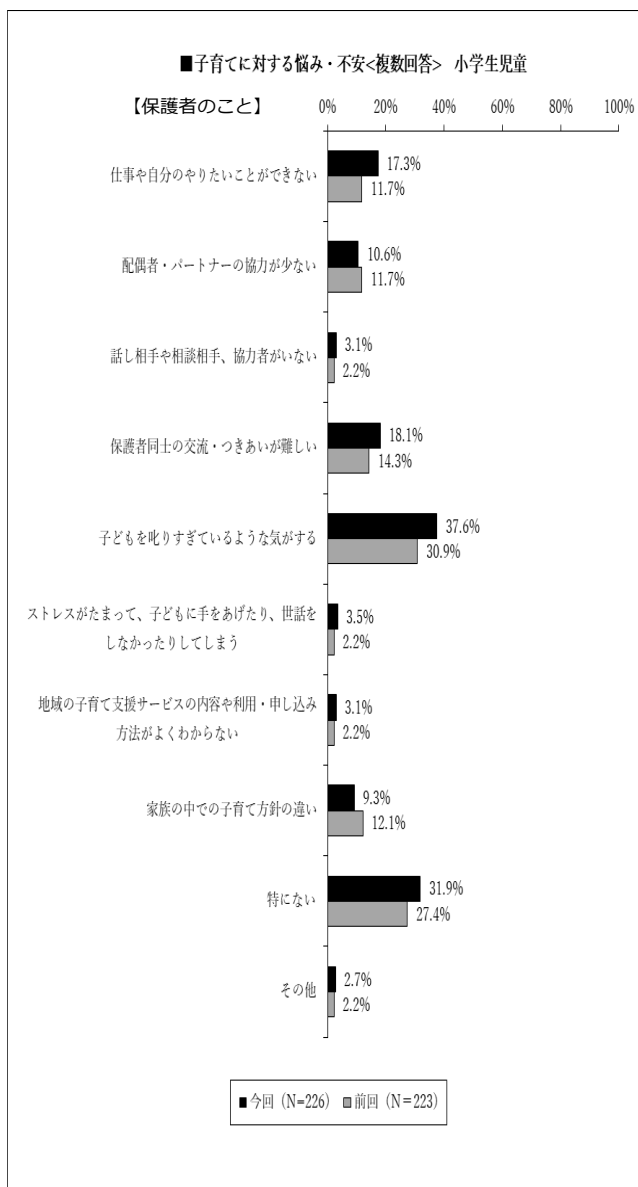
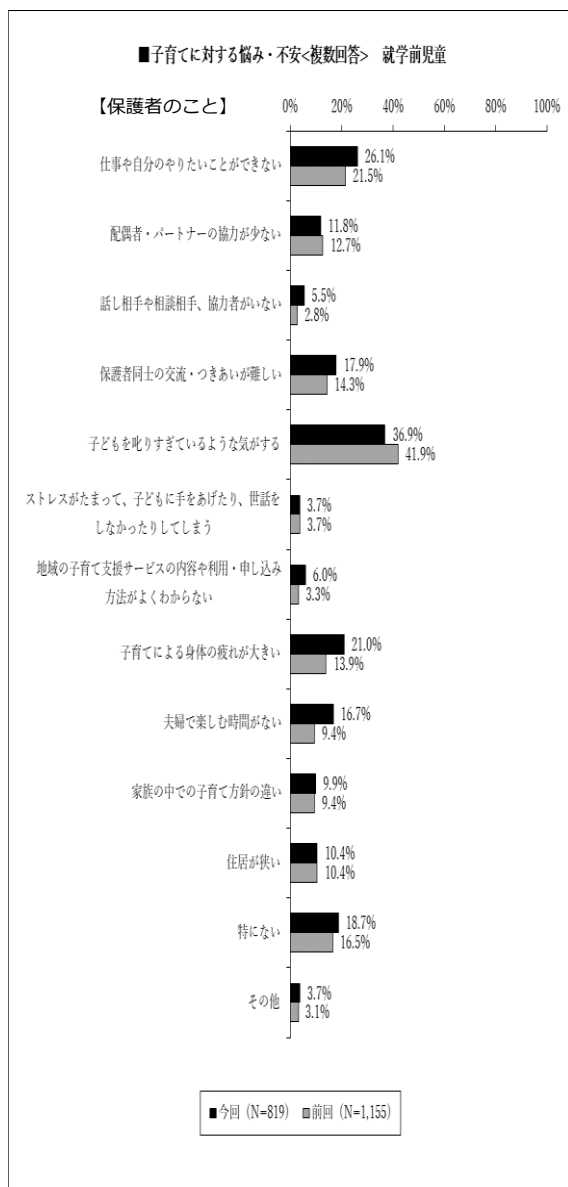
(4) 子育てに対する悩み・不安

子育てをする上での悩みや不安について『子どものこと』では、就学前児童で「子どものしつけ」が 50.5%と最も高く、次いで「将来の教育費」が 47.9%となっています。小学生児童では、「将来の教育費」が 44.2%と最も高く、次いで「子どもの教育」が 42.0%となっています。



※前回の調査の項目の「こどもの教育や将来の教育費」を、今回は、「こどもの教育」「将来の教育費」を別項目としました。そのため、前回の調査の結果には、それぞれの項目に「こどもの教育や将来の教育費」の数値を入れています。

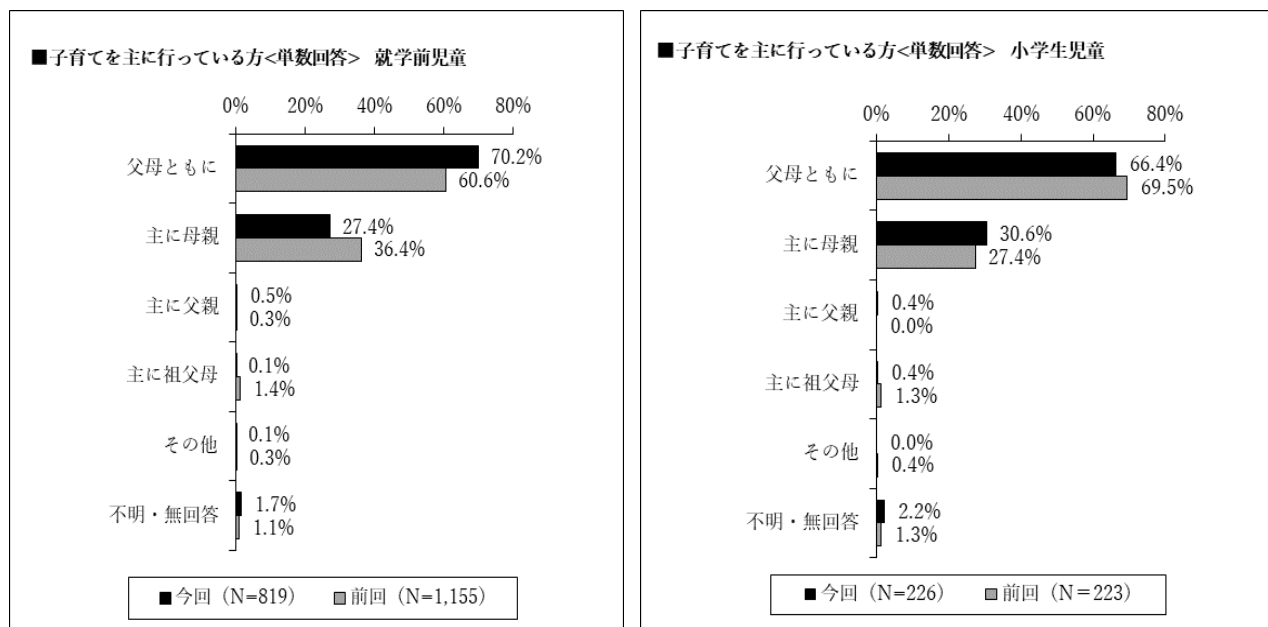
子育てをする上での悩みや不安について『保護者のこと』では、就学前児童で「子どもを叱りすぎているような気がする」が 36.9%で最も高く、次に「仕事や自分のやりたいことができない」が 26.1%で、前回調査と比べると 4.6 ポイント増加しています。小学生児童でも「子どもを叱りすぎているような気がする」が 37.6%と最も高く、前回調査と比べると 6.7 ポイント増加し、「仕事や自分のやりたいことができない」は 17.3%で、前回調査と比べると 5.6 ポイント増加しています。



※「子育てによる身体の疲れが大きい」「夫婦で楽しむ時間がない」「住居が狭い」については、就学前児童のみの項目です。

(5) 子育ての状況について

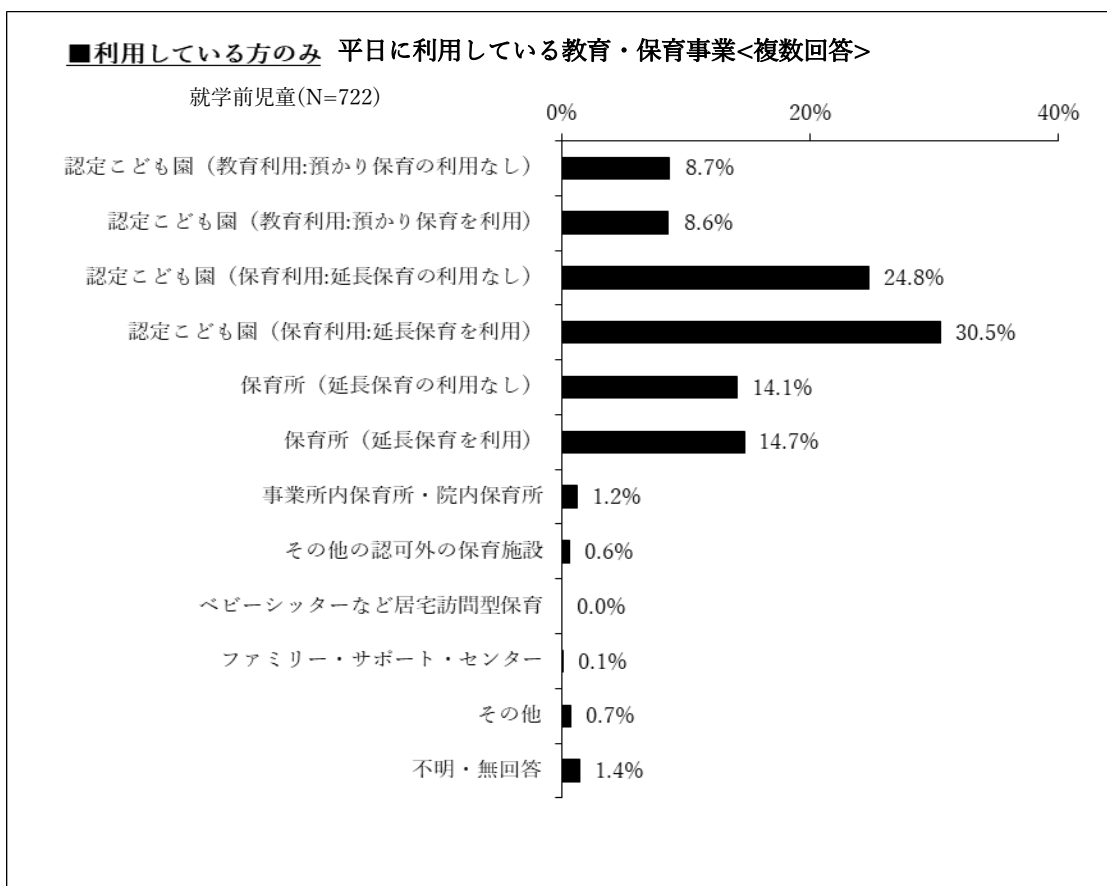
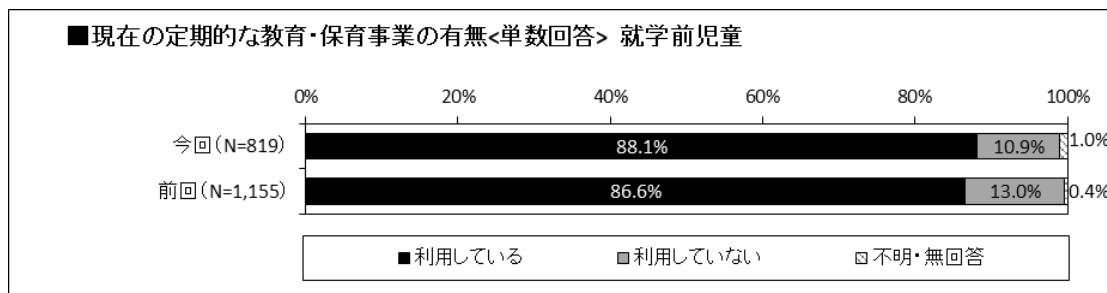
子育てを主に行っている方については、「父母ともに」が就学前児童で 70.2%、小学生児童で 66.4%と最も高く、就学前児童では、前回調査と比べおおよそ 10 ポイント増加しています。次いで「主に母親」が就学前児童で 27.4%、小学生児童で 30.6%となっています。



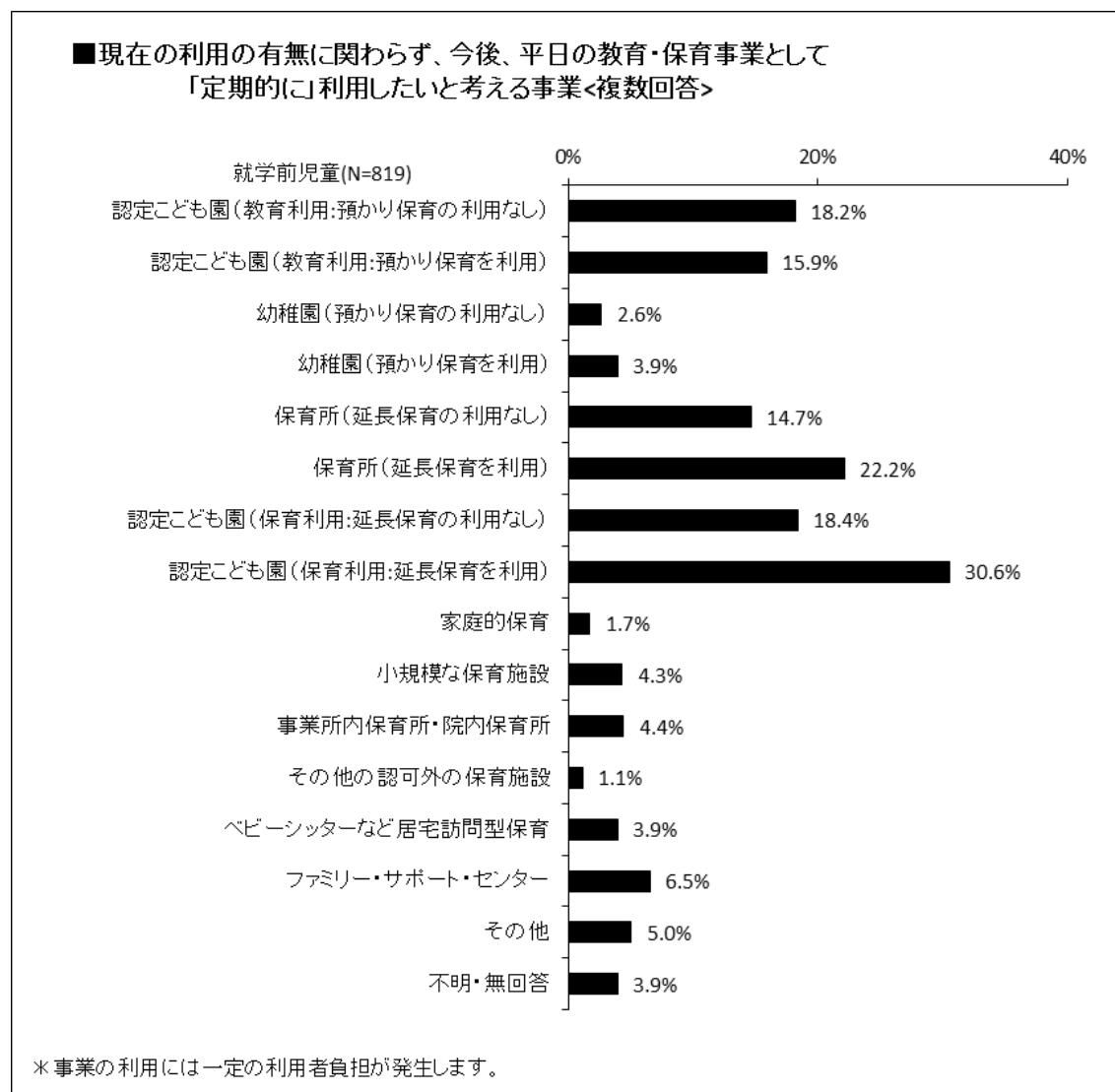
(6) 教育・保育事業について

就学前児童で、現在の定期的な教育・保育事業の利用の有無については、「利用している」が 88.1%、「利用していない」が 10.9%となっており、前回調査と比べて、2.1 ポイント減少しています。

平日に利用している教育・保育事業については、「認定こども園(保育利用:延長保育を利用)」が 30.5%と最も高く、次いで「認定こども園(保育利用:延長保育の利用なし)」が 24.8%となっています。



就学前児童で、平日に定期的に利用したいと考える教育・保育事業については、「認定こども園(保育利用:延長保育を利用)」が 30.6%と最も高く、次いで「保育所(延長保育を利用)」が 22.2%となっています。

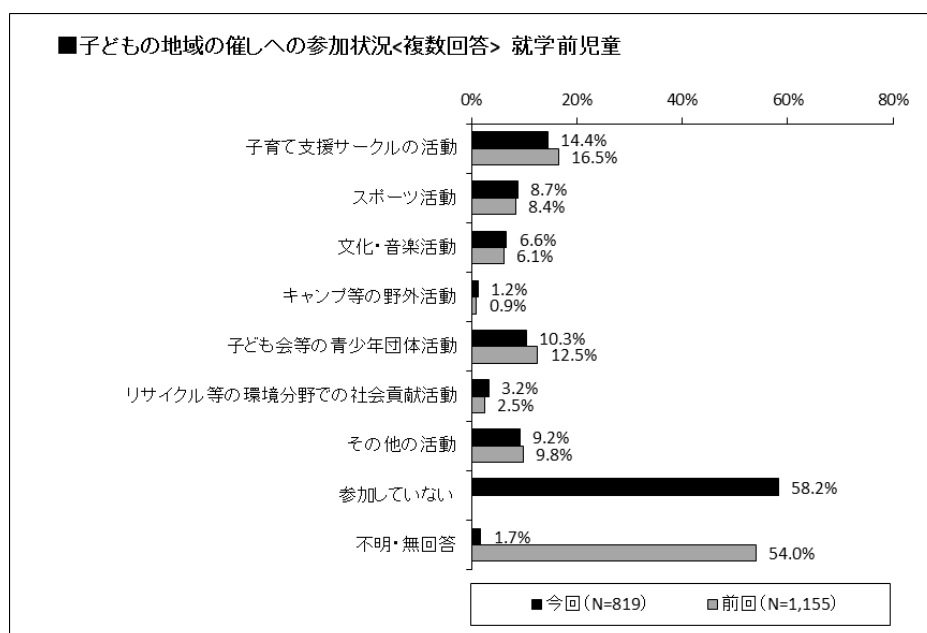
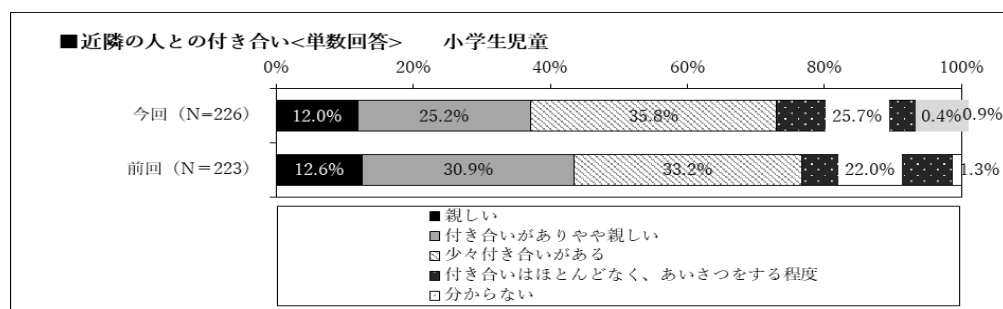
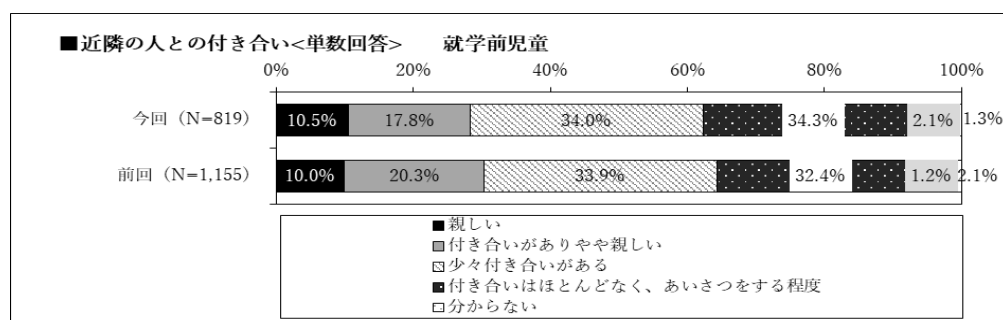


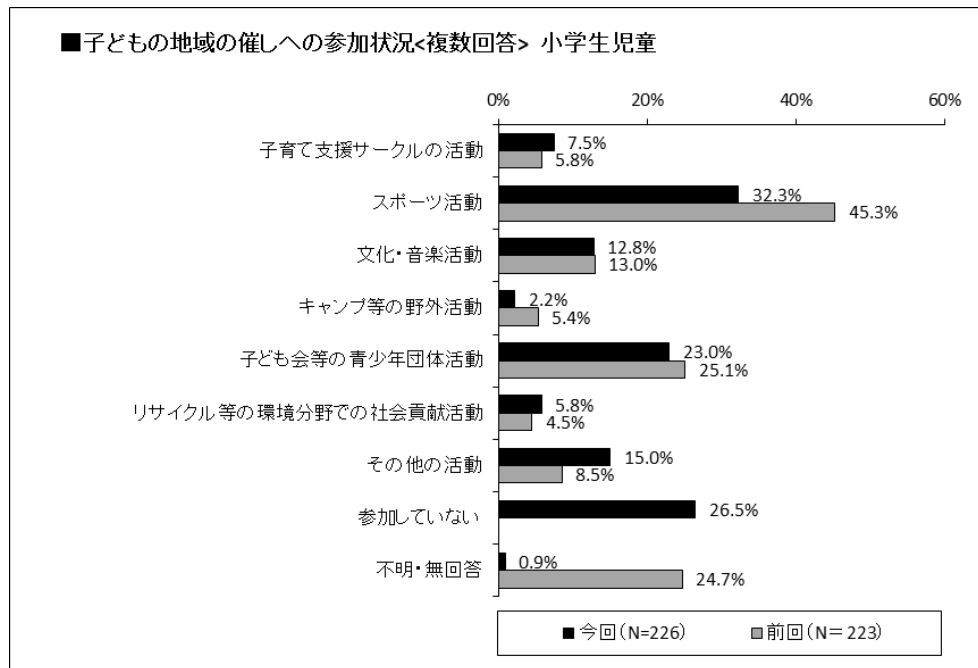
※前回の調査と今回の調査の選択項目が異なっており、比較ができないため、前回の調査結果は掲載していません。(幼稚園が認定こども園に移行したため)

(7) 地域における子育てについて

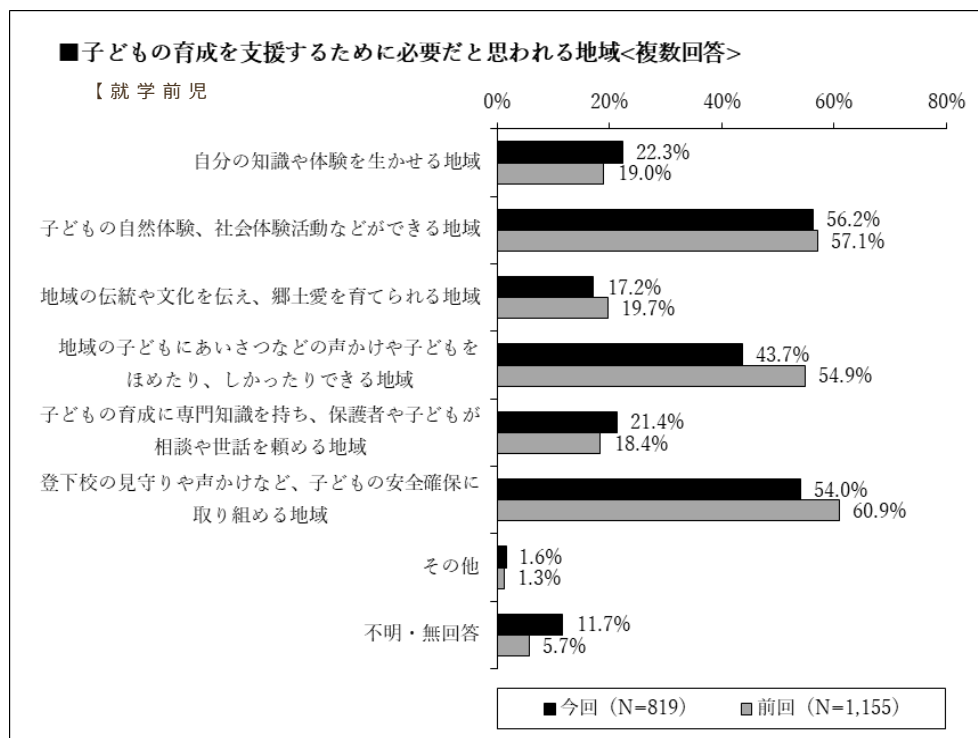
近所や地域の人々との付き合いについては、『親しい』(「親しい」と「付き合いがありやや親しい」の合計)では就学前児童で 28.3%、小学生児童で 37.2%となっています。小学生児童では、前回の調査と比べると 6.3 ポイント減少しています。

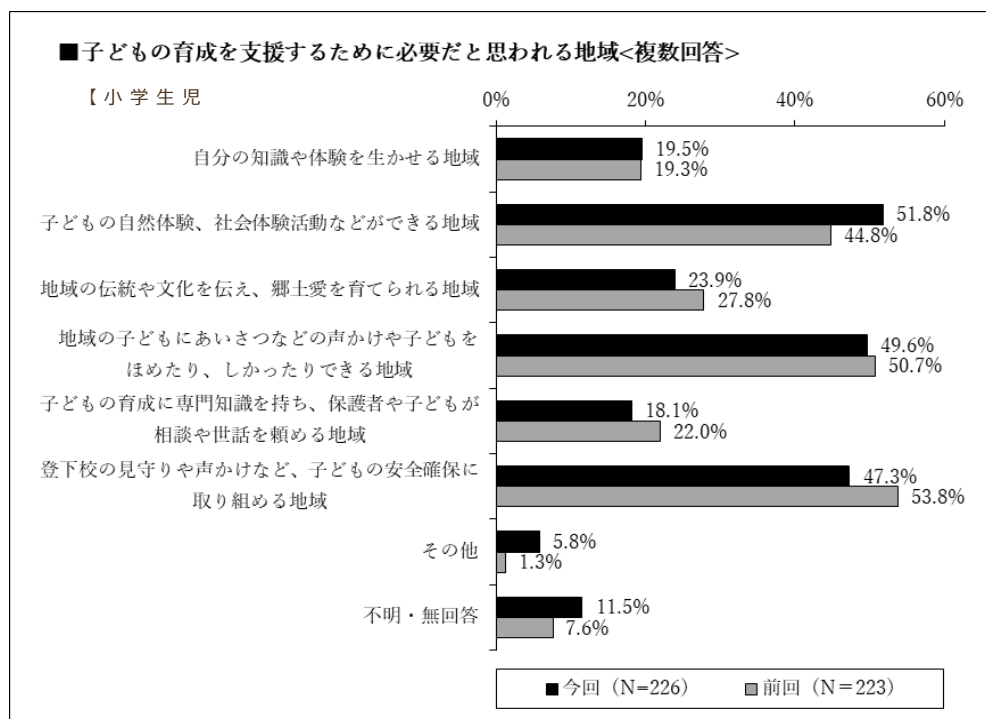
子どもの地域の催しへの参加状況については、就学前児童では、「参加していない」が 58.2%と最も高く、次いで「子育て支援サークルの活動」が 14.4%となっています。小学生児童では、「スポーツ活動」が 32.3%と最も高い状況ですが、前回と比べると 13 ポイント減少しています。次いで「参加していない」が 26.5%となっています。





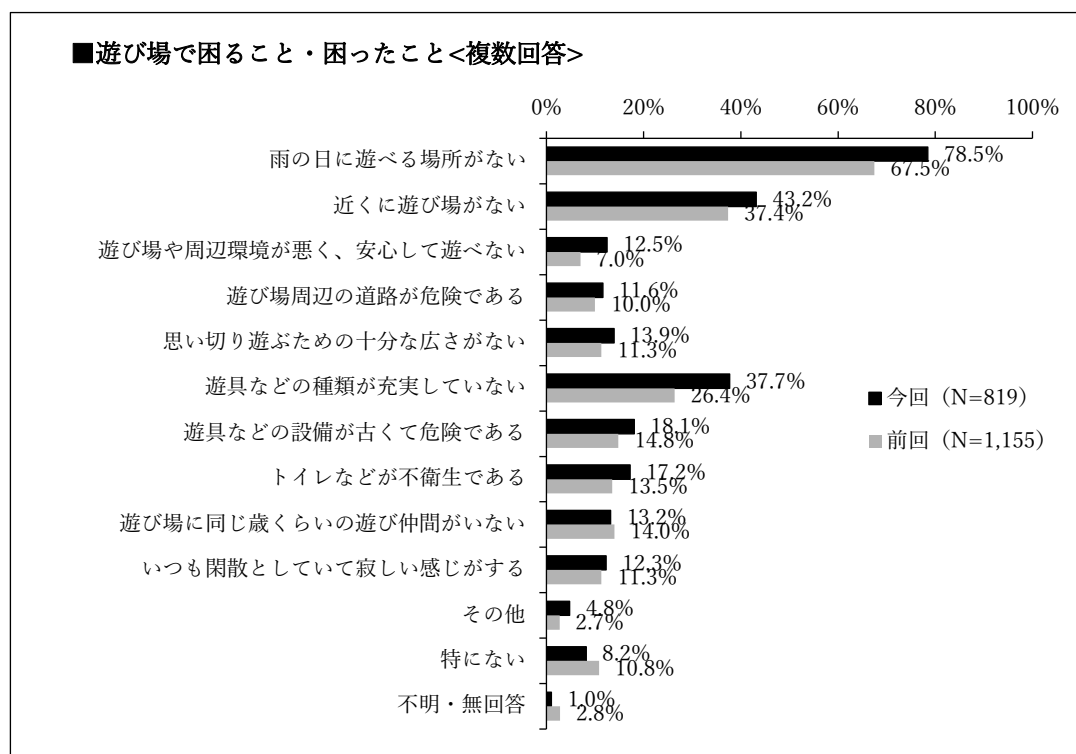
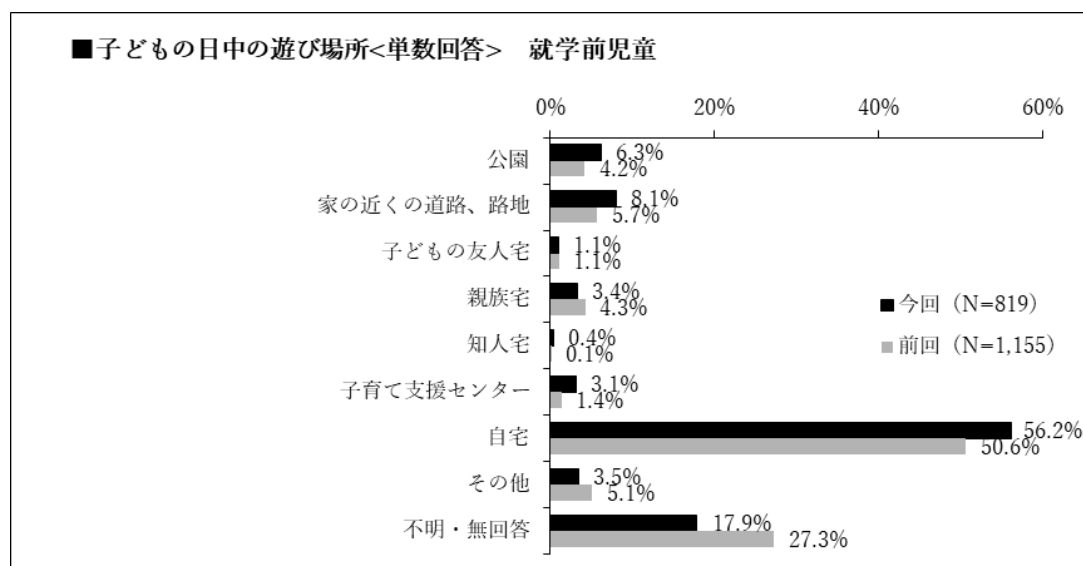
一方、子どもの育成を支援するために必要だと思われる地域については、「子どもの自然体験、社会体験活動などができる地域」「登下校の見守りや声かけなど、子どもの安全確保に取り組める地域」「地域の子どもにあいさつなどの声かけや子どもをほめたり、しかったりできる地域」が就学前児童・小学生児童ともに高いことなどから、多くの子育て家庭が地域との関わりを望んでいることがうかがえます。





(8) 子どもの遊び場について

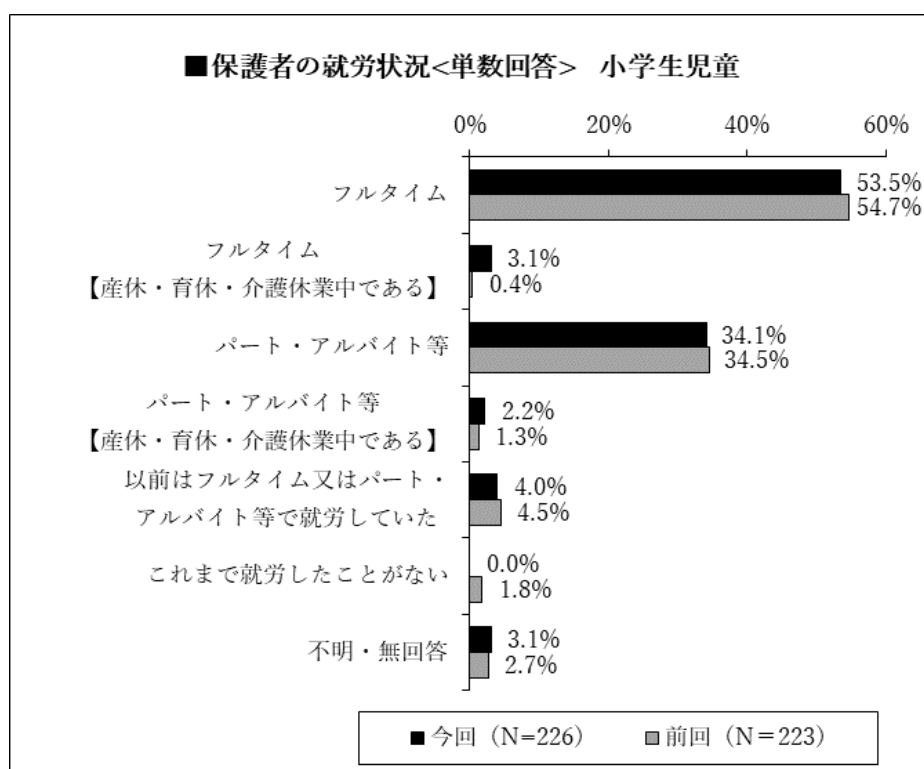
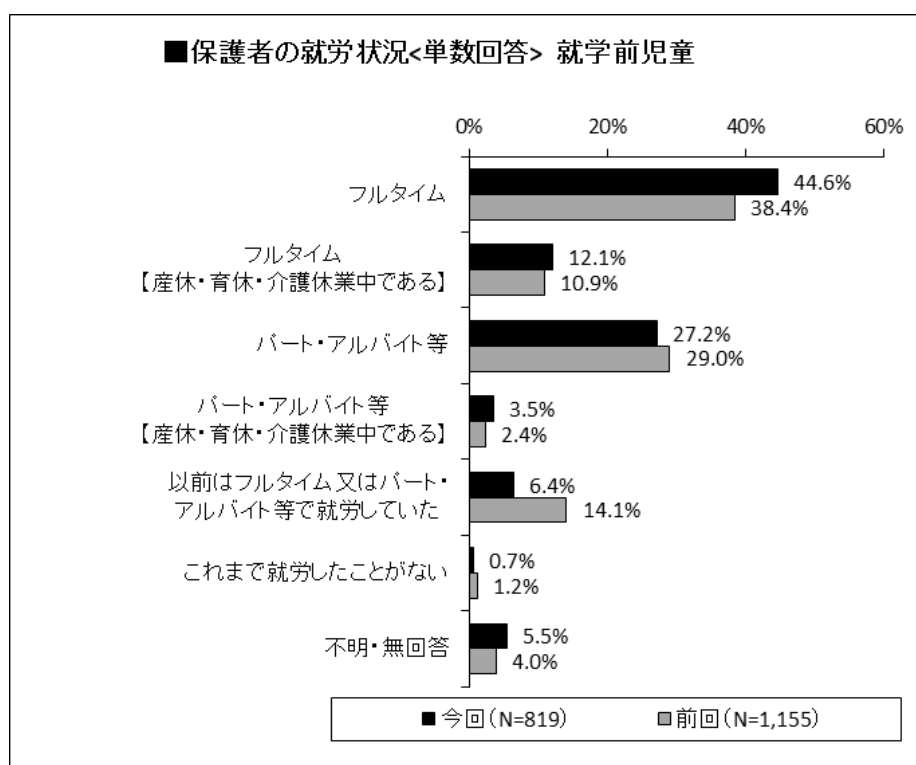
就学前児童で、子どもの日中の遊び場所については、「自宅」が 56.2%と最も高くなっています。また、子どもの遊び場で困ること・困ったことについては、「雨の日に遊べる場所がない」が約 8 割と最も高く、前回調査より 11 ポイント増加しています。次いで「近くに遊び場がない」「遊具などの種類が充実していない」等が高く、それぞれ前回の調査より 5.8 ポイント、11.3 ポイント増加しています。



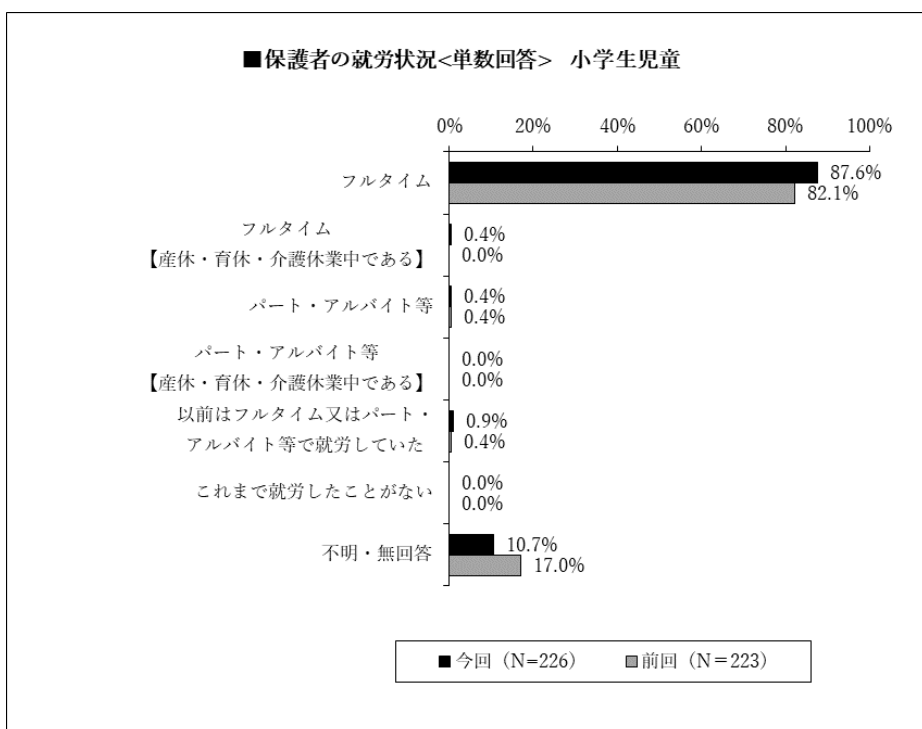
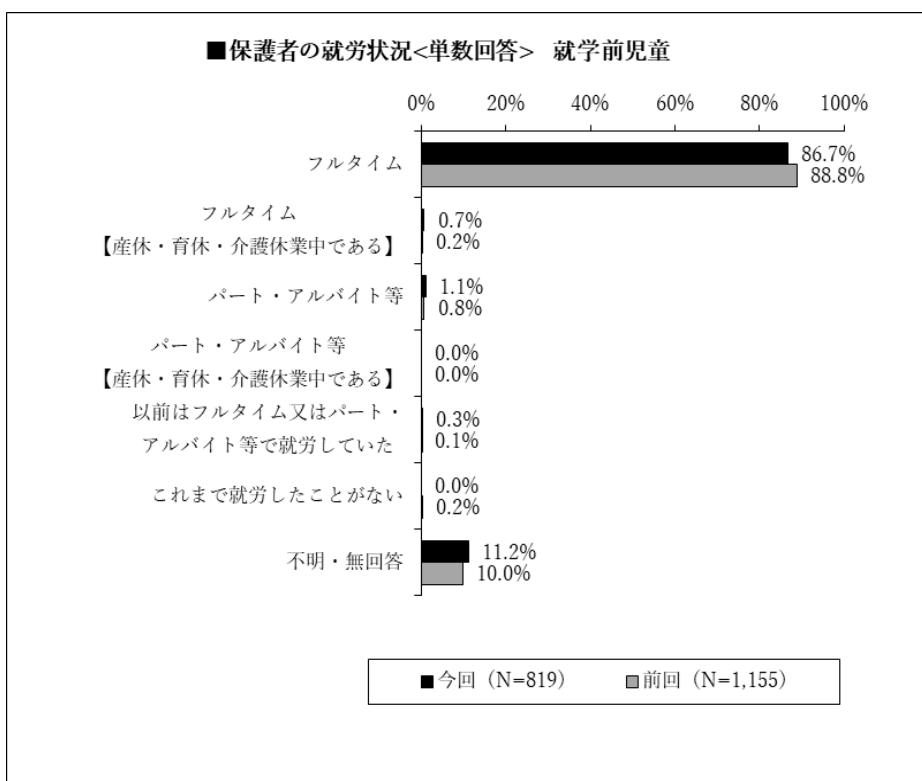
(9) 就労について

保護者の就労状況について、母親では「フルタイム」が就学前児童で44.6%、小学生児童で53.5%と最も高く、就学前児童では前回調査と比べて6.2ポイント増加しています。次いで「パート・アルバイト等」が就学前児童で27.2%、小学生児童で34.1%となっています。父親では「フルタイム」が就学前児童・小学生児童ともに8割以上と最も高くなっています。

【母親】



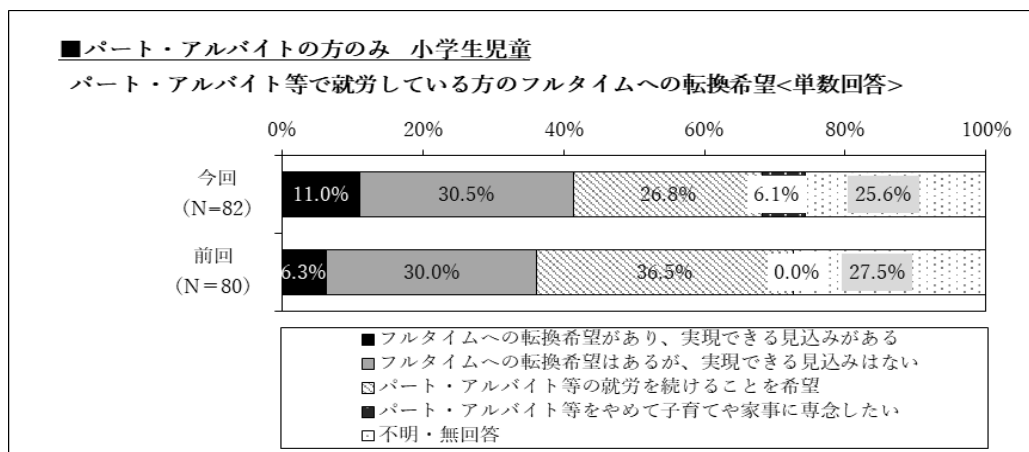
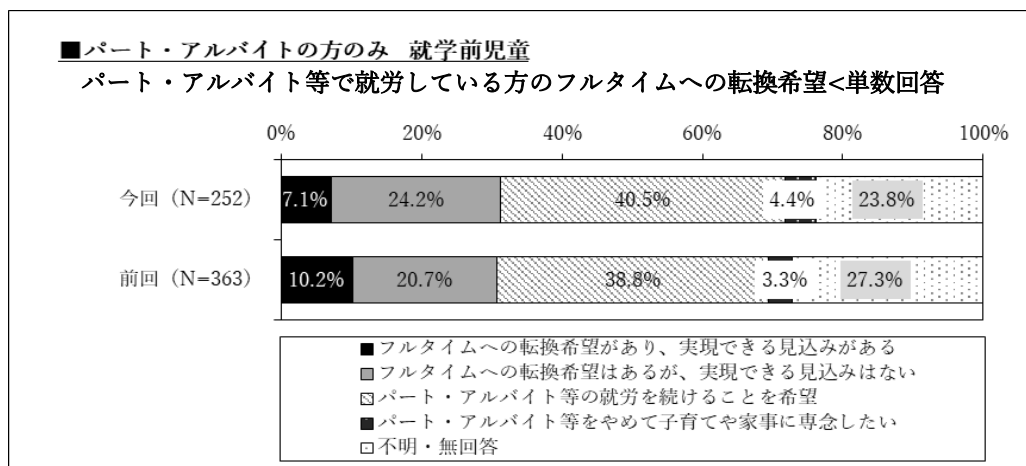
【父親】



※「フルタイム」は1週5日程度・1日8時間程度の就労、「パート・アルバイト等」はフルタイム以外の就労をさしています。

パート・アルバイト等で就労している方のフルタイムへの転換希望について、母親では「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が就学前児童で40.5%と最も高く、次いで「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が24.2%となっています。小学生児童では、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が30.5%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が26.8%となっており、前回調査と比べると、9.7ポイント減少しています。

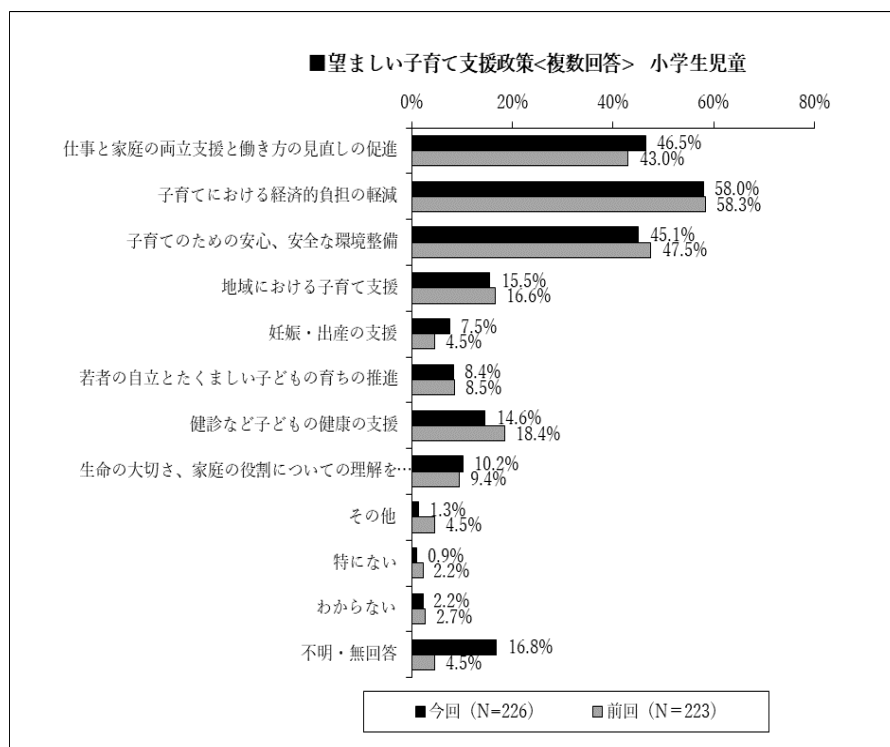
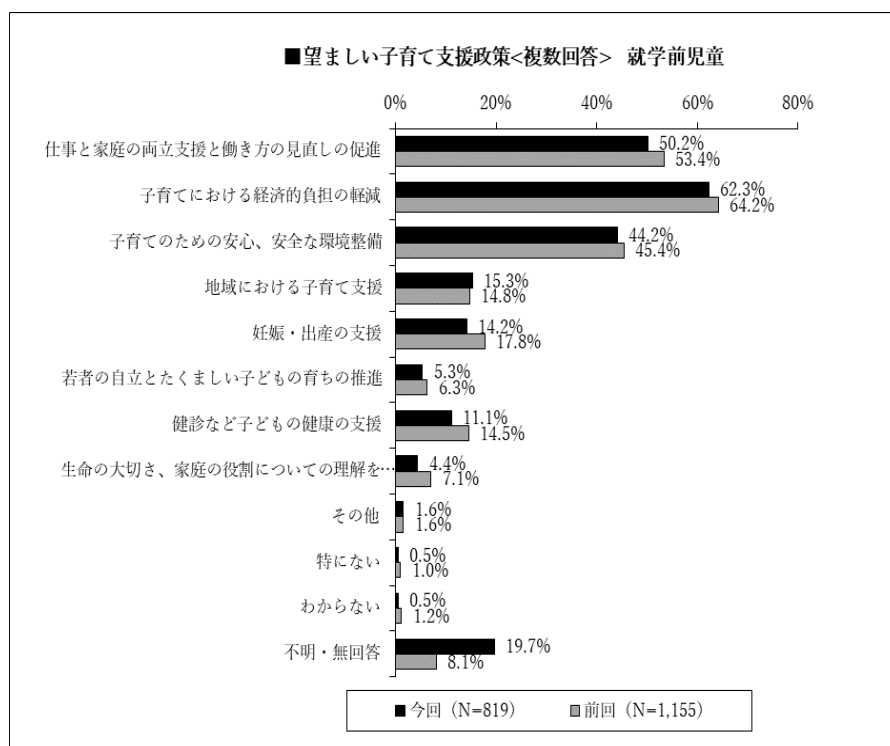
【母親】



※父親については、パート、アルバイトの方が少人数であり、統計上参考とし難いため、掲載はしていません。

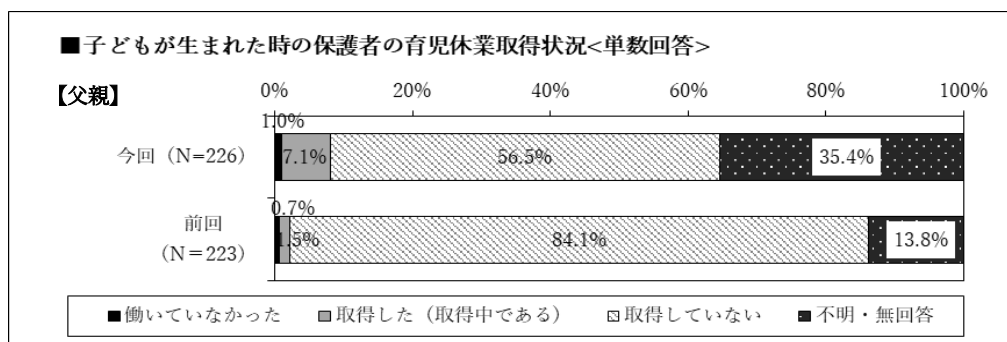
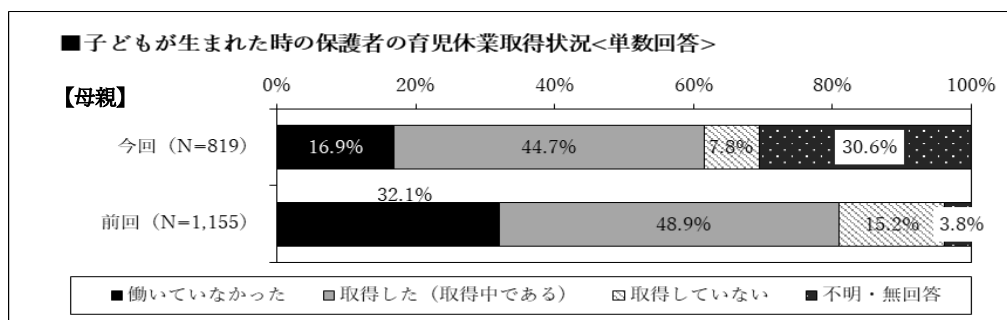
(10) 市の子育て支援政策について

望ましい子育て支援政策については、「子育てにおける経済的負担の軽減」が就学前児童・小学生児童ともに約 6 割と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立支援と働き方の見直しの促進」「子育てのための安心、安全な環境整備」等が高く、多様な政策が求められています。

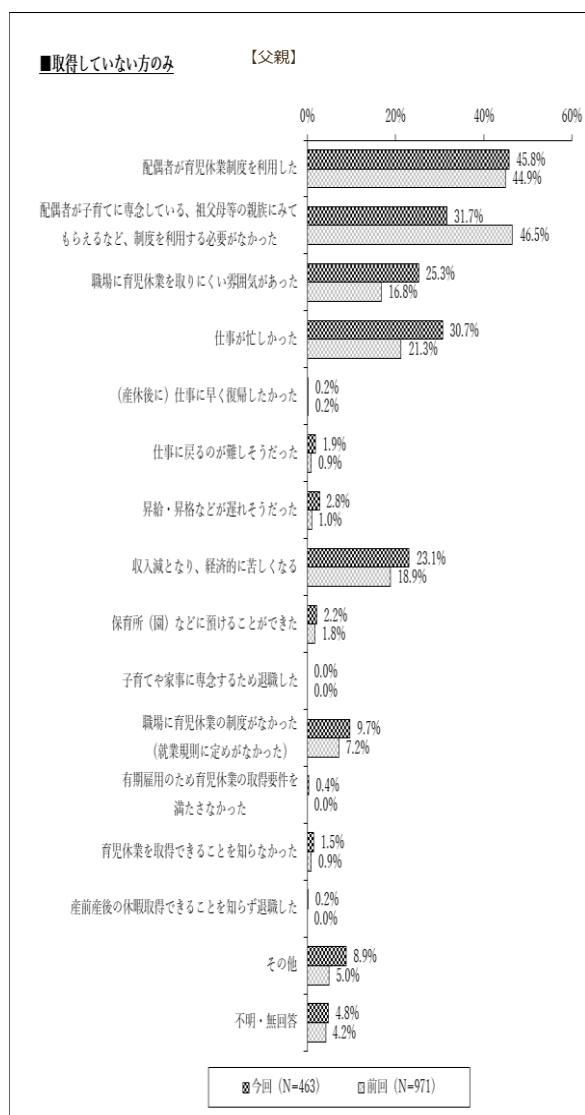
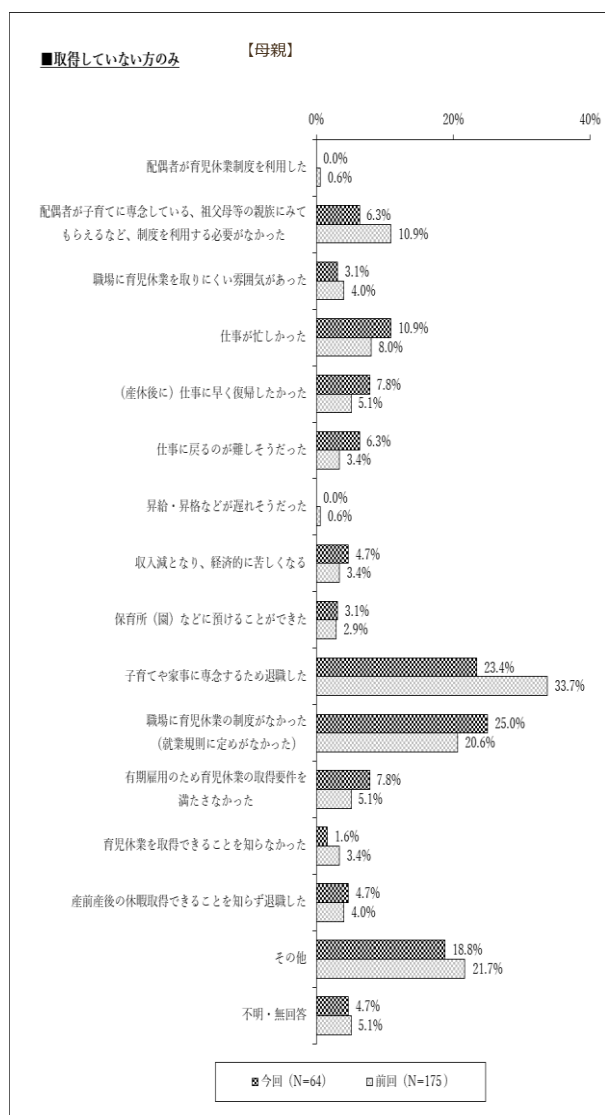


(11) 育児休業について

就学前児童で、子どもが生まれた時の保護者の育児休業取得状況について、母親では「取得した」が44.7%、父親では「取得していない」が56.5%と、それぞれ最も高くなっています。前回調査と比べると、「取得した」が母親では4.2ポイント減少し、父親では5.6ポイント増加しています。

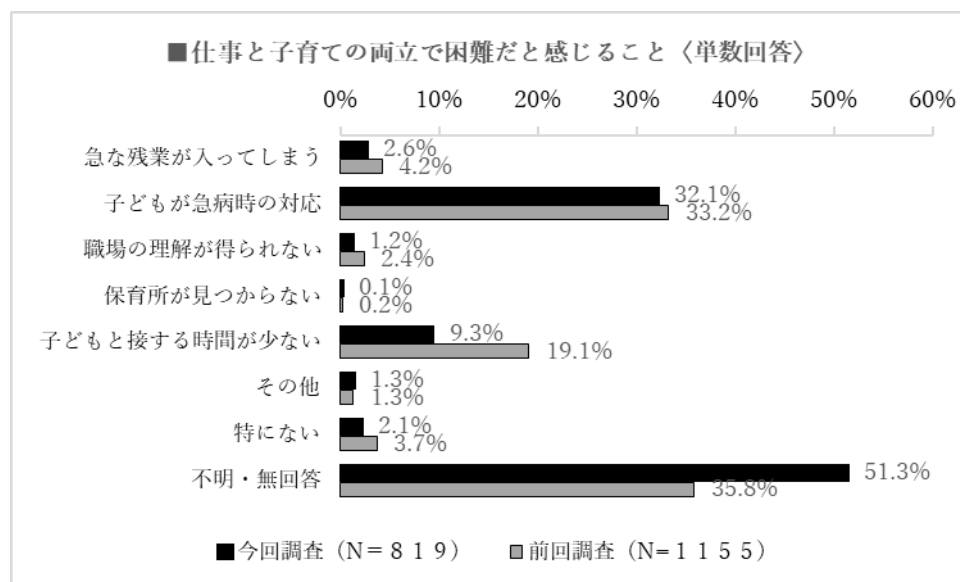


就学前児童で、育児休業を取得していない理由については、母親では「職場に育児休業の制度がなかった」が 25.0%と最も高く、次いで「子育てや家事に専念するため退職した」が 23.4%となっており、前回調査と比べると 10.3 ポイント減少しています。父親では「配偶者が育児休業制度を利用した」が 45.8%と最も高く、次いで「配偶者が子育てに専念している、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が 31.7%となっており、前回調査と比べると 14.8 ポイント減少しています。また、「職場に育児休暇を取りにくい雰囲気があった」が 25.3%、「仕事が忙しかった」が 30.7%で、それぞれ前回調査と比べ 8.5 ポイント、9.4 ポイント増加しています。



(12) 仕事と子育ての両立について

就学前児童で、仕事と子育てを両立する上で大変だと感じることにについては、「子どもが急病時の対応」が 32.1%と最も高くなっています。次いで「子どもと接する時間が少ない」が 9.3%で、前回調査と比べると 9.8 ポイント減少しています。



(13) ニーズ調査のまとめ

①すべての子育て家庭へのきめ細かな支援の充実

子育ては父母同居で、近くに祖父母等の親族が住んでいる家庭が多い一方、親族や知人の協力を得られにくい、また、身近に相談できる相手がいないなど、子育てに何らかの不安や悩みを感じている家庭が少なからずある状況がうかがえます。

更に、社会環境の変化を背景に父母ともにフルタイムでの就業が多く、特に就学前児童のいる家庭において母親のフルタイム就労率が高くなっているなど、子育て家庭の価値観やライフスタイルは多様化しています。

すべての子育て家庭が不安や負担を抱え込まずに安心して子育てができるよう、それぞれの子育て家庭のニーズに応じたきめ細かな支援が求められています。

②子育て家庭のニーズに応じた教育・保育の充実

平日に利用している事業について、就学前世帯では認定こども園や保育所が多く、延長保育や土・日曜日の利用を望む声も多くあります。また、地域子育て支援拠点事業(地域子育て支援センター等)の利用を望む声も一定数あります。

小学生世帯では、自宅や習い事をして過ごす家庭が多い一方、放課後児童クラブを利用している家庭も多くあり、小学4年生以降の放課後の過ごし方について、放課後児童クラブ

の利用を望む声が多くなっています。放課後児童クラブに対しては、現状での運営を望む声が多いですが、利用時間の延長や指導内容の工夫、施設・設備の改善、また対象児童の条件緩和などの要望もあります。

教育・保育事業や子育て支援事業については、現在の利用状況だけでなく、今後の利用意向も踏まえたうえで、適正な量の見込みを行う必要があります。

③地域ぐるみの子育て支援の充実

近所や地域の人々との付き合いがある家庭は半数に減少し、あいさつや声かけ程度の付き合いしかしていない家庭が多くなっているほか、特に小学生の地域のスポーツ活動への参加など、地域の催しへの参加率が全体的に低くなっており、地域内での関わりが希薄になってきていることがうかがえます。

子どもの育成を支援するため、地域は子どもの安全確保に取り組める、あいさつなどの声かけや子どもをほめたりしかったりできる、自然体験や社会体験など様々な体験ができる重要な育ちの場であるため、地域で一体となった子育て環境づくりが求められています。

また、子どもが自分たちで遊びにいける公園や天候に左右されずに遊ぶことができる場所、遊具などの充実、衛生に配慮したトイレ、授乳スペースやオムツ交換台設置のニーズは高く、近くで快適に遊ぶことができる場所の充実が求められています。

④子育てと仕事の両立支援の充実

子育てにおける経済的な負担の軽減や子育てと仕事の両立支援・働き方の見直し促進に対する要望が多く、父母ともにフルタイムでの就業を望む家庭もあります。保護者の就労希望が実現されるよう、保護者の就労をサポートする子育て支援サービスを充実するとともに、父親の育児休業取得が進んでいるものの、父母ともに育児休暇取得の推進や職場復帰サポートなど働き方改革を一層推進し、子育てしながら働きやすい職場環境づくりが求められています。また、男女ともに子育てと仕事を両立するには、職場の理解や協力も不可欠といえます。

⑤満足度の更なる向上

本市における子育て環境や支援への満足度は比較的高い状況ですが、更なる満足度の向上については、子育てにおける経済的負担の軽減、医療体制の充実、子どもが遊ぶ公園等の充実を望む意見もあることから、すべての子育て世帯が本市での子育て環境に満足されるよう、環境改善や各種制度の充実が求められています。

(14) 成果及び課題 ※第2期京丹後市子ども・子育て支援事業計画の総括

① 子育て支援事業の成果

平成27年度の子ども・子育て支援制度※創設から、保護者等への就労支援や育児負担軽減のため保育所の入所要件の緩和を進め、令和元年度の3歳児以上の幼児教育・保育料無償化や、令和5年度から市独自施策として第3子以降の保育料原則無償化を実施するなど、子育て世帯の経済的負担を支援することで、保育の利用が増加しました。また、令和6年度には認可外保育施設の第3子以降の保育料の負担軽減を目的に、助成制度を開始しました。令和2年度には完全給食を実施し、主食(ご飯)持参の保護者負担を無くすとともに、令和4年度には使用済みオムツの園所処分を実施し、保護者負担の軽減を図りました。

多様化する保育ニーズに対応するため、「保育所再編等推進計画」に基づき、保育所、幼稚園の再編を行うとともに、幼保一体化の推進、幼保連携型認定こども園への移行によって、保護者の就労等、家庭の状況に関わらず質の高い教育・保育の提供を行う環境整備を進め、令和3年度に計画を完了しました。また、保育所の民営化を進め、休日保育や延長保育時間を拡大することができました。令和4年度には保育業務支援システムを導入し、保育業務の情報化・効率化を図るとともに、保護者への連絡をスマートフォン等へ行い、保護者サービスの向上を図ることができました。

質の高い教育・保育の提供のため、教育・保育従事者の幼児教育に関する研究会等への参加、園内研修や担任会、公開保育の実施など、認定こども園、保育所の職員の交流にも継続して取り組みました。

地域子育て支援センターでは、身近な拠点で子育て相談や子育て親子の交流ができるよう、市内8か所で開設しています。より多くの方に利用してもらえるように、開放日を増やしたり、網野地域子育て支援センターでは土曜日も開所するなど、ニーズに合わせて見直し・改善を行いました。

放課後児童クラブでは、社会環境の変化により利用者数が増加傾向にある中、新たにクラブを開設したり、クラス数や定員を見直すなど待機児童ゼロを継続し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てと就労の両立を支援しました。

子育てに関する相談体制としては、従来の子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点の機能を維持したまま、令和6年度から「こども家庭センター」※を設置しました。更に、ヤングケアラー※コーディネーターを配置し、子育て支援のための相談支援体制の強化を図りました。

地域の子育て環境の整備として、令和3年度に「子育て環境支援設備整備事業補助金」制度を設け、市内の事業所等に対して授乳やオムツ替え等設備の整備に要する経費を助成しました。令和4年度からは「子育て応援プロジェクト補助金」として制度を拡充し、子育て支援活動を行う団体等に対して活動していくための経費を助成しました。

② 子育て支援事業の課題

就学前教育・保育については、「京丹後市保育所再編等推進計画」及び「第2次京丹後市

保育所再編等推進計画」に基づき、社会環境の変化及び多様なニーズ、低年齢児保育の利用増に対応してきました。今後、更に低年齢児保育の利用増や、保育ニーズの多様化が見込まれる中、保育士の確保が課題となっています。

延長保育事業は 15 か所で実施しており、保護者の状況やニーズに応じた柔軟な受け入れを図っています。休日保育事業は 4 か所で実施し、多様化するニーズに対応しています。

夜間保育事業やトワイライトステイは現在未実施となっていますが、保護者の状況やニーズに応じ、ショートステイ等他の事業と合わせて対応を図っています。ショートステイについては、今後もニーズがあることから緊急時に対応できる体制確保が必要です。

放課後児童クラブは11か所で実施しており、社会環境の変化により今後も多くのニーズが見込まれることから、指導員の確保及び施設の確保・整備が課題となっています。

病児・病後児保育事業は、現在は病後児保育のみ実施しておりますが、利用人数が少ないため、情報提供や周知が必要です。また、病児保育の実施について検討していきます。

一時預かり保育事業は 10 か所で実施しており、保護者のニーズがあることから、今後も提供体制を維持していくことが必要です。

ファミリー・サポート・センター事業については多くの利用はないものの、上記の事業では対応ができない細かなニーズに対応できる事業であるため、今後も援助会員の確保等、提供体制を維持していくことが必要です。

地域子育て支援センター事業は8か所で実施しており、親子の身近な居場所として重要度及び満足度の高い事業であることから、今後もより良い環境整備を進めていきます。

「こども家庭センター」※は、地域資源の把握や発掘・開拓を通じて子育て支援施策を拡充し、必要な支援につなげることが課題です。

③ その他事業の課題

子育てに関する情報提供については、「広報紙(広報きょうたんごやおしらせ版)」「子育て応援ハンドブック(キッズナビ)」や各種パンフレットを通じて行っています。また、市ホームページでは、子育てに関する情報を集約した「子育て応援サイト」を設けるとともに、市の公式LINE を開設し、ホームページに誘導することでより積極的な情報発信を行っています。今後も、子育て世代のニーズに沿った、更にきめ細かでタイムリーな発信に努めていきます。

虐待や DV※等の深刻な課題を抱える家庭の早期発見・早期対応については、要保護児童対策地域協議会※や教育支援センター「麦わら」等の関係機関と連携した対応を図っています。虐待については、相談件数や地域からの通告も増加しており、今後も情報を共有し、関係機関が一丸となった取り組みが重要です。

Ⅱ 用語解説

Ⅲ 策定経過